

芽室町の中心街活性化に関わる調査報告書

2015年10月20日

北海道情報大学経営情報学部先端経営学科

遠藤雄一研究室

山中 淑愛 (4章、5章担当)

神谷 雄斗 (6章担当)

橋本 一希 (2章、3章担当)

平野 貴規 (7章担当)

深谷 華代 (8章担当)

山沢 琴美 (1章担当)

山田 雅俊 (取材協力)

渡部 将輝 (取材協力)

[目次]

第1章	調査報告書を作成するにあたって	1
第2章	国勢調査とそれに関する調査報告	5
第3章	インターネット等を利用した調査報告	19
第4章	芽室町住民に対するアンケート調査と それに関する調査報告	36
第5章	まちなか縁側プロジェクトについて	88
第6章	大麻地区との比較	111
第7章	芽室町にて行った視察からの報告	119
第8章	本報告書の整理と提案	132
付属資料	(アンケート調査票等)	139

第1章 調査報告書作成するに当たって

北海道情報大学の遠藤ゼミでは、消費者行動研究やマーケティング・リサーチの領域から、買い物弱者、商店街活性化、そして地域ブランドに関する調査・研究を行っている。

今日、郊外に大型店が進出することにより、各地で商店街が衰退してしまい、町中に活気がなくなりつつある。以前はどこの街でも、商店街があることで町中が賑わい、活気のある町並みが確かにあったはずだ。しかし、今ではそういった光景をみることは少なくなってしまう。調査を行った私たち自身の生まれ育った地域でも、商店街が衰退するといった状況に陥っており、こういった商店街をどうにか活性化させることはできないのか、ということがゼミ活動の中で話題に上がった。

そこで今回、当ゼミ所属の学生で帯広市出身の学生が複数名いたという縁もあり、帯広市の隣町である芽室町に目を向け、芽室町の商店街活性化のための調査に取り組むこととなった。

私たちの多くは、芽室町という町の存在自体をほとんど認識しておらず、どのような町なのか、特産品は何であるのか、といった知識がほとんど無かった。しかし、少し調べてみると、あらゆるホームページが見つかり、そこから芽室町がどのような町であるのか、ということが見えて来た。そして、商店街の活性化のために、“まちなか縁側プロジェクト”という活動を行っているということを知ることとなった。また、無くなってはしまったが以前は“ミニFM”というものもあった。このように、商店街を活性化させるために様々な取り組みを行ってきたことが見て取れたが、まだまだその取り組みは思うように成果が出ていないということもわかった。だが、資料から見て取れるだけで商店街活性化のためにこんなにも様々な取り組みを行い、こんなにも力を入れているということがわかる芽室町とは一体どういった町であるのか、芽室町に住む人々はいったいどのような人であるのかということが、次第に気になった。芽室町のことを調査・分析し、様々なことを知ることによってどんどん芽室町に対して興味が沸き、実際に見たいという思いがより一層増した。

そこで、芽室町の中心市街地及び商店街の活性化、そしてこれらと地域住民とをどのように結び付けるのかを考察するため、平成27年9月9日から9月12日の4日間に渡り、北海道情報大学経営情報学部先端経営学科の遠藤ゼミ所属の学生で芽室町を視察するに至った。

視察をし、芽室町を知るにつれて、“事前調査で知った芽室町”と“実際に訪れて見た芽室町”の姿は全く異なるものであることがわかった。事前調査でGoogleマップを利用して町並みを見ていたということもあり、一度も足を運んだことのない芽室町を知ったつもりになっていたという部分も少なからずあった。しかし、町の雰囲気や住民の方々の温かさといったものは、実際にその地を訪れることでしか知ることができないものであり、映像や資料などの情報からは決して得ることはできないものであるということ強く実感させられた。私たちが取材すると、商店街の方をはじめとし、快く取材に答えて下さる方が多

く、非常に嬉しく思った。また、別の場所で住民に取材をしている私たちの姿を見た、ということから自ら話し掛けて下さる方もおり、協力的な方が多く感謝すると同時に、温かい方の多い町だと感じた。正直、外から来た私たちをここまで受け入れてくれるとは思っていなかったため、非常に驚いた。そして、取材をしていて感じたことであるが、芽室町の方は、自分たちの住む町に対して、しっかりとした考えを持っている人が多いという印象を受けた。こういった方たちの住む町であるならば、芽室町はきっと活性化できるはずである。こういった住民の方たちのお話を聞くにつれて、私たちも芽室町の商店街の活性化に貢献したいという思いがより一層強まった。

また、今回の視察では“食べる”ということも私たちの目的の一つであり、料金を見て食べるのではなく、芽室町の美味しい料理を食べるということに重点を置き、多くの飲食店に足を運んだ。学生である私たちの普段の生活からは、料金を意識せずに外食するというのは考え難いことではあるが、コーンチャーハンをはじめ、焼肉やピザなど、芽室町産の食材を使用した料理を中心に食べて来た。コーンチャーハンを実際に目にするのは初めてであり、口にする前は一般的なチャーハンで十分だ、コーンなど必要ない、と考えていたが、食べてみるとその考えも変わった。好きな人も多くいるのではないかと感じた。他の飲食店もそうであるが、どのお店も非常においしく、また訪れたいと思う店ばかりであった。近隣の町に住む人でも、訪れる価値のあるお店も多々あるように感じた。しかしながら現状では、すぐ隣である帯広市に住む住民にですら広くは知られていない。だが、訪れたことがないというのはもったいなく思った。

そして、私たちが視察の際に宿泊した“めむろ新嵐山スカイパーク”だが、ここで私たちはパークゴルフを行った。クラブやボールは、通常レンタル料金がかかるようだが、宿泊した場合はこのレンタル料金がかからず、パークゴルフを無料で楽しむことができる。しかし、このレンタル料が無料という情報は、ホームページに記載がなかった。こういった情報を発信するだけでも、めむろ新嵐山スカイパークを利用してみようと足を運ぶ人が増えるはずである。

こういったことから、芽室町は町の良いところを周知できていないだけで、良いものは多く持っていることがわかった。これを芽室町の住民はもちろん、町外の人にも上手く周知させることができれば、商店街の活性化及び、商店街と地域住民とを結びつけることができるはずであると感じた。

今回私たちが行った調査は、事前調査と現地視察に分けられる。事前調査では、まちなか縁側プロジェクトによるアンケート分析をはじめ、役場のホームページや観光に関するweb サイトといったインターネット上のあらゆるホームページ、SNS、国勢調査といったものを参照し情報収集を行った。現地視察では、実際に商店街の中を歩き、店舗への訪問・取材、商店街を行きかう町民の方に取材を行うといったことをした。また、町民の方々の目線に立つために、駅を拠点とし実際に食料品購入に利用すると考えられる大型店へも足を運び、実際に見て来た。さらに芽室町のコミュニティバスであるじゃがバスに乗り、

車内で利用者の方々に取材するといったことも行った。

本報告書は8つの章で構成されている。

1章では、これまでに述べてきたように本報告書作成するに当たっての視察背景や目的を述べている。

2章では、国勢調査とそれに関する調査報告を記述する。国勢調査は総務省統計局が5年ごとに行っているものであり、今回の分析では平成12年、平成17年、平成22年のものを使用した。人口、高齢化率、15歳以下の人口、世帯数といったデータから、芽室町の各ブロック別に比較している。

3章では、国勢調査以外のインターネットや資料からの情報を利用した調査報告を記述する。芽室町の商店街について、そして以前芽室町にミニFMがあったということから、他の街でのミニFMの成功例を挙げている。

4章では、平成27年2月23日から3月10日の間、芽室町民の方の中から無作為抽出で回答して頂いた、まちなか縁側プロジェクトによるアンケート分析結果を述べている。アンケート内容は主に、芽室町民の方の芽室町に対しての意識、生活購買意識、健康観であり、これらをT検定を用いて性別、年代、世代などの属性別に差が見られるかを分析している。T検定については4章で触れている。

5章では、同アンケートからまちなか縁側プロジェクトを認知している人としていない人との差の分析結果を述べている。分析手法は同じくT検定を用いている。

6章では、同時期に実施した江別市にある大麻銀座商店街のアンケート結果と本調査で用いている同アンケート結果から、江別市大麻地区と芽室町の比較を述べている。江別市大麻地区は、同時期に遠藤ゼミが同じくアンケート分析を行っていたこと、そして規模が似ている町同士であるといった点から、比較する上で有効であると考えられるため比較対象として取り上げた。比較することにより、芽室町民と他の町民との意識や満足度の差から、芽室町に足りないこと、住民が求めていることを考察した。

7章では、私たちが事前調査から得ていた情報と実態との違い、現地視察で発見された新たな改善点などを述べている。私たちが視察時に取材で得た住民の方の声を基に、芽室町住民の方が求めていることは何であるのかを考察している。また、私たちが視察時の宿泊に利用しためむろ新嵐山スカイパークのさらなる周知、及び利用者増大に向けた提案も述べている。

8章ではこれらの1~7章のまとめ、そして分析や視察を通してわかったことから、芽室町の商店街活性化に向けて私たちからの提案を述べている。実現可能な範疇での提案ではあるが、コストや人手を要するものもある。しかし、その全ては芽室町を活性化させるための提案であるので、是非ともご検討頂きたい。

今回、本報告書を作成するにあたり、多くの方々のお力添えを頂いた。梅森さんをはじめとする芽室町役場の皆様には、芽室町に滞在した4日間、私たちの視察に同行して頂き献身的なサポートをして頂いた。武藤さん、坂本さんをはじめとするまちなか縁側プロジ

ェクトの皆様には、意見交換の場を設けて頂いた。また商店街の皆様、じゃがバスの運転手さん、そして芽室町民の皆様には、私たちの取材に協力して頂き、多くの声を頂いた。ご協力頂いた様にこの場をお借りして感謝の言葉を述べさせて頂きたい。

そして最後に、本報告書が芽室町の更なる発展に役立てて頂けると幸いだ。

第2章 国勢調査とそれに関する調査報告

この章では主に総務省統計局が5年ごとに行っている国勢調査のデータとそれに関するデータを収集して事前に調査した内容について報告する。調査した内容は人口、高齢化率、15歳以下の人口、世帯数、自家用車についてである。

2-1 芽室町の人口について

ここでは国勢調査の人口等基本集計を元に芽室町の人口を年代別、男女別で割り出し平成12年、17年、22年のデータを比較しながら報告する。また、人口の推移に関して増田寛也氏の著書「地方消滅 東京一極集中が招く人口増減」の中の将来人口と若年女性人口予測から見る自治体消滅の可能性についても参考としてここで記載する。

(1) 年齢別・男女別人口

芽室町全体の人口は17,586人、平成17年時点では18,300人、平成22年の段階で18,905人と12年から17年の5年間で714人、17年から22年の5年間で605人の人口が増加し

	平成12年	平成17年	平成22年
総数	17,586	18,300	18,905
0～4歳	887	982	930
5～9	1,012	993	1,091
10～14	1,098	1,044	1,059
15～19	974	840	864
20～24	811	750	598
25～29	1,093	1,026	891
30～34	1,121	1,318	1,188
35～39	1,243	1,207	1,460
40～44	1,135	1,295	1,275
45～49	1,324	1,136	1,314
50～54	1,370	1,321	1,139
55～59	1,070	1,385	1,342
60～64	1,142	1,075	1,387
65～69	1,039	1,114	1,062
70～74	883	988	1,052
75～79	597	802	931
80～84	398	511	693
85～89	240	310	389
90～94	108	150	171
95～99	36	44	52
100歳以上	5	7	11
不詳	0	2	6

図表 2-1 芽室町の5歳ごと年齢別人口

ていることがわかった。1年代別に見てみると平成12年から平成22年にかけて芽室町の人口はほとんどの年代で増加傾向にあり、70歳以上の高齢者の人口が増加していることがわかる。²

また、男女別に人口を見てみると芽室町は女性の人口が800人あまり多い。平成12年からこの差はほとんど変わっておらず、男女ともほぼ均等に増加している。

	平成12年	平成17年	平成22年
男性	8,415	8,751	9,023
女性	9,171	9,549	9,882
総数	17,586	18,300	18,905

図表 2-2 男女別人口

(2) 地区ごとの人口

次に芽室町の市街地を区分しているブロック、行政区(町内会)ごとに人口を比較していく。まず、ブロックごとの人口について報告する。ブロックは芽室町市街地を東、西、中央東、中央西、南の5つのブロックに分けた地域区分であり、今回行ったアンケート調査もこのブロックごとに集計している。³図表2-3は、平成22年の国勢調査からブロックごとの人口を出したものである。最も人口が多いのは南ブロックであり、次点で東ブロックが僅差の数で人口が多くなっている。逆に人口が少ないのは西ブロックや中央西ブロックと町の西側が人口の少ない地域になっているため、町の人口に偏りがあることがわかる。

ブロック	総数	東	西	南	中央東	中央西	農村部
男性	9,023	1,796	861	1,817	1,407	940	2,202
女性	9,882	1,998	1,017	1,992	1,577	1,066	2,232
総数	18,905	3,794	1,878	3,809	2,984	2,006	4,434

図表 2-3 ブロックごとの人口

また、芽室町の市街地に48ヶ所存在している行政区ごとの人口は図表2-4のようになっている。行政区の中で最も人口が多いのは弥生中央町で966人とほかの行政区に比べて一際多くの人住んでいる。芽室町のほとんどの行政区は100人以上の人口が住んでおり、500人以上が住んでいる行政区は7つある。しかし、100人以下の行政区も7つあり、本町では30人、元町で27人と一番多い弥生中央町と比べると30倍近くの差があり、芽室町には様々な規模の行政区が存在していることがわかった。

¹ 「総務省統計局 国勢調査人口基本集計 北海道 3-2 表(平成12.17.22年分)」(平成27年6月15日)を参照

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Csvdl.do?sinfid=000012460739>

http://www.estat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_xlsDownload_&fileId=000000036BBE&releaseCount=5

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Xlsdl.do?sinfid=000000030062>

² 平成12年の時点では現在の東芽室地区は芽室町市街地に組み込まれておらず、データに入っていない。

³ ブロックの詳細については第4章のアンケート結果と合わせて報告する。

地区	総数	地区	総数	地区	総数	地区	総数
弥生中央町	966	弥生北町	421	南町	292	幸町	150
青葉東	685	西町	413	緑町東	278	寿町	148
愛生町	681	南が丘東	388	東めむろ第四	266	日甜	114
錦町	600	南が丘	379	旭町	254	栄町	113
弥生西町	542	南が丘西	361	五条町	243	東町	106
青葉西	541	緑町西	359	泉町	227	西工町	76
東めむろ第三	509	東栄東	346	花園町西	211	中央町	68
陸町	499	麻生町	339	泉町東	204	曙町	54
東めむろ第二	498	東栄西	337	柏木町	203	花園町中央	44
一心町	454	東めむろ第一	329	新工町	191	花園町東	41
西園町	438	錦町西	328	北町	164	本町	30
美園	425	桜木町	296	大町	158	元町	27

図表 2-4 行政区ごとの人口

(3) 2040年の芽室町の将来人口予測と消滅可能性

平成26年に中公新書から出版された増田寛也の「地方消滅 東京一極集中が招く人口増減」によると、芽室町の人口予測は2010年18,905人の人口から三十年後である2040年には17,498人まで減少するとされている。⁴図表2-5は十勝管内の将来人口を予測したもの

	総人口		若年女性人口		若年女性人口変化率
	2010年	2040年	2010年	2040年	
芽室町	18,905	17,498	2,089	1,502	-28.1
帯広市	168,057	125,783	20,750	10,422	-49.8
音更町	45,085	45,413	5,486	4,535	-17.3
幕別町	26,547	22,174	2,702	1,826	-32.4
清水町	9,961	6,345	885	439	-50.4
本別町	8,275	4,099	612	249	-59.3
広尾町	7,881	4,528	652	248	-62.0
足寄町	7,630	3,895	597	265	-55.7
池田町	7,527	3,890	569	198	-65.2
士幌町	6,416	3,927	636	218	-65.8
新得町	6,653	3,760	595	211	-64.6
大樹町	5,977	3,575	574	274	-52.3
鹿追町	5,702	3,892	599	283	-52.8
浦幌町	5,460	2,355	398	137	-65.5
上士幌町	5,080	2,795	471	153	-67.6
中札内村	4,006	2,890	402	224	-44.4
更別村	3,391	2,750	313	178	-43.2
豊頃町	3,394	1,490	269	79	-70.5
陸別町	2,650	1,097	193	52	-72.8

図表 2-5 十勝管内の将来人口と若年女性人口予測¹

⁴増田寛也編著(2014)『地方消滅 東京一極集中が招く人口増減』中公新書 208～212頁から出典。

である。ここから、芽室町の将来の人口減少割合は比較的少ないものだということがわかる。さらに、将来自治体として市町村が消滅する要因になりえる若年女性人口の変化率も-28.1%と他の市町村と比べても小さく、消滅する可能性が高いとされる-50%よりも低い結果となっている。

(4) まとめ

芽室町の人口の特徴には特段ほかの町と比べても大差がなく、強いて言えば較的若年層の比率が多いことがわかった。しかし、65歳以上の人口の増加から見るに昨今の少子高齢化の波は芽室町にも少しずつ影響を及ぼしているとも考えられる。40年後の芽室町の人口予測を出し地方消滅の確立が低いことを紹介したが、芽室町の40年後は今より高齢化が確実に進んでいることはほぼ間違いないだろう。それを踏まえ次の節では現状芽室町の高齢化がどれほど進行しているのか、また高齢化の進んでいる地域はどこなのかを詳しく報告していく。

2-2 芽室町の高齢化について

ここでは前節の人口から芽室町の高齢化率を地区ごとに割り出し、高齢者の集中している地域やブロックごとの割合の比較について報告する。

(1) 芽室町の高齢化率について

前節と同じように国勢調査の人口等基本集計結果の芽室町の各年齢の人口から芽室町の高齢化率を割り出した結果、平成22年の芽室町の65歳以上の人口は4,361人で芽室町全体の人口の23.1%である。平成12年の時点で芽室町の高齢化率は18.8%、平成17年の時点では21.5%だったことから芽室町も他の町にもれなく高齢化が進んでいると言える。

	平成12年	平成17年	平成22年
総数	17,586	18,300	18,905
65歳以上	3,306	3,926	4,361
高齢化率	18.8%	21.5%	23.1%

図表 2-6 芽室町の高齢化率

しかし、芽室町の高齢化率は特段高いわけではない。平成22年の北海道全体の高齢化率は24.7%で、十勝管内の市町村の高齢化率の平均は27.4%である。むしろ、芽室町の23.1%という数字は北海道の各市町村の高齢化率を比べると179市町村中160番目にあたるため、北海道の他の市町村と比べると高齢者の割合は高いというよりは低い位置にあると言えるだろう。

(2) 芽室町の地区ごとの高齢化率

次に芽室町内の地区ごとの高齢化率を考察していく。図表 2-7 は芽室町のブロックごとに高齢化率を出したものである。この表から、平成 22 年の時点では中央西ブロックが 24.7%と最も高齢化率が高い値になっている。しかし、平成 17 の時点では中央東ブロックが 32.3%と非常に高い高齢化率がでていたが平成 22 年には 22.3%まで低下している。これは、もともと曙町や北町の高齢化率の高い中心部の町に市街地地域として東めむろが導入され若年層の流入により高齢化率が相対的に低下したものと考える。このため中央東ブロックでは高齢者と若年層の割合が両方共高い地域ということがわかる。また、市街地とは別に芽室町の農村部の高齢化率は平成 17 年 24.2%から 27.8%まで増加しており平成 22 年には市街地で最も高齢化率の高い中央西ブロックよりも高い割合がでていた。

	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年	
	高齢者人口	高齢化率	高齢者人口	高齢化率	高齢者人口	高齢化率
全体	3,306	18.8	3,926	21.5	4,361	23.1
東	512	15.8	707	19.6	893	23.5
西	343	15.7	383	18.4	375	20.0
南	457	12.2	615	16.2	702	18.4
中央東	472	30.6	608	32.3	664	22.3
中央西	355	17.8	440	21.3	496	24.7
農村部	1,167	23.9	1,173	24.2	1,231	27.8

図表 2-7 ブロックごとの人口と高齢化率

また、図表 2-8 は町内会ごとの高齢化率を高い順に並べたものである。一番高齢化率が高いのは曙町で 50.0 %、次点で北町の 48.2%、元町の 44.4%と続いている。逆に高齢化率の低い地域は東めむろ第一から第四や花園町東で、高齢化率が 10%未満の地域である。

このことから、高齢化率が高い地域が芽室町の中心地に集中していることがわかる。逆に高齢化率の低い行政区は花園町や南が丘、東めむろ地区など図表 2-7 のように南ブロックと中央東ブロックのような高齢化の低いブロックにある行政区が挙げられている。なお、114人が住む日甜は日本甜菜製糖株式会社の工場がある行政区で会社の中で1つの町内会が形成されており、会社の社員により構成されていることから 65 歳以上の高齢者がいないと予測される。

地区	総数	高齢者人口	高齢化率	地区	総数	高齢者人口	高齢化率
曙町	54	27	50.0%	南町	292	83	28.4%
北町	164	79	48.2%	錦町	600	170	28.3%
元町	27	12	44.4%	桜木町	296	81	27.4%
柏木町	203	83	40.9%	青葉東	685	184	26.9%
幸町	150	61	40.7%	大町	158	41	25.9%
錦町西	328	126	38.4%	青葉西	541	134	24.8%
東町	106	39	36.8%	陸町	499	118	23.6%
本町	30	11	36.7%	五条町	243	56	23.0%
東栄東	346	124	35.8%	愛生町	681	156	22.9%
弥生西町	542	1	35.8%	一心町	454	101	22.2%
泉町東	204	73	35.8%	麻生町	339	75	22.1%
西工町	76	27	35.5%	弥生中央町	966	210	21.7%
栄町	113	40	35.4%	西町	413	80	19.4%
花園町西	211	73	34.6%	南が丘	379	71	18.7%
寿町	148	49	33.1%	東栄西	337	55	16.3%
弥生北町	421	139	33.0%	東めむろ第三	509	74	14.5%
緑町東	278	87	31.3%	南が丘東	388	55	14.2%
泉町	227	71	31.3%	南が丘西	361	47	13.0%
新工町	191	59	30.9%	東めむろ第二	498	47	9.4%
旭町	254	77	30.3%	東めむろ第一	329	27	8.2%
緑町西	359	107	29.8%	東めむろ第四	266	19	7.1%
西園町	438	130	29.7%	日甜	114	0	0.0%
中央町	68	20	29.4%	花園町中央	44	0	0.0%
美園	425	121	28.5%	花園町東	41	0	0.0%

図表 2-8 行政区ごとの高齢化率

(3) まとめ

芽室町の高齢化は全体やブロックごとの数値を見てもさほど酷く進行しているようには見えない印象を受けた。しかし、芽室町は5年間で約2%ずつとはいえ高齢化が進行しており、芽室町でも人口の分布が多い50~65歳の年齢の町民がこれから高齢者となれば芽室町の高齢者の割合は今よりもずっと早い速度で増加していくことが予測される。また、現時点でも町内会によっては高齢者の非常に多い場所も存在しており、これから町内会としての機能が成立していくのかが不安視される。現時点では多くはない高齢者の割合だが、これから先さらに悪化するであろう高齢社会に向けて高齢者を尊重した街づくりも必要となってくるはずである。

2-3 芽室町の15歳未満の人口と全体との割合

ここでは、中学生以下(15歳未満)の子ども的人口と芽室町におけるその割合を報告する。前節で高齢化率について報告したが、15歳未満の町民の人口の割合を出し芽室町に住む子どもとその子どもと暮らす子育てを行なっている世帯が町にどれほど影響を与えるのかを

考える。

(1) 15歳未満の人口の割合

芽室町の15歳未満の人口は平成12年に2,997人、平成17年には3,019人、平成22年には3,080人と少しずつだが増加はしている。しかし、全体の人口との割合を見てみると、10年間で若干だが減少しつつある。前節で述べた高齢化についてもそうだが、あまり大きな変化はないが芽室町も少子高齢化の煽りを受けていると感じる。

また、ブロックごとに15歳未満の割合を出したところ最も15歳以下の人口の割合が多いのは中央東ブロックの20.4%である。さらに、中央東ブロックは平成12年の時点だと12.9%の割合しかなく、10年間の伸び率も一番高い。これは、4節で述べる中央東ブロックの世帯数の増加と同じく、東芽室の市街化区域への導入によって新しく東芽室に入居したであろう家族世帯の影響で15歳以下の人口が伸びたと思われる。

	平成12年		平成17年		平成22年	
	15歳未満人口	15歳未満割合	15歳未満人口	15歳未満割合	15歳未満人口	15歳未満割合
総数	2,997	17.0%	3,019	16.5%	3,080	16.3%
東	515	15.9%	620	17.2%	588	15.5%
西	370	17.0%	288	14.0%	262	14.0%
南	822	21.9%	758	19.9%	631	16.6%
中央東	199	12.9%	224	11.9%	610	20.4%
中央西	314	15.7%	328	15.9%	308	15.4%
農村部	777	15.9%	801	16.4%	681	15.4%

図表 2-9 芽室町の15歳未満の割合

また、行政区(町内会)ごとの15歳未満の人口割合を比較すると図表2-10のようになった。割合が大きい地域の上位は東芽室の4つの行政区が占めていることから東めむろ地区の15歳未満の割合が他の地区と比べて非常に高いことがわかる。これも東めむろのニュータウン開発の影響が出ていると思われる。

地区	総数	15歳未満人口	15歳未満割合	地区	総数	15歳未満人口	15歳未満割合
東めむろ第四	266	83	31.2%	東栄東	346	45	13.0%
東めむろ第二	498	150	30.1%	錦町	600	78	13.0%
東めむろ第一	329	96	29.2%	西町	413	53	12.8%
東めむろ第三	509	132	25.9%	南が丘西	361	45	12.5%
花園町東	41	10	24.4%	一心町	454	56	12.3%
弥生中央町	966	192	19.9%	弥生北町	421	51	12.1%
新工町	191	36	18.8%	西工町	76	9	11.8%
花園町中央	44	8	18.2%	美園	425	49	11.5%
東栄西	337	61	18.1%	旭町	254	29	11.4%
泉町	227	41	18.1%	南が丘東	388	44	11.3%
日甜	114	20	17.5%	錦町西	328	36	11.0%
栄町	113	19	16.8%	弥生西町	542	57	10.5%
愛生町	681	114	16.7%	西園町	438	45	10.3%
麻生町	339	56	16.5%	幸町	150	15	10.0%
南町	292	45	15.4%	緑町東	278	27	9.7%
花園町西	211	32	15.2%	曙町	54	5	9.3%
中央町	68	10	14.7%	北町	164	15	9.1%
青葉西	541	79	14.6%	緑町西	359	31	8.6%
大町	158	23	14.6%	東町	106	9	8.5%
桜木町	296	43	14.5%	寿町	148	12	8.1%
南が丘	379	52	13.7%	本町	30	2	6.7%
五条町	243	33	13.6%	柏木町	203	10	4.9%
青葉東	685	90	13.1%	泉町東	204	10	4.9%
陸町	499	65	13.0%	元町	27	0	0.0%

図表 2-10 行政区ごとの 15 歳未満の割合

(2) まとめ

芽室町に住む 15 歳以下の子どもの割合は少子高齢化とはいえど少なくはなく、特に東めむろの新興住宅街に住む子どもの割合は約 3 割と非常に多い数が住んでいることがわかった。また、これだけの子どもが芽室町に住んでいるということはほぼ同等の数の子育て家庭が存在しているということになる。現在は都市部に移住する若い世代が増え、地方は過疎化の一途をたどる自治体が多い中、芽室町に住む若い世代は貴重でありこれからの芽室町を支えてくれる存在であることは間違いない。このような若い世代に対して芽室町を自分たちの故郷として認知させ、愛着をもってもらうことで芽室町の将来を担う人材を養うことができるだろう。

2-4 芽室町の世帯・住居について

ここでは国勢調査から芽室町の世帯について調査し、芽室町の世帯形態や住宅形態の構成について報告する。芽室町は農業が盛んであり、町内には農業従事者を中心に町内で働き、居住している人が多数いる。しかし、近年では町のニュータウン開発が進み他市町村

に住んでいた住民が芽室町に移住して芽室町から他の市町村へ働きに行く町民が増え、芽室町はベッドタウンとしての側面も見せ始めている。そこで本節では、芽室町の世帯の推移やブロックごとの世帯数を比較し世帯の動向を探っていく。また、芽室町の住人の世帯構成や住居の形態もここで合わせて報告する。

(1) 芽室町の総世帯数について

この項では芽室町の世帯数について報告していく。総務省が行なっている国政調査の人口等基本集計から、芽室町の世帯数は平成 12 年に 6,051 世帯、平成 17 年に 6,623 世帯、平成 22 年に 7,089 世帯と人口の増加とともに芽室町の世帯数も増加している。⁵また、ブロックごとに平成 12 年から平成 22 年までの増減を比較するとほとんどのブロックで世帯の増加が確認できる。特に中央東ブロックの世帯数の増加幅は大きい。これは平成 12 年から計画された東芽室地区の市街化区域としての編入が進んだ影響が出ている可能性がある。逆に西ブロックでは世帯数が減少している。これは西ブロック緑町にあった公営住宅が取り壊しになったことが原因の一つになっていると予測される。

ブロック	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
東	1,215	1,398	1,531
西	847	869	796
南	1,362	1,427	1,489
中央東	596	722	1,154
中央西	777	837	858
農村部	1,254	1,370	1,261
総数	6,051	6,623	7,089

図表 2-11 芽室町の世帯数

(2) 芽室町の世帯形態について

この項では一般世帯数の分類について紹介していく。なお、前項で平成 22 年の芽室町全体の総世帯数は 7,089 世帯と報告したが、この内 9 世帯は施設等の世帯数であり、残りの 7,080 世帯が一般世帯数である。芽室町の世帯のうち 5,385 世帯が親族のみで構成されていて、親族以外が含まれる世帯は 47 世帯、残りの 1,648 世帯が単独で生活している世帯だ。さらに、芽室町の世帯のうち 4,565 世帯は核家族世帯で約 65%の世帯を占めている。

また、世代ごとに同居している世帯の数は、単独または夫婦で暮らしている 1 世代同居世帯の数は 3,481 世帯、子どもまたは親と暮らしている 2 世代同居世帯が 2,919 世帯、祖父母から孫まで暮らす 3 世代同居世帯が 576 世帯になり、1 世代のみで暮らしている世帯と両親、子どもと暮らしている世帯が大体半数の数で存在している。⁶

⁵ 「総務省統計局 平成 22 年国勢調査人口基本集計 北海道 3-2 表」(平成 27 年 6 月 15 日)を参照。
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Csvdl.do?sinfid=000012460736>

⁶ 「総務省統計局 平成 22 年国勢調査人口基本集計 北海道 10 表」(平成 27 年 6 月 15 日)を参照。
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Csvdl.do?sinfid=000012460748>

	一般世帯数
総数(世帯の家族類型)	7,080
親族のみの世帯	5,385
○核家族世帯	4,565
夫婦のみの世帯	1,833
夫婦と子供から成る世帯	2,176
男親と子供から成る世帯	77
母親と子供から成る世帯	479
○核家族以外の世帯	820
夫婦と両親から成る世帯	45
夫婦とひとり親から成る世帯	142
3世代世帯	576
兄弟姉妹のみから成る世帯	13
他に分類されない世帯	44
非親族を含む世帯	47
単独世帯	1,648

図表 2-12 芽室町の世帯形態と世帯数 (H22)

(3) 芽室町の住居形態

ここでは、芽室町に暮らす世帯の住居の形態について報告する。

平成 22 年時点で芽室町の一般世帯 7,080 世帯に対して住居に住む一般世帯は 7,035 世帯であり、残りの 45 世帯については住居に住まず寮や職場などで暮らしている世帯である。さらに、住宅を所有している持ち家世帯が 4,793 世帯、公営・都市再生機構・公社の借家に住む世帯が 719 世帯、民営の借家に住む世帯が 1,156 世帯、給与住宅に住む世帯が 305 世帯、間借りで暮らしている世帯が 62 世帯ある。芽室町の場合、持ち家世帯が借家世帯の 2 倍以上の数が存在しているため、一人あたりの住居スペースが広く確保されている推測される。また、ブロックごとにみると西ブロックや中央西ブロックは世帯数も少ないが比較的借家世帯の割合が多いように見える。特に公営・公社の借家が他のブロックより割合が多く、集中していることがわかる。⁷

住居形態の推移をそれぞれブロックで十年前のデータと比較したところ、西ブロック以外のブロックでの住居に住む世帯の増加が見てとれる。特に持ち家に住む世帯はすべてのブロックで増加しているが、逆に公営・都市再生機構・公社の借家、給与住宅、間借りで暮らす世帯の数は十年間で減少している。

⁷ 「総務省統計局 平成 22 年国勢調査人口基本集計 北海道 7 表」(平成 27 年 6 月 15 日)を参照。
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Csvdl.do?sinfid=000012460744>

ブロック	年	総数	主世帯	持ち家	公営・公社 の借家	民営の 借家	給与住宅	間借り	住宅以外
全体	平成 12 年	6,044	5,899	3,958	779	778	384	101	44
	平成 22 年	7,080	6,973	4,793	719	1,156	305	62	45
	増減	+1,036	+1,074	+835	-60	+378	-79	-39	+1
東	平成 12 年	1,218	1,204	894	22	200	88	11	3
	平成 22 年	1,531	1,510	1,129	25	303	53	14	7
	増減	+313	+306	+235	+3	+103	-35	+3	+4
西	平成 12 年	842	828	380	346	82	20	13	1
	平成 22 年	796	784	406	259	106	13	10	2
	増減	-46	-44	+26	-87	+24	-7	-3	+1
南	平成 12 年	1,373	1,318	843	148	180	147	38	17
	平成 22 年	1,489	1,473	978	142	238	115	10	6
	増減	+116	+155	+135	-6	+58	-32	-28	-11
中央東	平成 12 年	591	572	377	6	170	19	17	2
	平成 22 年	1,149	1,131	742	47	310	32	11	7
	増減	+558	+559	+365	+41	+140	+13	-6	+5
中央西	平成 12 年	779	769	411	225	115	18	10	0
	平成 22 年	858	846	460	212	166	8	10	2
	増減	+79	+77	+49	-13	+51	-10	0	+2
農村部	平成 12 年	1,241	1,208	1,053	32	31	92	12	21
	平成 22 年	1,257	1,229	1,078	34	33	84	7	21
	増減	+16	+21	+25	+2	+2	-8	-5	0

図表 2-13 芽室町の住居の総数とその推移

(4) まとめ

芽室町はここ 10 年間で市街地の開発が進み、世帯数が 1,000 世帯以上増加している。特に住居の形態から一戸建ての住宅を購入し芽室町で暮らす人が多いことがわかった。芽室町には家と土地を買い、それを維持・管理できる富裕層が多くいることが推測される。また、芽室町は核家族世帯が全体の 6 割を超え、特に子どもとともに暮らす世帯が多くいることがわかった。しかし、子どものいる核家族世帯の数に比べ親から孫までがいる 3 世代世帯の数はあまり目立たなかった。このことから芽室町では高齢者層と子育て世代が別々に暮らしていることが推測され、家族間の繋がりや子どもと高齢者といった世代間での関わりあいの機会が少ないことが予測される。

2-5 自家用車・免許について

前節までは主に芽室町に住む人の人口や世帯数について触れてきたが、ここでは芽室町民が保有・利用している自家用車について、他の公共交通機関や徒歩・自転車と比較しながら報告していく。調査方法は平成 22 年国勢調査の従業地・通学地による人口・産業等集計

の利用交通手段を参照した。また、免許の保有については平成 27 年 6 月 16 日に北海道警察釧路方面本部に問い合わせを行い調査した内容になる。

(1) 芽室町民等の移動手段について

芽室町民の移動手段の数について調査した結果、通勤通学に利用している交通手段で種類しか利用していないのが 7,100 人、2 種類利用している人が 332 人、3 種類以上利用している人が 52 人と特定の交通手段のみを利用して従業・通学を行っている人が全体の 9 割を超えている。芽室町民の自家用車の利用率は、国勢調査に掲載されている。平成 22 年の国勢調査の従業地・通学地による人口・産業等集計から芽室町に常駐している 15 歳以上自宅外就業者・通学者が利用している移動手段で最も多いのは 5731 人の自家用車で全体の 80%

	総数	自市区町村で従業・通学	他市区町村で従業・通学
利用交通手段が 1 種類	7,100	3,620	3,480
利用交通手段が 2 種類	332	158	174
利用交通手段が 3 種類以上	52	8	44
不詳	177	78	81
合計	7,661	3,864	3,779

図表 2-14 芽室町に常住する自宅外就業者・通学者の利用交通手段

	総数	自市区町村で従業・通学	他市区町村で従業・通学
自家用車	5,731	2,644	3,087
自転車	489	423	66
徒歩だけ	448	416	32
鉄道・電車	140	3	137
勤め先・学校のバス	100	60	40
乗合バス	72	15	57
オートバイ	8	8	-
ハイヤー・タクシー	2	-	2
その他	110	51	59

図表 2-15 芽室町に常住する 15 歳以上自宅外就業者・通学者の利用交通手段（1 種類）¹

以上を占めている。芽室町で従業・通学に公共交通機関のみ(鉄道・電車、乗合バス)利用している人は 212 人で自家用車や自転車などと併用している人を合わせても 596 しかいない。

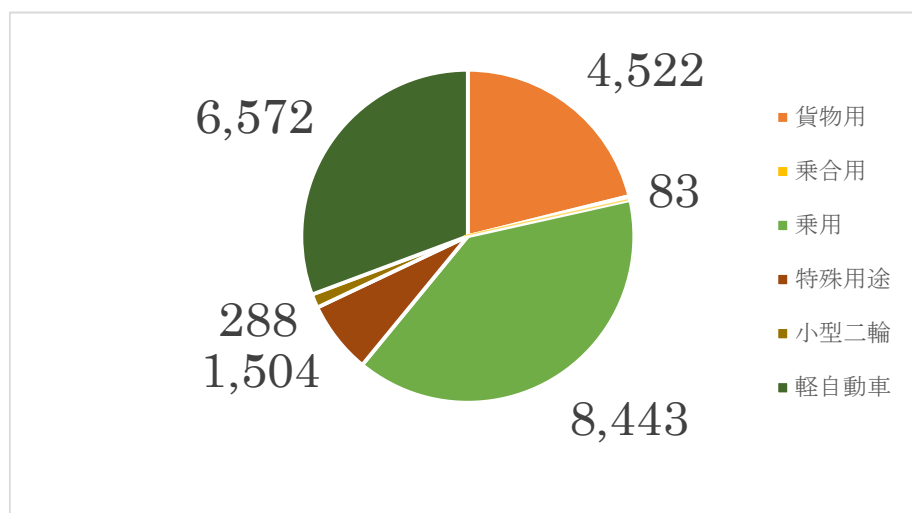
8

⁸ 「総務省統計局 平成 22 年国勢調査従業地・通学地による人口・産業等集計 北海道 11-2 表」(平成 27 年 6 月 27 日)を参照。

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/Csvdl.do?sinfid=000013172866>

(2) 芽室町の保有車両

ここでは、芽室町民の自家用車の利用状況について報告する。まず、芽室町全体の総保有車両数は21,412台であり、内訳は貨物用が4,522台、乗合用が83台、乗用が8,443台、特殊用途が1,504台、小型二輪車が288台、軽自動車が6,572台である。⁹一番多いのは乗用の普通車・小型車であるが、芽室町は農業従業者が多くいるためか他の市町村に比べ貨物用の車両や特殊用途の車両の割合が多い。このため、車両1台に対する人口の割合はかなり低いものとなっている。乗用の車両のみでも他の周辺市町村より低い値を出している。



図表 2-16 芽室町内の車両の内訳

(3) 芽室町民の免許保有率

次に芽室町民の免許保有率について紹介する。北海道警察釧路方面本部に問い合わせをした結果、平成27年の5月時点で芽室町民の免許保有者は13,231人であり、男性が6,862人で、女性が6,369人である。また、同時期の北海道全体の免許保有者の数が合計で3,393,085人で、男性1,887,923人、女性1,505,162人となっており、芽室町と比較すると女性の免許保有率が高めで女性の人口に対して北海道の女性の平均免許保有率が52%に対して芽室町の女性の免許保有率は64%と10%ほど多い。

	総数	男性	女性
免許保有者	13,231	6,862	6,369
免許非保有者	5,851	2,267	3,584
計	19,082	9,129	9,953

図表 2-17 芽室町の免許保有者数

⁹ 「国土交通省北海道陸運局 市町村別保有車両数年報」(平成27年6月3日)を参照。
http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/touroku/08_etc/10_pdf/03_toukei/02_zenndou/03_city/2014/06_obihiro.pdf

	総数	男性	女性
免許保有者	3,393,085	1,887,923	1,505,162
免許非保有者	2,072,366	695,941	1,376,425
計	5,465,451	2,583,864	2,881,587

図表 2-18 北海道の免許保有者数

(4) まとめ

この調査で芽室町民の多くが自家用車を所有し、通勤・通学などで使用していることがわかった。さらに、女性の免許保有者の割合が多いことから、その利用方法は通勤通学にとどまらず買い物や普段の移動手段としても利用されることが推測される。このため、自家用車による行動範囲の拡大により、芽室町にある商店を利用するよりも少し離れた他市町村の大型店舗を利用している町民が多いことが予測され、芽室町の商店の利用率を下げる一つの要因となっている可能性がある。

第3章 インターネット等を利用した調査報告

この章では、国勢調査以外の芽室町に関する情報をインターネットや資料を使い事前に調査した内容について報告する。具体的には、芽室町役場や部署のホームページ、SNS、観光に関する web サイトなどを参照し調査を行なった。主に調査した内容は商店街、町内会、コミュニティ FM である。

3-1 商店街について

芽室町の中心市街地にも商店街があり活性化に対して重要な要因となっている。今回、アンケート調査を行ったまちなか縁側プロジェクトも商店街の活性化に向けて活動している。この節では商店街の現状と芽室町商店街を取り巻く環境を町民が買い物に利用している店舗を含めながら報告する。

(1) 商店街の現状

日本の景気は政府の経済対策の効果もあり、個人消費は持ち直しの傾向にあるが景気は自律性に乏しく、厳しい現状が続いている。加えて近年の商店街を取り巻く環境は、大型商業施設の進出またはインターネット販売などによる購買機会の多様化や、中心市街地の人口減少などの構造的な要因により、厳しい状況が続いている。¹⁰

平成 19 年度に実施された商業統計調査によると全国には 12,568 ヶ所に商店街が存在しており、一つの商店街の店舗数の平均は 52.9 店舗である。直前のピークである昭和 60 年の 85.7 店舗に比べると 32.8 店舗(-38.3%)減少している。商店街は主に 4 つタイプに分かれ、日用品・最寄り品を扱う店舗が中心となっている近隣型商店街、近隣型商店街に買回り品を扱う店舗が混在する地域型商店街、百貨店量販店を含む大型店があり最寄り品より買回り品が多い広域型商店街、広域型商店街に有名専門店や高級専門店が中心に構成され遠距離から人が来街する超広域型商店街といった種類に分かれ、規模は近隣型、地域型、広域型、超広域型の順に大きくなり、店舗の数も増えていく。中小企業庁が平成 21 年と 24 年に行なった商店街を対象とするアンケート調査を比較すると全体の店舗数の平均は 3 年間で 1.2 店舗ほど増加している。商店街のタイプごとに店舗数の平均を比べてみると地域型、広域型、超広域型の商店街では店舗の増加がみられるが、近隣型商店街の平均店舗数は減少している。このことから小規模な商店街ほどさらに厳しい現状に追い込まれていることがわかる。また、商店街の空き店舗からも苦境の様相がわかる。商店街の空き店舗数の平均は 6.0 店舗で商店街の店舗数との割合は 14.62% となり、平成 15 年の 7.31% から増加し続けている。¹¹

¹⁰ 経済産業省 商業統計調査(平成 27 年 9 月 14 日)を参照

<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/syogyo/result-2.html>

¹¹ 「経済産業省中小企業庁 平成 24 年度商店街実態調査報告書」(平成 27 年 9 月 14 日)を参照

<http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/2013/0329Jittai1.pdf>

行政は商店街の衰退する現状を打開するために平成 21 年に地域商店街活性化法(商店街の活性化のための地域住民の需要に応じた事業活動の促進に関する法律)を施行し、商店街振興組合や事業協同組合などの法人化された組合組織に対して、商店街が「地域コミュニティの担い手」として行う地域住民の生活の利便を高める試みを支援することにより、地域と一体となったコミュニティづくりを促進し、商店街の活性化を図る事業に対して支援・補助を行なっている。¹²

(2) 芽室町の商店街

現在、芽室町駅前には本通商店街、東 1 条通商店街、メイプル通商店街の 3 の商店街と複合商業施設であるめむろ一どがある。めむろ一どを含むこの 3 つの商店街には飲食店が 9 店、理美容室が 8 店、衣料品店が 6 店、薬局・化粧品店が 5 店、商店・酒店・米店が 5 店、居酒屋・スナックが 5 店、パン・菓子屋が 4 店、写真関連の店が 4 店、その他書店や靴屋、寝具・家具といった専門店やスーパー・生活雑貨店、病院など 70 店舗以上が軒を連ねている。¹³芽室町の商店街には飲食店や最寄り品を扱う店舗の割合が多いが、衣料品店や書店といった買回り品を取り扱う店舗が混在しており、芽室町の中心市街地位置しているため訪れる客は徒歩、自転車またはバスなどの公共交通機関を利用して商店街に来街していると推測されるため、芽室町の商店街は地域住民をターゲットとした経営を主とした地域型の商店街だといえる。しかし芽室町の商店街には 20 店舗あまりの空き店舗が存在しており、全国の商店街同様に衰退の一途をたどっており、小規模商店街である近隣型の商店街と同等の規模にまで縮小してしまう可能性がある。

(3) 地域型商店街の事例

ここでは芽室町と同じタイプである地域型商店街で成功している商店街を事例として紹介する。

まず、北海道室蘭市の輪西地区にある輪西商店街では、かつて鉄の街として高度経済成長期に乗じて発展した街の商店街であったが、昭和 50 年ごろの鉄鋼業の構造不況により市内の人口が減少し、商店街の店舗数も最盛期の半数以下となった。この状況の打開のために輪西活性化推進委員会を組織し取り組みを始めた。輪西商店街では町の規模を現在の人口や年齢構成に合わせたコンパクトな商店街に再編し、中心部にどこからでも訪れやすい街にするために「暮らしの広場」構想をまとめ新たな街づくりを提案した。「暮らしの広場」構想のはじめとして複合商業施設「ぷらっと。てついち」を開設し、地元スーパーを核にレストランや衣料品店など 16 店舗と市民会館が入るほか、子育て支援施設や集会所も設置した。さらに、街のシンボルロードの遊歩道や休憩スペース、水路、樹木などの整備を行

¹² 「中小企業庁地域商業サポート 地域商店街活性化法の概要」(平成 27 年 9 月 14 日)を参照

<http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/2012/download/1119SRPN-1.pdf>

¹³ 「芽室町商店街の PAGE」(平成 27 年 7 月 24 日)を参照

<http://www.memuro.net/syoutengai/map.html>

い、夜の華やかさを演出するイルミネーションの一新や浅い小川形式の「ジャブジャブ水路」を作り、鉄鋼業の町から住民の憩いの場というイメージに転換した。こうした取り組みで輪西商店街は地域のお茶の間として認知され、地域の市民活動も活発に行われるようになった。また、鉄のまちの財産を生かしたまちづくりとして生まれたボルト人形の「ボルト」も2年半で15万個を売り上げ、まちのシンボルとなっている。¹⁴

次に島根県松江市にある天神町商店街について紹介する。天神町商店街はかつて白瀧天満宮の門前町として賑わっていたが昭和50年代後半から郊外店舗の進出や住宅団地の立地が相次ぎ来客数が減少し、公共交通機関の整備により商店街は素通りされるようになってしまった。こういった影響により天神町周辺では高齢化率が28%まで上昇した。そこで天神町商店街では「全国に先駆けて高齢者の方の住み良いモデル地区」という構想を当時の松江市長と商店街関係者が立案し平成11年から官民一体となって商店街活性化の方策を検討した。方策の検討の際行った視察で、高齢者の出かける理由や口実は、買い物よりも「お墓参り」や神社仏閣への「参拝」のほうが出かけやすいことがわかり、白瀧天満宮に認知症対策の神様「おかげ天神」を建立するとともに高齢者向けの様々な事業を展開した。まず、おかげ天神の建立の日に合わせて天神様の縁日として天神市を毎月25日に行い、その日一日商店街を歩行者天国にし、高齢者を対象としたワゴンセールやフリーマーケットを開催している。また商店街内の空き店舗二つを改装し、マッサージルームや老人ボランティアによる交流や湯茶の接待ができる体制を市や社会福祉協議会、マッサージ協会と連携して設置した。その結果当初、「お年寄りにやさしいまちづくり」をコンセプトとした事業が「ひとにやさしいまちづくり」へと発展し、天神市の歩行者天国による安全で安心な環境の提供により、親子連れの来場、高齢者の生きがいつくりへの貢献と世代を超えた交流の場となった。¹⁵

（4）芽室町民が使う芽室町内外の店舗

ここでは、芽室町民が食料品・日用品を買う際どのような店舗を利用しているのかを把握するために芽室町民が利用している商業施設・商店について報告する。主にアンケートの食料品・日用品を買う店舗について項目外の利用している店舗に記載されていた店舗について紹介する。また、アンケートで項目に入っている「ダイイチめむろ店」「フクハラ芽室店」「A コープめむろ店」については今回記載していない。アンケート結果の詳細については第4章で説明する。

¹⁴ 「中小企業庁 新・がんばる商店街77選 北海道」(平成27年9月15日)を参照
<http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/shinshoutengai77sen/download/hokkaidou.pdf>

¹⁵ 「中小企業庁 がんばる商店街77選 中国」(平成27年9月15日)を参照
http://www.chusho.meti.go.jp/shogyo/shogyo/shoutengai77sen/machidukuri/6chuugoku/3_chuugoku_13.html

まず、図表 3-1 芽室町住民が利用している町内にある店舗について記載したものである。今回挙げた店舗は主に本通や東一条通りに面している店舗が多いことから商店街の中の店舗を挙げる人が多く、商店街を利用している人がある程度いることが分かった。

ジャンル	店舗名	住所	電話番号
商店	古出商店	芽室町西 3 条 7 丁目 1	0155-62-2806
菓子・パン	お菓子のまさおか	芽室町東 1 条 2 丁目 2	0155-62-2118
商店	三浦商店	芽室町東 1 条 2 丁目 6-1	0155-62-2136
ドラッグストア	正木薬局	芽室町東 1 条 3 丁目	0155-62-2720
商店	BIG テキサス 芽室店	芽室町東 1 条 3 丁目 1	0155-61-2020
パン・ケーキ	あさひや	芽室町東 1 条 3 丁目 18-1	0155-62-2950
商店	黒田商店	芽室町東 1 条 3 丁目 3	0155-62-2305
商店	武藤商店	芽室町東 1 条 3 丁目 7-1	0155-62-2230
商店	ライス&フィッシングあらい商店	芽室町東 2 条 1 丁目	0155-62-2179
菓子・パン	リスどん	芽室町東 4 条南 4 丁目	0155-62-8884
ドラッグストア	ツルハドラッグ 芽室店	芽室町東 6 条 1 丁目 4-4	0155-62-8168
ドラッグストア	サッポロドラッグストア めむろ店	芽室町東 6 条 9 丁目 ダイイチ内	0155-62-6151
JA・農協	めむろファーマーズマーケット愛菜屋	芽室町東めむろ3条南1丁目 1	0155-62-5315
食料品店	ミートショップ小久保	芽室町本通 2 丁目	0155-62-3982
菓子・パン	こばやし菓子舗	芽室町本通 2 丁目 3	0155-62-2738
衣料品店	岡山呉服店	芽室町本通 2 丁目 6	0155-62-2042
飲食店	鳥せい 芽室店	芽室町本通 3 丁目 1	0155-62-2989
電気店	コバヤシデンキ	芽室町本通 3 丁目 20	0155-62-2144
書店	珠玖ライオン堂	芽室町本通 3 丁目 8	0155-62-2155
商店	服部商店	芽室町本通 4 丁目 8-1	0155-62-2103

図表 3-1 芽室町内にある店舗

次に芽室町外にある店舗で芽室町住民が利用しているのかを回答したものについて紹介する。芽室町以外の利用する店舗で挙げた市町村は主に近隣にある帯広市、音更町、清水町である。

買い物に行く町の中ではやはり帯広市の店舗を挙げる人が多かった。次いで、音更町、清水町と続いている。また、図表には記載していないが札幌市にあるコストコを利用していると答えた回答者もいた。芽室町外で利用している店舗の種類は主に芽室町にはなかった総合量販店やホームセンターといった主に専門品を扱う店舗を挙げる人や大型のスーパーやディスカウントストアを挙げる人が多かった。また、芽室町にもあるサッポロドラッグストアのようなドラッグストアで音更町や帯広市にある店舗を利用していると答えた人もいた。

ジャンル	店舗名	住所	電話番号
総合量販店	イトーヨーカドー 帯広店	帯広市稲田町南 8 線西 10-1	0155-47-8111
スーパー	コープさっぽろ ベルデ店	帯広市西 17 条南 4 丁目 11	0155-34-0240
ドラッグストア	サンドラッグ 帯広アイモールいちまる店	帯広市西 18 条南 3 丁目 27	0155-38-2891
ドラッグストア	サッポロドラッグストア 春駒通店	帯広市西 18 条南 4 丁目 63-8	0155-58-6211
菓子・パン	柳月 いっきゅう店	帯広市西 19 条南 2 丁目	0155-35-3366
スーパー	フクハラ いっきゅう店	帯広市西 19 条南 2 丁目 30-5	0155-36-0019
総合量販店	MEGA ドン・キホーテ西帯広店	帯広市西 21 条南 4-1	0155-41-3810
菓子・パン	柳月 MEGA ドン・キホーテ西帯広店	帯広市西 21 条南 4 丁目	0155-41-3377
食料品店	土・日・肉のびっくり市 西店酒蔵	帯広市西 21 条南 4 丁目 2-4	0155-34-1866
電気店	100 万ボルト 帯広西店	帯広市西 22 条南 2 丁目 10-11	0155-37-1139
菓子・パン	柳月 ぴあざフクハラ西帯広店	帯広市西 23 条南 3 丁目	0155-38-8000
ホームセンター	ホームマック 西帯広店	帯広市西 23 条南 3 丁目 62-2	0155-37-8161
スーパー	ぴあざフクハラ 西帯広店	帯広市西 23 条南 3 丁目 62-3	0155-61-1111
スーパー	いちまる 西帯店	帯広市西 24 条南 2 丁目	0155-37-2088
百貨店	藤丸百貨店	帯広市西 2 条 8 丁目 1	0155-24-2101
スーパー	コープさっぽろ かしわ店	帯広市東 7 条南 15 丁目 2-2	0155-23-7250
ホームセンター	ジョイフルエーケー 帯広店	帯広市東 7 条南 16 丁目 2-1	0155-28-3333
スーパー	フクハラ すずらん台店	音更町すずらん台仲町 1 丁目 1-1	0155-32-2980
ドラッグストア	サッポロドラッグストア 音更宝来店	音更町ひびき野仲町 1 丁目 9-1	0155-30-9033
ドラッグストア	サッポロドラッグストア 音更店	音更町木野大通西 11 丁目 2-2	0155-43-5561
JA・農協	ハピオ 木野	音更町木野大通西 7 丁目	0155-31-2141
スーパー	ルーキーいちまる	音更町木野大通東 10 丁目	0155-31-6511
ホームセンター	ホームマック 音更店	音更町木野大通東 12 丁目 2-12	0155-30-1496
ドラッグストア	サンドラッグ ぴあざフクハラ音更店	音更町木野大通東 16-1	0155-43-4170
菓子・パン	柳月 音更ぴあざフクハラ店	音更町木野大通東 16	0155-30-2233
スーパー	ぴあざフクハラ 音更店	音更町木野大通東 16 丁目 1	0155-30-2980
ドラッグストア	サッポロドラッグストア 清水店	清水町字清水第 1 線 50-32	0156-69-2511
スーパー	プラザ。いちまる 清水店	清水町字清水第 1 線 50-32	0156-62-8010

図表 3-2 芽室町以外の店舗

(5) まとめ

商店街についてこれまで事例や芽室町の店舗などを出して報告してきたが、芽室町商店街には特徴的なシンボルやイメージ、商店街の核となるものがないように見受けられた。しかし、芽室町の商店街に帯広市にあるような大型店舗や有名店を誘致することにより客引きを図ろうとしても商店街の活性化を促すことに対して有効的ではないだろう。それよりも地域型の商店街としての強みを生かし、地域密着の活性化対策を検討するほうがより有効的と考える。そのために事例で上げた輪西商店街の住民の憩いの場、天神町商店街の神様と高齢者のような街のイメージを作り商店街に町民が親近感を抱くことのできるまちづくりを行うことが重要である。

(6) まちなか縁側プロジェクトの概要

最後に商店街の活性化について芽室町商店街で活動を行なっている今回の依頼を受けたまちなか縁側プロジェクトの概要について触れていく。

まちなか縁側プロジェクトは、平成26年7月に発足した芽室町の新たな商店街像を描き、実現に向けて活動を行うことを目的とし学習、調査、実証実験を通して活動するプロジェクトである。主な活動事業としては空き店舗活用事業を行ない、中心市街地や商店街に求められる機能やサービスの検証を行なっている。現在、2件の空き店舗(リビング café ENGAWA、マルチスペース縁側ひろば)を活用し芽室町の中心商店街にある空き店舗を活用したフリースペースを作り、誰もが気ままに立ち寄って自由に休んだり、会話を楽しめる空間で、にぎわい創出の取り組みを行なっている。まちなか縁側プロジェクトはこの2店舗を使いフリーマーケット、チャレンジショップ、ワークショップや子供向けのイベントなどを開催し人を呼びこむ事業を積極的に行なっている。

3-2 芽室町の公共機関・施設

ここでは芽室町中心街近辺にある施設を中心として芽室町に設立されている施設についてインターネットを使い調査した項目を報告する。調査した項目は病院、教育機関、宿泊施設についてである。

(1) 病院

まず病院等の医療機関について報告する。芽室町には、中心地に公立芽室病院があり内科、外科、整形外科、産婦人科、小児科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、リハビリテーション科、放射線科、人工透析を備え、一般病床数150床ある総合病院として町の基幹病院となっている。また町内には他に内科が3ヶ所、歯科が9ヶ所あり、内科には公立芽室病院に

病院名	種類	住所
公立芽室病院	総合病院	芽室町東4条3丁目5
はまだ内科医院	内科、胃腸科、皮膚科	芽室町西3条3丁目1
なかお内科	内科	芽室町本通4丁目25
あおばクリニック	内科、消化器科、リハビリテーション科	芽室町東7条6丁目3-10
藤村歯科・矯正歯科医院	歯科、矯正歯科	芽室町東1条4丁目21
めむろだいいち歯科クリニック	歯科、小児歯科、歯科口腔外科	芽室町東6条9丁目1-11 ダイイチ芽室店敷地内
おみ歯科クリニック	歯科、矯正歯科、小児歯科	芽室町西1条南6丁目1-3
いしがき歯科クリニック	歯科	芽室町東めむろ三条北1丁目1-8
松井歯科医院	歯科、小児歯科	芽室町東2条1丁目12
家内歯科医院	歯科	芽室町西2条2丁目15
南館歯科医院	歯科	芽室町本通3丁目14
しのはら歯科医院	歯科	芽室町東2条5丁目22-1
正木歯科診療室	歯科	芽室町本通5丁目15-1

図表 3-3 芽室町の病院一覧

はない皮膚科、胃腸科、消化器科が備わっている病院や歯科では小児歯科や矯正歯科といった専門的な技術を有している病院があり差別化ができています。

またそれぞれの病院に勤務している医師・看護師の人数は芽室公立病院には内科医 6 人、外科医 3 人、整形外科医 1 人、産婦人科医 1 人、小児科医 2 人、眼科医 1 人、歯科医 1 人の合計 15 人の医師が勤務しており、看護師 108 人とその他歯科衛生士 2 人、助産師 12 人、介護助手 8 人、介護員 10 人が働いている。なかお内科、はまだ内科医院、あおばクリニックには医師一人と看護師 3～4 人が勤務している。¹⁶17 公立芽室病院には 10 の診療科と入院施設が備わっているため、医師と職員の数は 100 人を超えている。

名称	医師総数	看護師・准看護師数
公立芽室病院	15 人	108 人
なかお内科	1 人	3 人
はまだ内科医院	1 人	4 人
あおばクリニック	1 人	4 人

図表 3-4 各病院の医師・看護師数

(2) 薬局・ドラッグストア

前節で報告した病院とあわせて芽室町で営業している薬局・ドラッグストアについてもここで報告する。まず、薬局とドラッグストアの違いについて整理しておく。主な違いとしては処方箋に基づいて調剤師が医薬品を調剤できる機能(調剤室)の有無が大きく、調剤を行ってくれる店舗を薬局といい、調剤による医薬品ではなく、市販の医療品や日用品などの雑貨を販売している店舗をドラッグストアまたは薬店という。

芽室町で医薬品を扱っている店舗は計 10 店あり、薬局が 7 店、ドラッグストア・薬店が 3 店ある。薬局は性質上から病院などの医療機関の近隣に店舗を構えている店が多いが商店街内にもいくつかの薬局が営業している。サッポロドラッグストアやツルハドラッグのようなチェーン展開している大型のドラッグストアでは医薬品のほかに食料品を販売しており、スーパーやコンビニの代わりとして利用することもできるようになっている。

¹⁶ 「芽室公立病院」(平成 27 年 7 月 6 日)を参照。

<http://memuro.com/>

¹⁷ 「病院検索サイト SCUEL スクエル」(平成 7 月 6 日)を参照。

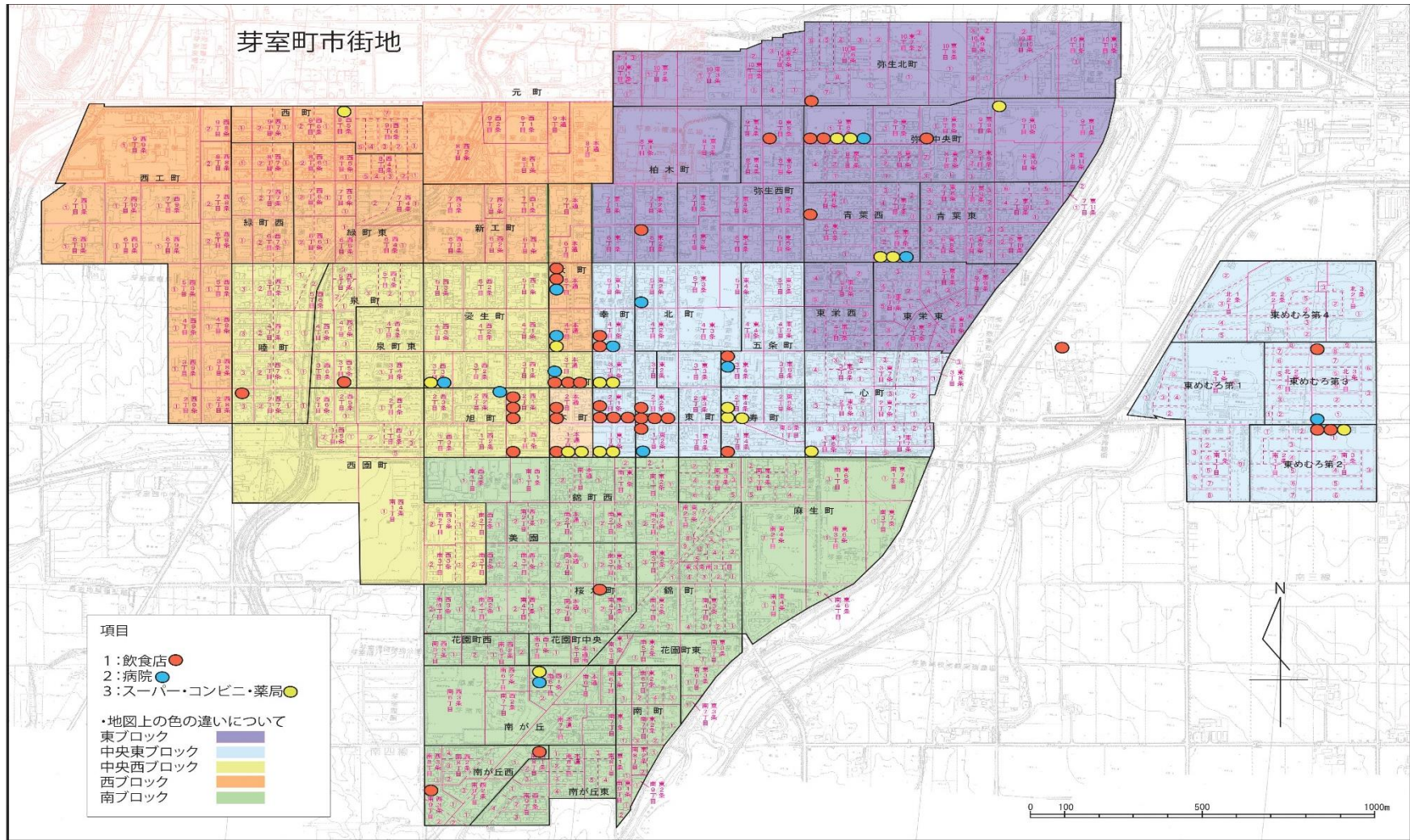
<http://scuel.me/search/?sk=&sa=%E8%8A%BD%E5%AE%A4%E7%94%BA&x=55&y=18>

店名	住所
正木薬局めむろ一ど店	芽室町本通 1 丁目 19
つがやす薬局芽室店	芽室町東 7 条 6 丁目 2-12
すまいる薬局なかむら	芽室町東 4 条 2 丁目 13-1
ナカジマ薬局めむろ店	芽室町東 4 条 2 丁目 19-1
なかむら薬局	芽室町西 3 条 3-1-8
(株)サッポロドラッグストアー めむろ店	芽室町東 6 条 9-1
(株)ツルハ ツルハドラッグ芽室店	芽室町東 6 条 1-4-4
正木薬局	芽室町東 1 条 3-2-2
くすりのみやた	芽室町東 1 条 2-14-2
太陽堂薬局	芽室町東 1 条 2-1-2

図表 3-5 芽室町の薬局

(3) 病院と商店・飲食店の立地

図表 3-7 は芽室町にある病院と商店、飲食店を地図上に出したものである。赤い点が飲食店、青い点が病院、黄色の点がスーパーやコンビニ、薬局を表している。この図から商業施設や医療施設が集中している地域が分かる。全体的に大方の施設が芽室町の中心街に集中しており、北西側の東ブロックや東芽室地区にもいくつかの施設が設置されている。しかし、南ブロックや西ブロックにはいくつかの店舗・病院が点々と立地されているだけであり大型の店舗があるわけでもない。そのため、南ブロックや西ブロックに住居がある町民は不便を感じている可能性がある。特に第 1 章で説明したように南ブロックは人口や世帯数が多いブロックであるため、近くに店舗や飲食店、病院が少ないと感じる町民が多いと考える。



図表 3-6 芽室町の飲食店・病院・スーパー、コンビニの分布

(4) 教育機関

次に芽室町にある教育機関・施設についてインターネットで調査した内容について報告していく。芽室町中心地には小学校や中学校といった教育機関はないが芽室町小学校や芽室西小学校などの市街地に住んでいる児童が通う学校・幼稚園は商店街や中心施設から遠くはない位置に設置されており、商店街利用の要因になるものと推測する。

芽室町には、小学校が4校、中学校が3校があり、小学校は市街地に2ヶ所、農村部に2ヶ所、中学校は市街地に2ヶ所、農村部に1ヶ所ある。他に東めむろに公立高等学校の北海道芽室高等学校と北伏古の帯広の森近辺に私立高等学校の白樺学園高等学校が芽室町にはある。

さらに保育施設として芽室町には、私立の幼稚園が2ヶ所、認可保育園が2ヶ所あり芽室町に住む幼児の受け入れを行っている。また、農村部に暮らす保育児童を持つ家庭に

校名	分類	住所
芽室小学校	小学校	芽室町東4条南2丁目1番地
上美生小学校	小学校	芽室町上美生4線38番地
芽室西小学校	小学校	芽室町西3条6丁目2番地
芽室南小学校	小学校	芽室町新生南6線25番地
芽室中学校	中学校	芽室町東6条南3丁目1番地
上美生中学校	中学校	芽室町上美生5線31番地
芽室西中学校	中学校	芽室町芽室南2線30番地
北海道芽室高校	公立高等学校	芽室町東めむろ1条北1丁目6
白樺学園高等学校	私立高等学校	芽室町北伏古東7線10-1
芽室幼稚園	私立幼稚園	芽室町東6条3丁目2
北明やまごと幼稚園	私立幼稚園	芽室町北明西7線18-1
めむろかしわ保育園	保育園(認可)	芽室町東4条5丁目2番地
めむろてつなん保育所	保育園(認可)	芽室町西2条南6丁目1番地
美生保育所	保育園(認可外)	芽室町美生3線39番地
上美生保育所	保育園(認可外)	芽室町上美生4線34番地
中伏古保育所	保育園(認可外)	芽室町中伏古5線18番地2
北伏古保育所	保育園(認可外)	芽室町北伏古南9線9番地
明正保育所	保育園(認可外)	芽室町坂の上10線49番地9
上伏古保育所	保育園(認可外)	芽室町上伏古9線18番地
祥栄保育所	保育園(認可外)	芽室町祥栄西14線4番地
芽室太保育所	保育園(休所中)	芽室町北明西7線18番地
洪山保育所	保育園(休所中)	芽室町洪山8線24番地27
新生保育所	保育園(休所中)	芽室町新生南6線25番地
上芽室保育所	保育園(休所中)	芽室町上芽室南3線16番地
栄保育所	保育園(休所中)	芽室町栄3線24番地
平和保育所	保育園(休所中)	芽室町平和西16線19番地
西土狩保育所	保育園(休所中)	芽室町西土狩北4線48番地

図表 3-7 芽室町の各保育・教育機関

対して14ヶ所に保育所を設けているがこのうち半分の7ヶ所が休所という扱いになっており、農村部の少子化と過疎化が予測される。¹⁸

以下の平成27年5月の時点で芽室小学校に756人、上美生小学校に43人、芽室西小学校に326人、芽室南小学校129人、合計1,254人の児童が通学している。さらに、芽室中学校に438人、上美生中学校に18人、芽室西中学校に194人、合計650人の生徒がいる。¹⁹芽室町の中心市街地に隣接している芽室小学校、芽室西小学校には合計で1,000人以上の児童が通学しているため、芽室町中心街の活性化に対して子供向けや家族向けの商店街像を作り若い力を取り入れることで活性化を図ることも考えられる。

学校名	生徒数	学級数	教職員数
芽室中学校	438	17	32
上美生中学校	18	4	12
芽室西中学校	194	9	19
合計	650	30	63

図表 3-8 各中学校の児童・学級・教職員数

学校名	児童数	学級数	教職員数
芽室小学校	756	31	45
上美生小学校	43	7	11
芽室西小学校	326	16	26
芽室南小学校	129	11	18
合計	1,254	65	100

図表 3-9 各小学校の児童・学級・教職員数

(5) 宿泊施設

次に芽室町内で営業している宿泊施設について調べた内容を報告する。宿泊施設については主に芽室町の観光物産協会のホームページや宿・ホテルの予約サイトや口コミサイトを参照し、中心商店街に与えている影響があるか調査をした。

¹⁸ 「芽室町役場 主な公共施設の電話番号」(平成27年6月10日)を参照。

<http://www.memuro.net/kosodate/koukyou/tel.htm>

¹⁹ 「芽室町行政ガイド 学校紹介」(平成27年6月10日)を参照。

<http://www.memuro.net/gaido/15guide/15005.htm>

芽室町で営業している宿泊施設は主に 7 ヶ所あり、市街に 4 ヶ所、郊外に 3 ヶ所営業し

店名	住所	電話番号
ビジネスホテルアルム メムロ	芽室町東 9 条丁目 1-14	0155-61-4711
畑の宿 モクモク十勝	芽室町上芽室南 1-5-14	0155-62-7779
国民宿舎 新嵐山荘	芽室町中美生 2 線 42	0155-65-2121
旅館まんじゅ荘	芽室町東 1 条 5 丁目	0155-62-2029
福井旅館	芽室町西 6 条 9 丁目	0155-62-2024
ゆたか旅館	芽室町本通 4 丁目	0155-62-2557
高木旅館	芽室町本通 2-13	0155-62-2143
集団研修施設かっこう	芽室町美生 2 線 38 番地	0155-65-2004

図表 3-10 芽室町にある宿泊施設

ている。2021市街地で営業している宿泊施設は小規模旅館やビジネスホテル多く、利用者は主に営業などの仕事による連泊や学校の合宿、近隣市町村への観光目的がほとんどで、芽室町へ訪れることを目的とした宿泊客の利用はあまりないことがわかった。また郊外には、芽室町が運営に携わっている公営国民宿舎の「新嵐山荘」がある。新嵐山荘は新嵐山スカイパーク内にあるホテルで夏場はパークゴルフ、冬場はスキーといった季節合わせてさまざまなスポーツやキャンプなどのレジャーを楽しむことができる。ほかにも集客を見込める施設や廃校舎を利用して作られた「集団研修施設 かっこう」は併設された芽室町出身の元横綱、大乃国関にまつわる資料室とともに生涯学習施設として合宿や陶芸など幅広く使われている施設もある。両方とも芽室町の中心商店街とは離れたところにあるため商店街への活性化につなげることは難しいが、町全体で連携をとる事によって有効に活用することができるのではないかと考える。

(6) まとめ

芽室町にある施設の中でも特に病院や学校は、多くの町民が日々、家からそこへ通うことが予測され、それらの施設の近くにある中心商店街を利用してもらう機会は十分にあると考える。通院する高齢者が立ちよって買い物を行うようにするための動機付けや通学中の子どもが気軽に遊べるような雰囲気を作ることで商店街を身近なものとして捉えてもらうことができ、日々の生活の中に商店街が浸透していく可能性が存在すると思う。また、芽室町の学校に通う中学生や高校生との連携をとり、共同で商店街を盛り上げていくことで若者の認知度や親近感を高めながら、中心街に若い力を取り込むことも期待できる。芽室町の商店街は住宅地ではなく中心街に立地していることから通勤・通院・通学する人をターゲットに盛り込むことが有効ではないかと考える。

²⁰ 「芽室町観光物産協会 温泉・宿泊施設紹介」(平成 27 年 8 月 6 日)を参照。

<http://www.memuro.info/staying.shtml>

²¹ 「旅行情報サイトじゃらん 河西郡芽室町」(平成 27 年 8 月 6 日)を参照。

http://www.jalan.net/010000/CTY_020000000000168/

3-3 芽室町町内会

ここでは、芽室町にある町内会とその主な活動について紹介していく。

芽室町町内にはそれぞれの行政区ごとに町内会があり合計で48の町内会が活動しており、市街地町内会連合会芽室町の活動方針は「ひとりの不幸もみのがさない住みよいまちづくり運動」、「ゴミの減量化と資源リサイクル運動」、「フラワーロード構想の推進」、「女性の積極的参画」、「青少年健全育成事業の推進」、「協働のまちづくり」及び「安全で安心な地域づくり」などがあり、芽室町の人々の交流や環境の整備に力を入れているように感じる。主な活動内容は新年会、花見、夏祭り、パークゴルフ大会、観楓会、クリスマス会、室内ゲーム大会などの親善事業の展開、要援護者台帳の整備、「ふれあいサロン」などの交流活動、敬老会・老人会への金銭的人的支援、独居世帯・高齢化世帯などへの見守りや声掛け運動などの福祉事業の推進、路面清掃・公園管理・じゃがバス停留所の除雪、ごみの出し方指導や資源ごみの組織的回収、花壇造成など環境美化への参加などの地域環境の美化活動、町の防災訓練への協力、町内会独自の避難訓練などの防災対策事業の推進を行い、より良い地域環境を作り上げている。町内会が行なっている活動の詳細については第7章で詳しく説明する。

3-4 コミュニティ FM について

芽室町への提案を考える中で芽室町の町民への情報提供の手段としてコミュニティ FM という方法を提案する案が浮かび上がった。そこでコミュニティ FM の内容や収支、そして芽室町で以前放送されていたミニ FM との違いなどをここで報告する。

(1) コミュニティ FM について

コミュニティ FM とは 1992 年に制度化された超短波放送(FM)用周波数 (VHF76.0～90.0MHz) を使用する放送で FM を使用する特定地上基幹放送事業者は「県域放送」と「コミュニティ放送」に区分されている。放送エリアが地域(市町村単位)に限定されるため、地域の商業、行政情報や独自の地元情報に特化し、地域活性化に役立つ放送を目指している。放送エリアに相応した営業エリアの狭さをカバーするため地区ごと、全国での共同営業に取り組むほか、使命ともいえる防災・災害放送では地域と緊密な連携を保つなど、様々な問題に放送を通じ、貢献している。設立基準の規制緩和が進み、法人格を有する起業者(規模の大小は問わない)のほか組合など団体でも開局できる。²²

(2) コミュニティ FM の目的

コミュニティ FM を設置する目的として主に行政的目的と行政以外の目的がある。行政的目的として災害時の防災無線の代用など緊急時の情報連絡手段として利用される。行政

²² 「JCBA 日本コミュニティ放送協会」(平成 27 年 8 月 25 日)から引用。

<http://www.jcba.jp/community/index.html>

以外の目的では、地域に密着した自由な番組・情報の提供が可能であるため住民と連携した地域の重要な情報発信源として利用されている。

(3) 北海道のコミュニティ FM の情勢と例

現在、北海道では 23 の団体がコミュニティ FM を開設しており、この内以下の 13 局は 2000 年以降に開設された。十勝管内のコミュニティ FM では帯広市で開設している FM JAGA と FM WING の 2 局があり芽室町内でも聴取ができるようになっている。²³

- 北海道北広島市 北広島エフエム放送 (株)
- 北海道滝川市 (株) エフエムなかそらち
- 北海道札幌東区 (株) 札幌村ラジオ
- 北海道 札幌市厚別区 (株)BIPSC
- 北海道 留萌市 (株) FM もえる
- 北海道 富良野市 (株) ラジオふらの
- 北海道恵庭市 (株) あいコミ
- 北海道名寄市 (株) エフエムなよろ
- 北海道札幌白石区 北海道総合放送 (株)
- 北海道北見市 (株) FM オホーツク
- 北海道室蘭市 室蘭街づくり放送 (株)
- 北海道中標津 FM なかしべつ放送 (株)
- 北海道ニセコ町 (株) ニセコリゾート観光協会

(4) コミュニティ FM の収入と費用の例

コミュニティ FM を運営していく上で重要になってくるのは収入と費用の問題がある。ここでは、コミュニティ FM を運営している団体を例に上げながら紹介していく。

コミュニティ FM の収益源として主なものは、自治体の補助金や支援、スポンサーによる提供が挙げられる。他にはクラブ会員を集めることで会員費を徴収したり、ホームページバナー広告を掲載したり、パーソナリティをイベントなどの司会として派遣し多角化した運営で収益を出す方法が取り込まれている。また、スポンサーに対して 20 秒のスポット CM 料金が平均 3,500 円程度で設定されている。コミュニティ FM の CM・番組料金について青森県の南津軽で開設されている「FM JAIGOWAVE」を例に紹介する。

・「FM JAIGO WAVE」の例

青森県のコミュニティ FM のである「FM JAIGOWAVE」では、番組や CM を提供するスポンサーに対して以下の様な料金体系を提示している。また JAIGOWAVE を運営している株式会社 エフエムジャイゴウェーブではラジオ放送の他にレストラン等の食品関係の

²³ 「総務省 電波利用ホームページ」(平成 27 年 8 月 26 日)を参照。

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/adm/system/bc/now/index.htm>

事業も行うコングロマリット型多角化経営を行なっている。²⁴

- ・スポット料金
20 秒 ¥1,050
- ・タイム料金（時間を買って取っても番組を放送する）
5 分 ¥10,500
10 分 ¥15,750
15 分 ¥21,000
20 分 ¥26,250
30 分 ¥31,500
- ・コーナー番組提供（コーナーや番組に提供スポンサーとして参加する）
週 1 回 ¥13,440
週 5 回 ¥65,100
週 7 回 ¥94,500
- ・イベント情報（イベント情報を生放送番組内で約 1 分間放送する）
1 分 1 回 ¥525
- ・CM 制作料（基本的な CM 制作料金）
20 秒 1 本 ¥5,250

また、費用の面ではコミュニティ FM を開設するための設備投資や放送するための著作権料、再放送料金、電波利用料、人件費、その他維持費などの費用がかかってくる。しかし、放送設備や機材に係る予算は 800 万～1 億円と開設するコミュニティ FM の規模によって費用は大きく変わってくる。費用について例を上げながら細かく説明していく。²⁵

① 設備投資

設備投資費用について各コミュニティ FM 団体を比較すると平均では 3,000 万円ほど掛かっている。大阪府の NPO では 3,000 万円、札幌市北区 2,100 万円で設備を整えている。しかし、青森県の田舎館村や北海道留萌市のコミュニティ FM では中古品など積極的に活用することで 1,000 万円以下の設備費用で開設されている。

② 著作権料

音楽放送で著作権料は必須となる費用で基本的に JASRAC、日本レコード協会、CPRA の 3 団体へ払う必要がある。例としてジャスラックの場合を紹介する。ジャスラックに著作権使用料を支払う方法としては、一曲ごとに個別で使用料を支払う契約と、年額・月額で使用料を支払う包括契約の二つの方法がある。このうち、放送機関においては主に包括

²⁴ 「FM JAIGOWAVE ホームページ 放送料金」(平成 27 年 8 月 26 日)を参照。

http://www.fm-jaigo.co.jp/web/g_price.htm

²⁵ 「QuantsWorks コミュニティ FM の経営について」(平成 27 年 8 月 26 日)を参照。

http://www.quantsworks.com/report/201211_cfm.pdf

契約が用いられる。年間契約の場合、当該年度の前年度における放送事業収入に 1.5% を乗じた額を使用料として支払う。ただし、収入に 1.5% を乗じた額が 5 万円に満たない場合の使用料は 5 万円である。

③ 再放送料金

コミュニティ FM 等の場合、自社制作の番組の他に、他社が制作した番組を放送することがある。その場合番組を制作した放送局に別途放送料を支払う必要がある。

④ 人件費

コミュニティ FM の人件費は各団体で千差万別である。山口県宇部市の FM きららでは時給制で給料が発生しており、年間収益から配分している。また、留萌市のコミュニティ FM の FM もえるでは無料ボランティアとして行なっているため、人件費がほぼ発生しない形をとっている団体もある。

その他、費用の他にコミュニティ FM の開設には無線局免許や周波数の確保、そして放送法や電波についての知識を持つ責任者と周りの協力体制が必要となってくる。

(5) コミュニティ FM の成功例(北海道留萌市 FM もえる)

コミュニティ FM の成功事例として北海道の留萌市で開設されている「FM もえる」が挙げられる。FM もえるは、平成 16 年の 10 月に開局されたコミュニティ FM で留萌市を中心とした小平町、増毛町の 3 市町で放送している。留萌駅の中にスタジオが存在し、立ち上げ費用は中古品を活用することで 800 万円程度に抑えている。しかし、人口 24,000 人 12,000 世帯が住む地域でゴールデンタイムの徴収率が 12% を超え大手基幹放送局に引けをとらない人気を博している。また、運営のメンバーズクラブの会員は約 900 人をおり、年間の全体の収益は 2,000 万円を超えている。FM もえるの成功要因として地域に密着した情報発信と親密性が重要な役割を果たしていることが挙げられる。経営母体である株式会社エフエムもえると 900 人のメンバーズクラブがボランティアという形で協力して番組運営を行いパーソナリティとして地域に関する情報発信を行なっている。放送内容も地域の情報がほとんどで天気やゴミ出しの情報を始め、留萌管内で働く人を紹介やイベント情報など、年間 8,000 人が出演しているラジオ放送で地域のリスナーに親しみやすさや身近さを感じさせる放送を行なっている。²⁶

(6) ミニ FM 「STATIONBEAT」 と芽室町を取り巻くコミュニティ FM の現状

芽室町では芽室駅内でコミュニティ FM ではなく「STATIONBEAT」というミニ FM が存在したが、現状も運営されているかは事前調査の時点では実態を掴むことは出来なかつ

²⁶ 「総務省 北海道留萌市「マチの聴こえる回覧板」(平成 27 年 8 月 26 日)を参照。
http://www.soumu.go.jp/main_content/000063267.pdf

た。また、ミニ FM とは電波法に規定する微弱電波(無線設備から 3 メートルの距離において、電界強度が毎メートル 500 マイクロボルト以下のもの)で FM 放送の周波数帯を利用して放送する微弱無線局のことで可聴範囲は極めて狭くおよそ 100~500m ほどしかなく小範囲に集客ができる施設や店舗以外はあまり使い道がない。芽室町周辺でコミュニティ FM では帯広市にあるコミュニティ FM 「FM JAGA」、「FM WING」という 2 つのラジオ局が存在し、芽室町でも聴取可能となっている。

(7) まとめとインターネットラジオ

ここで紹介したコミュニティ FM は芽室町に対する情報発信手段として今まで芽室町に感心を持っていない層に対して既存の情報源以外の発信方法として有効なものだと考える。「FM.STATIONBEAT」についてはミニ FM であり、聴取可能地域が狭かったことが予測される。そのため、情報が町民に広く伝わらなかったことが考えられる。しかし、コミュニティ FM は初期投資や運営費用、様々な手続きからすぐ始めるには厳しいものだという事もこの調査で分かった。コミュニティ FM については平成 23 年の東日本大震災の際、その有用性が実証され注目度も上がり免許に関わる手続きの申請も通りやすくなっているため費用や手続きを問題と見なさない場合は是非取り組んで欲しいと考えている。また、昨今はインターネットやスマートフォンの普及によりネットの中でラジオのような放送を行うインターネットラジオというものも登場しており、ライブストリーミングという形で町議会の様子や街の情報を発信している自治体も存在している。インターネットラジオの詳細については今回の視察の内容と合わせて第 7 章、提案については第 8 章で報告する。

第4章 芽室町住民に対するアンケート調査とそれに関する調査報告

4-1 アンケート調査に関する前書

この章では芽室町住民に対するアンケート調査の手法と、アンケート調査から判明した結果について報告する。

(1) 質問票による目的と調査手法

芽室町の住民に対して、どのような購買行動をしているか食糧等の買い物はどこで行っているのか芽室町についてどのような認識を持っているのかなどを知る目的で調査を実施した。アンケートの調査期間は平成27年2月23日～3月10日であり、調査は郵送回答法をもって実施された。アンケートの送付は芽室町役場から郵便局に委託され、郵便局はタウンメールを使用し、単純無作為抽出で、家族にいる方を対象に質問票を送付した。しかし、郵送調査にも欠点がある。郵送調査では高齢層からの回収が多く、若年層からの回収が低くなる傾向がある。また地域に対するアンケート調査の場合、地域活動に肯定的な住民からの回収は高く、否定的な住民からの回収は低くなる傾向がある。そのため、郵送調査の場合、「地域活動に肯定的な高齢者」の声が強調される場合が往々にしてある。

① 質問票の配布場所について

芽室町の中心街を以下の5つのブロックに分けて調査した。

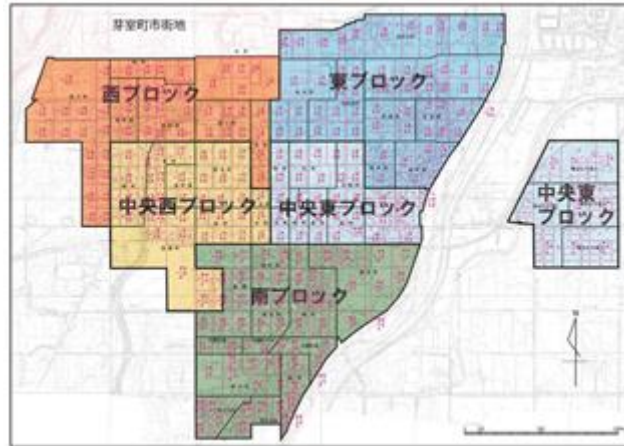
西ブロック：西町、西工町、緑町西、緑町東、元町、新元町、大町

東ブロック：柏木町、東栄東、東栄西、弥生中央町、弥生西町、弥生北町、青葉東、青葉西、日甜

南ブロック：麻生町、錦町、錦町西、桜木町、美園、花園町西、花園町中央、花園町東、南町、南が丘、南が丘東、南が丘西

中央西ブロック：本町、中央町、旭町、愛生町、西園町、泉町、泉町東、陸町

中央東ブロック：栄町、幸町、曙町、北町、東町、寿町、五条町、一心町、東めむろ第一、東めむろ第二、東めむろ第三、東めむろ第四



図表 4-1 各町のブロック分け実際の地図データ

② 質問票の回答数について

質問票はブロック別に、西ブロック 109 件、東ブロック 502 件、南ブロック 422 件、中央西ブロック 183 件、中央東ブロック 284 件 配布された。

アンケートの回収率は 1500 件中 538 件であり、その中でも未記入項目や回答に矛盾があるものなど回答結果に信頼性が欠けるものを除き有効な回答数は 456 件となった。

各項目の有効回答数以下の図の通りである。

	全体
認識者数	456

男性	女性
148	308

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
7	34	75	84	135	96	25

西	南	東	中央西	中央東
37	126	165	53	75

図表 4-2 質問票の有効回答数

(2) 各質問項目に関する説明

ここでは実際に調査のため使用した質問票について解説する。
 実際の質問票は付属資料として巻末に収録している。

1. の質問項目について

食料品日用品や買い物に関する考え方を調査した質問である。

全部で 16 の質問項目を採用している。

質問のしかたとしては多肢選択法の 5 段階の Likert 尺度法を採用している。「とてもそう

思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の5択である。質問は図表 4-3 に示す。

1 食料品・日用品の買い物や生活に関する考え方を教えてください。

※5段階評価でお答えください。	←				
	思う				思わない
(1) 買い物ではテレビコマーシャルやチラシを参考にしている。	5	4	3	2	1
(2) 購入に迷うときは友人・知人、クチコミを参考にする。	5	4	3	2	1
(3) 新商品が発売されると調べたり、詳しい友人に聞いたりする。	5	4	3	2	1
(4) 試食コーナーやお店の人とはよく話をしている。	5	4	3	2	1
(5) 欲しいと思ったら、予定がなくてもその場で買ってしまふ。	5	4	3	2	1
(6) 価格よりもメーカーや産地を重視している。	5	4	3	2	1
(7) 遠くの種類や量が豊富な店よりも、近くの店を利用する。	5	4	3	2	1
(8) 荷物が多くなったとしても、買いだめをしてしまふ。	5	4	3	2	1
(9) 好きなこと、好きなものにはお金を惜しまない。	5	4	3	2	1
(10) ムダな出費をしないことを常に心がけている。	5	4	3	2	1
(11) 友人・知人との付き合いやプレゼントにはお金を惜しまない。	5	4	3	2	1
(12) 貧しくなったとしても生活さえできればよい。	5	4	3	2	1
(13) 少子高齢化などの社会問題は、私には関係がない。	5	4	3	2	1
(14) お金をつかうことよりも貯蓄を増やすようにしている。	5	4	3	2	1
(15) 食の安全について、世間の人たちは気にし過ぎだ。	5	4	3	2	1
(16) 5年後は今よりも良い生活をしていると思う。	5	4	3	2	1

図表 4-3 質問票

2. の質問項目について

芽室町民の買い物場所と頻度について調査するための質問である。

質問項目については以下の意図がある。

- (1) 食料品を買っている店舗を知るため
- (2) 掃除・洗濯・家庭用品などを買っている店舗を知るため
- (3) 食料品の買い物に行く頻度を知るため
- (4) 買い物に使う移動手段を知るため
- (5) 芽室駅周辺の商店街の利用頻度を知るため

3. の質問項目について

回答者自身について調査した質問項目である。

全部で8項目の質問項目を採用している。

質問のしかたは1. と同様である。質問は図表 4-4 に示す。

あなた自身のことについてお聞かせください。

※5段階評価でお答えください。	←				
	思う				思わない
(1) 健康を考えた食事を心がけている。	5	4	3	2	1
(2) スポーツや適度に歩くなど、運動をしている。	5	4	3	2	1
(3) 地域の子どもたちと交流している。	5	4	3	2	1
(4) 十分な子育ては夫婦が共働きしてもできると思う。	5	4	3	2	1
(5) 近所の人とは世代に関係なく挨拶をしている。	5	4	3	2	1
(6) 近所の子どもや高齢者と交流したいと思っている。	5	4	3	2	1
(7) サークルや趣味の集まりに参加している。	5	4	3	2	1
(8) 自治会・町内会の活動にはよく参加している。	5	4	3	2	1

図表 4-4 質問票

4. の質問項目について

芽室町民の情報収集端末ついて調査するための質問である。

5. の質問項目について

回答者の芽室町についての認識を調査した質問項目である。

全部で 16 項目の質問を採用している。

質問のしかたは 1. と同様である。質問は図表 4-5 に示す。

芽室町について、どう思っていますか？

※5段階評価でお答えください。	←				
	思う				思わない
(1) 普通の 食料品の買い物 に便利である。	5	4	3	2	1
(2) 石鹸、シャンプーなどの 日用品の買い物 に便利である。	5	4	3	2	1
(3) 洋服、家電製品などの 専門品の買い物 に便利である。	5	4	3	2	1
(4) 病気やけがをしたときに 必要な病院が近く にある。	5	4	3	2	1
(5) 子どもの教育 に良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(6) 働く人 に良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(7) 高齢者 が住みやすいところだと思う。	5	4	3	2	1
(8) 家族が生活する には良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(9) 私には家の外で、 一人でくつろげる ところがある。	5	4	3	2	1
(10) 私には家の外で、 友人と話を楽しむ ところがある。	5	4	3	2	1
(11) 高齢者と子どもが話を しているところをよく見かける。	5	4	3	2	1
(12) 知人・友人と 偶然出会う場所 がある。	5	4	3	2	1
(13) 道路沿いの 花壇作りや清掃 に多くの人が参加している。	5	4	3	2	1
(14) 自然を感じる ことができる街である。	5	4	3	2	1
(15) ショッピングセンターなどの 大型商業施設 まで近い。	5	4	3	2	1
(16) 散策 には良い街である。	5	4	3	2	1

図表 4-5 質問票

6. の質問項目について

この項目は回答者に回答者の住む地区の満足度を10点満点で回答して頂いたものである。この回答結果はすべて回答者の主観的なものである。

7. の質問項目について

回答者に今後も芽室町に住み続けたいかどうかとその理由を質問した項目である。

8. の質問項目について

この項目は回答者の属性別に調査したものである。

9. の質問項目について

「まちなか縁側プロジェクト」について調査するための項目である。

9. 質問項目のついては以下の意図がある。

- (1) 「まちなか縁側プロジェクト」の認知の有無
- (2) 2店あるプロジェクトのフリースペース「リビング café 縁側」と「マルチスペース 縁側ひろば」それぞれの認知の有無
- (3) リビング café 縁側」と「マルチスペース縁側ひろば」それぞれの利用の有無
- (4) 回答者の主張したいこと

4-2 買い物や生活に関する芽室町民の意識についての調査報告

質問票にて、買い物や生活について町民がどのように感じているのかを質問した。実際の質問票は図表 4-6 に記載している。本調査における質問意図を図表 4-7 に示す。質問のしかたとしては多肢選択法の 5 段階の Likert 尺度法を採用している。「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の 5 択である。質問の回答を整理したものが図表 4-8 になる。また図表 4-22 ではグラフ化している。有効回答数は 445 件である。有効回答数とは、回収した質問票から本調査で分析する項目に未記入や矛盾がないものである。

(1) 芽室町民全体としての意識

① 芽室町民の生活および購買意識について

芽室町民の生活および購買意識について。5 段階の Likert 尺度法のため「3」が中間点である。図表 4-8 より生活・購買傾向が高い項目は、1 受動的収集、6 品質重視、10 節約重視、およそ平均的な項目は 2 準拠集団、5 衝動買い、7 店舗選択、8 買いだめ、9 嗜好購買、11 友人との絆、12 自分主義、14 経済観念、平均値の低い項目は、3 主体的収集、4 購買時収集、13 社会楽観、15 品質楽観、16 生活重視である。情報指向性を要因とする項目 1、2、3、4 から町民の情報指向はあまり高くないことが読み取れる。しかしながら、3 の項目から町民は買い物をする際にテレビコマーシャルやチラシなどを参考に情報を集めていることが判明した。情報指向性を要因とする項目 1、2、3、4 の平均値はそれぞれ 3.70、2.72、2.49、2.12 である。購買態度を要因とする項目 5、6、7、8 の平均値はそれぞれ 2.60、3.54、3.07、2.70 とほとんどの項目は「ほぼ平均的」であるが、購買態度を要因とする項目で特徴的なのは項目 6 品質重視の平均値の高さである。この項目から町民が価格よりもメーカーや産地を重視する傾向があることがうかがえる。優先動向を要因とする項目 9、10、11、12 の平均値はそれぞれ 2.93、3.81、2.92、2.98 である。10 から町民は得に無駄な出費をしないことを心掛けていることがわかる。しかし、9、11 の結果を見ると町民はあくまで節約重視だが、自身が出費するべきだと判断した際にはお金を惜しまない柔軟性見受けられる。社会・経済を要因に持つ項目 13、14、15、16 の平均値は 1.99、3.14、2.46、2.30 であり全体的に平均値は高くない。項目 14 が唯一平均に到達しているが町民の社会・将来へ関心は低い。中でも特徴的なのは項目 13 であり、町民は少子化などの社会問題への関心の薄さが見て取れる。ただ、項目 16 の平均値が低いことから社会問題を楽観的に捉えている訳ではないようだ。有効回答数は 444 件である。

② 食品の買い物場所について

食品の買い物場所を複数回答で回答していただいた。選択肢は「ダイイチ めむろ店、フクハラ 芽室店、A コープ めむろ店、帯広のお店、その他」の 5 択である。有効回答数 456 件中、ダイイチ めむろ店、の利用者が 398 名、フクハラ 芽室店の利用者 307 名、A コープ めむろ店の利用者 48 名、帯広のお店の利用者 100 名、その他を利用していると回答した町民は 59 名であった。各選択肢の利用者人数の合計を母数とした各店舗の利用割合は多い順にダイイチめむろ店 87.3%、フクハラ芽室店 67.3%、帯広のお店 21.9%、その他 12.9%、A コープめむろ店 10.5%である。その他に記入された回答には テキサス、セブンイレブン、セイコーマート、武藤商店、宅配サービス、小久保精肉店、あさひや、新居商店、黒田商店、古出商店、岡山呉服店、リスドンパン、あらい米店、こばやし菓子舗、の名前があげられていた。

③ 日用品の買い物場所について

日用品の買い物場所を複数回答で回答していただいた。選択肢は「ダイイチ めむろ店、フクハラ 芽室店、ツルハ 芽室店、A コープ めむろ店、帯広のお店、その他」の 6 択である。有効回答数 456 件中、ダイイチ めむろ店、の利用者が 252 名、フクハラ 芽室店の利用者 137 名、ツルハ 芽室店の利用者 263 名、A コープ めむろ店の利用者 11 名、帯広のお店の利用者 136 名、その他を利用していると回答した町民は 69 名であった。各選択肢の利用者人数の合計を母数とした各店舗の利用割合は多い順にツルハ 芽室店 57.7%、ダイイチめむろ店 55.3%、フクハラ芽室店 30.0%、帯広のお店 29.8%、その他 15.1%、A コープめむろ店 2.4%である。その他に記入された回答には 宅配サービス、サッポロドラックストア、正木薬局、武藤商店、三浦金物店、新居商店の名前があげられていた。

④ 食料品の買い物頻度について

回答者に食料品の買い物頻度について回答していただいた。選択肢は「月 1、月 2～3、週 1、週 2～3、ほぼ毎日」の 5 択である。有効回答数 456 件中、月 1 との回答が 1 件、月 2～3 が 18 件、週 1 が 89 件、週 2～3 が 268 件、ほぼ毎日が 80 件であり、町民の食料品買い物頻度は多い順に、週 2～3、週 1、ほぼ毎日、月 2～3、月 1 であることが判明した。

⑤ 利用交通手段について

買い物の際に芽室町民が使う移動手段について複数回答で回答して頂いた。

図表 4-33 買物時利用交通手段から、町民に利用される交通手段は多い順に、自分が運転する車、徒歩又は自転車、家族が運転する車、じゃがバス、知人友人が運転する車、タクシー、その他、十勝バスであった。その他に記入された回答はヘルパー、JR、娘家族が運転する車、である。各交通手段の回答者利用人数は自分が運転する車 401 人、家族が

運転する車 109 人、知人友人が運転する車 5 人、徒歩又は自転車 124 人、タクシー4 人、十勝バス 1 人、じゃがバス 12 人、その他が 3 人であった。各交通手段の利用人数の合計 660 人を母数とした各交通手段の利用割合はそれぞれ、自分が運転する車 60.8%、家族が運転する車 16.5%、知人友人が運転する車 0.8%、徒歩又は自転車 18.8%、タクシー0.6%、十勝バス 0.2%、じゃがバス 1.8%、その他 0.5%であった。有効回答数は 456 件である。

⑥ 芽室町周辺の商店街の飲食・購買頻度について。

芽室町民の芽室町周辺の商店街（フクハラさんを除く）の飲食・購買頻度について複数回答で回答していただいた。図表 4-29 ブロック別芽室町周辺商店街買い物飲食頻度 の芽室町全体平均の項目、月 1、月 2～3、週 1 回、週 2～3、ほぼ毎日、がそれぞれ 0.2、3.6、17.6、53.6、16 である。以上のことから、週 2～3 > 週 1 回 > ほぼ毎日 > 月 2～3 > 月 1 の順に買い物飲食頻度が高いことが判明した。半分以上の回答者が週 2～3 回買い物をしていることが大きな特徴である。有効回答数は 455 件である。

⑦ 昨年の芽室町周辺の商店街の飲食・購買頻度について。

芽室町周辺の商店街（フクハラさんを除く）での買い物飲食頻度について複数回答で回答していただいた。図表 4-34 昨年の芽室町周辺の商店街（フクハラさんを除く）飲食・買い物頻度 の項目、週 1 回以上、月 2～3、月に 1 回程度、年に数回程度、年に 1 回程度、ほとんどない/まったくない、の回答件数がそれぞれ 27、91、84、162、13、79 であり、年に数回利用する回答者が圧倒的に多いことが判明した。芽室町周辺の商店街（フクハラさんを除く）飲食・買い物頻度の買い物頻度は頻度の高い順に次の通りである。年に数回程度 > 月 2～3 > 月に 1 回程度 > ほとんどない/まったくない > 週 1 回以上 > 年に 1 回程度。

（2）属性による住民意識

回答者の性別、年代、世代などの属性から町民の意識の差異を確認する。そのため平均値の差の検定である T 検定を用いて回答者属性の意識の差異を確認した。T 検定とは異なる集合の平均の差を調べる際に、その値の差が誤差の範囲にあるのかどうか判断するための方法である。本調査による回答者全体の内訳は図表 4-8 の通りである。

① 男女別分析結果

性別による生活・購買意識の差異を確認する。一般に男性と女性では消費者意識に差異があるといわれている。本調査による回答者の内訳は図表 4-8 図表 4-9 男性の回答結果、図表 4-10 女性の回答結果 の通りである。

2 準拠集団、5 衝動買い、8 買いだめの項目で女性の方が高く、12 自分主義、15 品質楽観は男性の方が平均値が高い。男性よりも女性の方が買い物高い関心があり、積極的であ

るあることがわかる。7店舗選択、から女性の方が近くのお店を利用することが確認される。12、15の項目から男性のほうが楽観的思考している様子がうかがえる。

男女別分析結果の有効回答数は444件、うち、男性の有効回答数は145件女性の有効回答数は299件である。

②年代別分析結果

ここでは回答者を3つの年代に分類し、40代以下の回答者を子育て中の働く年代、50代・60代を子供が独り立ちし、子育てが終了した年代、70代以上の回答者を仕事を退職し自由に時間を使うことのできる年代と考えた。以上の各年代について考察する。図表4-11 20代、30代、40代の回答結果、図表4-12 50代、60代の回答結果、図表4-13 70代、80代、90代の回答結果から各年代間の意識の差異を確認された項目のみ解説する。

項目2 準拠集団より、40代以下の年代の方がクチコミを参考にしていることがわかる。

項目3 主体的収集は40代以下の年代と50代60代の年代に意識の差異を確認することができる。40代以下の年代は高い主体的収集能力があると推測される。

項目4 購買時収集60代までの年代に大差はなく70代以上の年代の方は試食コーナーやお店の人とは良く話をしていることがわかる。

項目5 衝動買い 50代60代の年代は他の年代と比較し衝動買いする傾向が強い。

項目6 品質重視 60代までの年代に大差はなく70代以上の年代の方の方が値段よりもメーカーや産地を重視している。

項目7 店舗選択 70代以上>40代以下>50代から60代の順に遠くの種類や量が豊かな店よりも、近くの店を利用している。

項目8 買いだめ 40代以下の年代>50代60代>70代以上の年代から、年代が若い年代ほど買いだめをする傾向があることが判明した。

項目9 嗜好購買 40代以下の年代は好きなことにはお金を惜しまない傾向がある。

項目11 友人との絆 40代以下の年代は友人・知人との付き合いやプレゼントにはお金を惜しまない傾向がある。

項目12 自分主義 40代以下の年代と50代以上の年代の間に大きな差があり、50以上の年代の方が貧しくなったとしても生活さえできればいいと考えている。これは子供が自立し、同居している家族の中から庇護する存在がいなくなったからだと考えられる。

項目13 社会楽観 図表4-8より、13の数値が1.99と低いことから、芽室町全体としての社会問題に取り組む意識は高いことが判明している。しかしながら、社会問題への楽観視の度合いは、楽観度の大きい順に70代以上の年代>50代60代の年代>40代以下の年代となる。年代が上がるにつれて少子高齢化などの社会問題は、自分には関係ないと考えている町民の割合が大きくなるようだ。この様子か

ら、少子高齢化の問題は年代が上がると関心が薄くなる傾向があると推測される。
項目 14 経済観念 60代以下の年代と70代以上の年代の間に意識の差異を確認することができる。若い年代の方が貯蓄を増やそうとしていることがわかる。

項目 15 品質楽観 60代以下の年代と70代以上の年代の間に意識の差がある。若い年代の方が食の安全に気を使っている様子うかがえる。

項目 16 生活重視 40代以下の年代と50代以上の年代の間に意識の差がある。5年後は今よりもよい生活をしていると考えているのは40代以下の若年層である。芽室町全体の結果として5年後は今よりも良い生活をしていると答えた回答者は少ないが40代以下の年代は他の年代と比べて高く回答している。

有効回答数は444件中、40代以下の年代は114件、50代60代は216件、70代以上の年代は114件である。

③ 世代別分析結果

1 世代同居者と2 世代同居者の意識の差異を確認する。本調査による回答者の内訳は、
図表 4-14 1 世代同居者の回答結果、図表 4-15 2 世代同居者の回答結果、の通りである。

2 準拠集団、8 買いだめ、11 友人との絆、12 自分主義、13 社会楽観、15 品質楽観、16 生活重視 の7つの項目で意識の差異が確認された。情報指向性を要因に持つ2では2世代同居者の方が購買に迷うときは友人・知人、クチコミを参考にしている様子がみてとれた。購買態度を要因に持つ8では2世代同居者の方が買いだめをする傾向があると判明した。優先動向を要因に持つ項目11、12について、11は2世代同居者の方が、12では1世代同居者の方が高い数値を示している。2世代同居者は友人知人への付き合いやプレゼントにはお金を惜しまない、また貧しくなったとしても生活さえできればよいとは思っていない。社会・経済を要因に持つ項目13、15、16では13、15は1世代同居者の方が数値が高く、16は2世代同居者の数値が高い。13、15、で見られる1世代同居者の社会問題への楽観的な様子は図表 4-24、1 世代同居者年代構成と図表 4-25、2 世代同居者年代構成より、1 世代同居者の中での年代別回答者割合が2 世代同居者と比べて高年齢的であることに原因があると考えられる。少子高齢などの社会問題への関心は回答者の年代が上がるほど薄れていく様子は上記の「年代・世代別分析結果」社会経済、項目 13 社会楽観からも確認することができる。16で2世代同居者の数値が高い理由としては、親もしく子どもと同居している回答者のなかで子を持つ回答者は回答者自身の子どもの将来への希望を抱いているのではないかと後述する「中学生以下の子どもがいる家庭といない家庭」の分析結果」項目 16 生活重視から推測される。有効回答数は433件中、1 世代同居者 236 件、2 世代同居者 197 件であった。

④ 中学生以下の子どもがいる家庭といない家庭の分析結果

中学生以下の子どもがいる家庭といない家庭の差異を確認する。本調査による回答者の内訳は、図表 4-20 中学生以下の子どもがいる家庭、図表 4-21 中学生以下の子どもがいない家庭、の通りである。

2 準拠集団、5 衝動買い、8 買いだめ、12 自分主義、13 社会楽観、15 品質楽観、16 生活重視の項目で意識の差異が確認された。情報指向性を要因に持つ 2 では中学生以下の子どもがいる家庭の方が購買に迷うときは友人・知人、クチコミを参考に行っていることがわかった。購買態度を要因に持つ項目 5、8 では両項目とも中学生以下の子どもがいる家庭の方が衝動買いと買いだめをする傾向にあり、購買に積極的である様子が見られる。優先動向を要因に持つ項目 12 では中学生以下の子どもがいない家庭の方が貧しくなったとしても生活さえできればよいと回答していることが判明した。社会・経済を要因に持つ項目 13、15、16 は 13 と 15 は子どもがいない家庭の方が社会問題に楽観的である。16 は中学生以下の子どもがいる家庭の方が平均値が高く、子を持つ回答者は回答者自身の子どもの将来への希望を抱いているのではないかと推測される。有効回答数は 444 件中、中学生以下の子どもがいる家庭 95 件、いない家庭 349 件であった。

⑤ 自家用車の所有者と未所有者別分析結果

自家用車の所有者と未所有者の差異を確認する。本調査による回答者の内訳は、図表 4-18 自家用車所有者の回答結果、図表 4-19 自家用車未所有者の回答結果 の通りである。

2 準拠集団、3 主体的収集、7 店舗選択、13 社会楽観の項目で意識の差異が確認された。情報指向性を要因に持つ 2 と 3 は自家用車所有者の方が未所有者よりも情報指向が高い。これは自家用車の所有者は自身の自家用車を使用することができるため自家用車の未所有者と比べて行動できる範囲が広くなり、その分商品や商品を扱う店舗の選択する機会が増えることが要因として考えられる。購買態度を要因に持つ項目 7 からは、自家用車未所有者の方が近くの種類や量が豊富な店よりも近くの店を利用しているということが判明したが、これも情報指向性を要因に持つ 2 と 3 同じように自家用車の所有者と未所有者の行動範囲の違いが原因だと推測される。13 で見られる自家用車未所有者の社会問題への楽観的な様子は、図表 4-26 自家用車の所有者と未所有者の年代構成 図表 4-27 自家用車所有者の年代構成 図表 4-28 自家用車未所有者の年代構成 より、自家用車の所有者と未所有者を比べて自家用車未所有者が高年齢的であることに原因があると考えられる。少子高齢などの社会問題への関心は回答者の年代が上がるほど薄れていく様子は上記の「年代別分析結果」社会経済、項目 13 社会楽観からも確認することができる。有効回答数は 444 件中、自家用車所有者 376 件、自家用車未所有者 68 件であった。

⑥ 住まい別分析結果

一戸建に住んでいる回答者とアパートやマンションなどの一戸建て以外に住んでいる回答者の意識の差を確認した。項目 6 品質重視から一戸建に住んでいる回答者は価格よりもメーカーや産地を重視していることか判明した。このことから、一戸建に住んでいる回答者は同居している家族を大切に考えた結果として品質の良いものを選んでしているからであると推測できる。有効回答数は 444 件中、一戸建に住んでいる回答者 382 件、一戸建て以外に住んでいる回答者 62 件であった。

※5段階評価でお答えください。	←				
	思う				思わない
(1) 買い物ではテレビコマーシャルやチラシを参考にしている。	5	4	3	2	1
(2) 購入に迷うときは友人・知人、クチコミを参考にする。	5	4	3	2	1
(3) 新商品が発売されると調べたり、詳しい友人に聞いたりする。	5	4	3	2	1
(4) 試食コーナーやお店の人とはよく話をしている。	5	4	3	2	1
(5) 欲しいと思ったら、予定がなくてもその場で買ってしまう。	5	4	3	2	1
(6) 価格よりもメーカーや産地を重視している。	5	4	3	2	1
(7) 遠くの種類や量が豊富な店よりも、近くの店を利用する。	5	4	3	2	1
(8) 荷物が多くなったとしても、買いだめをしてしまう。	5	4	3	2	1
(9) 好きなこと、好きなものにはお金を惜しまない。	5	4	3	2	1
(10) ムダな出費をしないことを常に心がけている。	5	4	3	2	1
(11) 友人・知人との付き合いやプレゼントにはお金を惜しまない。	5	4	3	2	1
(12) 貧しくなったとしても生活さえできればよい。	5	4	3	2	1
(13) 少子高齢化などの社会問題は、私には関係がない。	5	4	3	2	1
(14) お金をつかうことよりも貯蓄を増やすようにしている。	5	4	3	2	1
(15) 食の安全について、世間の人たちは気にし過ぎだ。	5	4	3	2	1
(16) 5年後は今よりも良い生活をしていると思う。	5	4	3	2	1

図表 4-6 食料品・日用品の買い物や生活に関する考え方についての質問

要因	詳細要因	質問回答の尺度	
情報指向性	(1) 受動的収集	5 ←-----→ 1 高情報指向 低情報指向	
	(2) 準拠集団		
	(3) 主体的収集		
	(4) 購買時収集		
購買態度	(5) 衝動買い	5 ←-----→ 1 積極的購買 消極的購買	
	(6) 品質重視		
	(7) 店舗選択		
	(8) 買いため		
優先動向	(9) 嗜好購買	5 ←-----→ 1 強充足追求 弱充足追求	
	(10) 儉約重視		
	(11) 友人との絆		
	(12) 自分主義		
社会・経済	(13) 社会楽観	5 ←-----→ 1 弱将来関心 強将来関心	
	(14) 経済観念		
	(15) 品質楽観		
	(16) 生活重視		

図表 4-7 質問意図

回答者平均値

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	142	124	112	33	33	3.70
2	53	79	114	88	110	2.72
3	32	64	123	96	129	2.49
4	12	27	123	122	160	2.12
5	41	74	115	94	120	2.60
6	101	132	148	33	30	3.54
7	61	103	141	84	55	3.07
8	40	70	132	121	81	2.70
9	47	79	175	83	60	2.93
10	153	112	135	30	14	3.81
11	25	78	233	52	56	2.92
12	59	64	189	75	57	2.98
13	37	37	54	73	243	1.99
14	34	89	247	52	22	3.14
15	23	50	148	109	114	2.46
16	19	20	164	111	130	2.30

図表 4-8 芽室町全体の回答者平均値

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	47	42	37	8	11	3.73
2	13	21	36	35	40	2.53
3	10	22	43	35	35	2.57
4	4	9	45	40	47	2.19
5	8	27	27	33	50	2.38
6	25	58	36	15	11	3.49
7	14	26	52	36	17	2.89
8	8	21	31	53	32	2.45
9	22	26	50	29	18	3.03
10	51	38	38	13	5	3.81
11	5	25	76	20	19	2.84
12	20	27	66	17	15	3.14
13	14	19	15	25	72	2.16
14	9	25	85	21	5	3.08
15	11	26	47	29	32	2.69
16	5	3	57	41	39	2.27

図表 4-9 男性の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	95	82	75	25	22	3.68
2	40	58	78	53	70	2.82
3	22	42	80	61	94	2.45
4	8	18	78	82	113	2.08
5	33	47	88	61	70	2.71
6	76	74	112	18	19	3.57
7	47	77	89	48	38	3.16
8	32	49	101	68	49	2.82
9	25	53	125	54	42	2.88
10	102	74	97	17	9	3.81
11	20	53	157	32	37	2.96
12	39	37	123	58	42	2.91
13	23	18	39	48	171	1.91
14	25	64	162	31	17	3.16
15	12	24	101	80	82	2.34
16	14	17	107	70	91	2.31

図表 4-10 女性の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	43	30	19	14	8	3.75
2	21	35	24	16	18	3.22
3	9	26	29	21	29	2.69
4	2	10	26	31	45	2.06
5	13	24	32	22	23	2.84
6	19	33	44	12	6	3.41
7	14	28	39	22	11	3.11
8	18	22	31	23	20	2.96
9	16	27	45	18	8	3.22
10	40	31	37	6	0	3.92
11	11	30	57	11	5	3.27
12	8	14	38	36	18	2.63
13	2	4	5	27	76	1.50
14	9	31	61	9	4	3.28
15	5	9	38	29	33	2.33
16	13	11	54	18	18	2.85

図表 4-11 20代、30代、40代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	63	60	66	13	14	3.67
2	22	32	58	42	62	2.58
3	16	21	60	53	66	2.39
4	6	9	53	67	81	2.04
5	23	38	62	46	47	2.74
6	51	56	72	19	18	3.48
7	20	44	67	46	39	2.81
8	17	38	62	67	32	2.73
9	20	40	83	44	29	2.90
10	68	51	71	18	8	3.71
11	8	34	110	29	35	2.77
12	32	32	92	31	29	3.03
13	13	13	31	31	128	1.85
14	19	41	118	28	10	3.14
15	9	26	62	55	64	2.36
16	4	7	71	59	75	2.10

図表 4-12 50代、60代、の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	36	34	27	6	11	3.68
2	10	12	32	30	30	2.49
3	7	17	34	22	34	2.48
4	4	8	44	24	34	2.33
5	5	12	21	26	50	2.09
6	31	43	32	2	6	3.80
7	27	31	35	16	5	3.52
8	5	10	39	31	29	2.39
9	11	12	47	21	23	2.71
10	45	30	27	6	6	3.89
11	6	14	66	12	16	2.84
12	19	18	59	8	10	3.25
13	22	20	18	15	39	2.75
14	6	17	68	15	8	2.98
15	9	15	48	25	17	2.77
16	2	2	39	34	37	2.11

図表 4-13 70代、80代、90代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	68	58	75	15	20	3.59
2	20	31	67	56	62	2.54
3	16	28	67	54	71	2.42
4	6	15	69	55	91	2.11
5	19	37	57	46	77	2.47
6	58	66	76	17	19	3.54
7	35	52	72	45	32	3.06
8	11	24	78	73	50	2.46
9	27	32	94	43	40	2.84
10	83	56	64	21	12	3.75
11	12	39	118	28	39	2.82
12	39	36	108	25	28	3.14
13	29	23	33	34	117	2.21
14	18	46	130	27	15	3.11
15	15	31	82	53	55	2.57
16	6	7	78	63	82	2.12

図表 4-14 1世代同居者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	70	62	36	18	11	3.82
2	31	47	46	31	42	2.97
3	15	35	54	40	53	2.59
4	5	11	51	66	64	2.12
5	21	34	53	48	41	2.73
6	39	62	69	16	11	3.52
7	24	50	64	38	21	3.09
8	28	44	51	46	28	2.99
9	20	45	75	38	1	2.95
10	65	54	67	9	2	3.87
11	13	38	107	24	15	3.05
12	19	25	77	49	27	2.80
13	7	13	19	39	119	1.73
14	16	42	109	25	5	3.20
15	7	17	62	54	57	2.30
16	13	13	79	48	44	2.51

図表 4-15 2世代同居者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	118	109	99	27	29	3.68
2	44	66	101	72	99	2.70
3	29	57	100	85	111	2.50
4	11	23	109	108	131	2.15
5	35	61	98	84	104	2.58
6	92	116	125	25	24	3.59
7	55	90	121	72	44	3.10
8	29	60	121	103	69	2.68
9	40	65	154	74	49	2.93
10	129	93	121	27	12	3.79
11	19	65	205	46	47	2.90
12	45	55	166	66	50	2.95
13	31	32	51	59	209	2.00
14	27	81	212	43	19	3.14
15	19	43	131	92	97	2.46
16	11	16	142	101	112	2.25

図表 4-16 一戸建

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	24	15	13	6	4	3.79
2	9	13	13	16	11	2.89
3	3	7	23	11	18	2.45
4	1	4	14	14	29	1.94
5	6	13	17	10	16	2.73
6	9	16	23	8	6	3.23
7	6	13	20	12	11	2.85
8	11	10	11	18	12	2.84
9	7	14	21	9	11	2.95
10	24	19	14	3	2	3.97
11	6	13	28	6	9	3.02
12	14	9	23	9	7	3.23
13	6	5	3	14	34	1.95
14	7	8	35	9	3	3.11
15	4	4	17	17	17	2.34
16	8	4	22	10	18	2.58

図表 4-17 一戸建以外

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	121	106	92	31	26	3.70
2	51	71	96	69	89	2.80
3	30	57	106	78	105	2.55
4	10	22	103	106	135	2.11
5	34	65	98	79	100	2.61
6	83	115	127	26	25	3.55
7	51	83	114	77	51	3.02
8	36	64	110	97	69	2.74
9	39	68	148	69	52	2.93
10	131	95	115	24	11	3.83
11	20	66	198	43	49	2.91
12	50	54	157	67	48	2.98
13	30	26	40	66	214	1.91
14	28	76	205	47	20	3.12
15	17	39	121	96	103	2.39
16	17	19	142	93	105	2.34

図表 4-18 自家用車所有者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	21	18	20	2	7	3.65
2	2	8	18	19	21	2.28
3	2	7	17	18	24	2.19
4	2	5	20	16	25	2.16
5	7	9	17	15	20	2.53
6	18	17	21	7	5	3.53
7	10	20	27	7	4	3.37
8	4	6	22	24	12	2.50
9	8	11	27	14	8	2.96
10	22	17	20	6	3	3.72
11	5	12	35	9	7	2.99
12	9	10	32	8	9	3.03
13	7	11	14	7	29	2.41
14	6	13	42	5	2	3.24
15	6	11	27	13	11	2.82
16	2	1	22	18	25	2.07

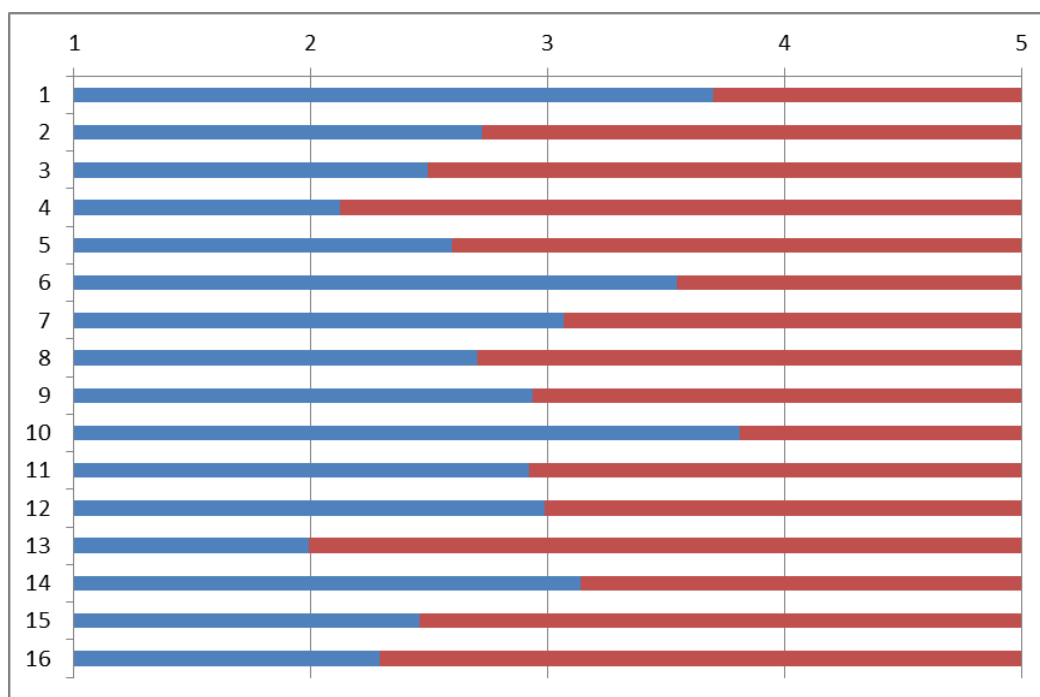
図表 4-19 自家用車未所有者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	30	33	12	13	7	3.69
2	16	26	23	12	18	3.11
3	7	22	26	16	24	2.71
4	2	3	26	29	35	2.03
5	15	22	22	17	19	2.97
6	18	26	38	7	6	3.45
7	12	20	34	22	7	3.08
8	16	21	23	21	14	3.04
9	10	24	37	15	9	3.12
10	28	24	35	7	1	3.75
11	6	23	47	11	8	3.08
12	7	10	34	31	13	2.65
13	0	3	3	24	65	1.41
14	8	21	52	10	4	3.20
15	2	6	29	31	27	2.21
16	12	9	36	20	18	2.76

図表 4-20 中学生以下の子どもがいる家庭

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	112	91	100	20	26	3.70
2	37	53	91	76	92	2.62
3	25	42	97	80	105	2.43
4	10	24	97	93	125	2.14
5	26	52	93	77	101	2.50
6	83	106	110	26	24	3.57
7	49	83	107	62	48	3.07
8	24	49	109	100	67	2.61
9	37	55	138	68	51	2.88
10	125	88	100	23	13	3.83
11	19	55	186	41	48	2.87
12	52	54	155	44	44	3.07
13	37	34	51	49	178	2.15
14	26	68	195	42	18	3.12
15	21	44	119	78	87	2.52
16	7	11	128	91	112	2.17

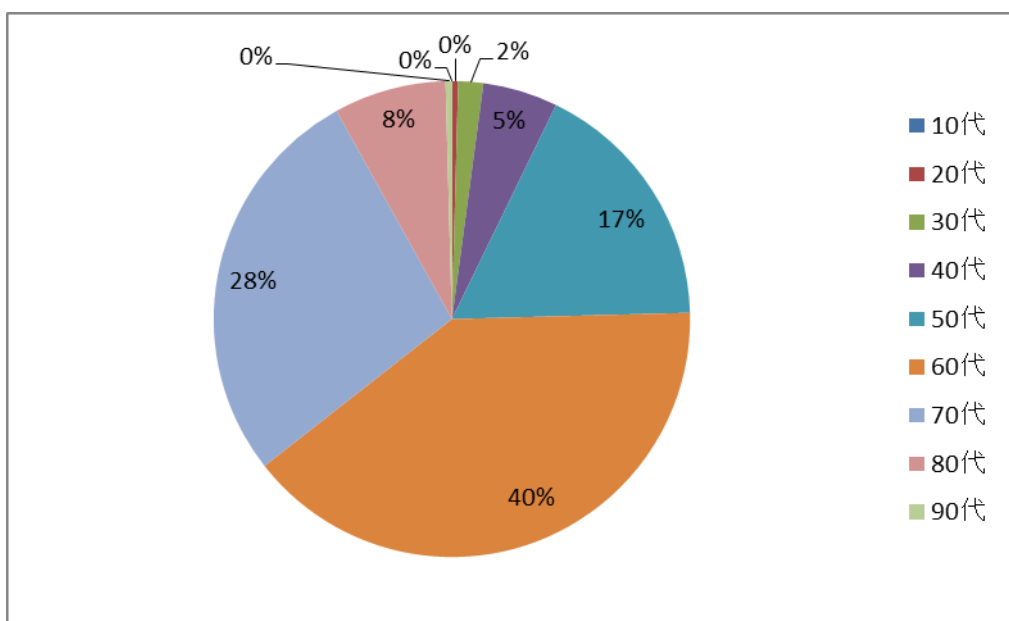
図表 4-21 中学生以下の子どもがいない家庭



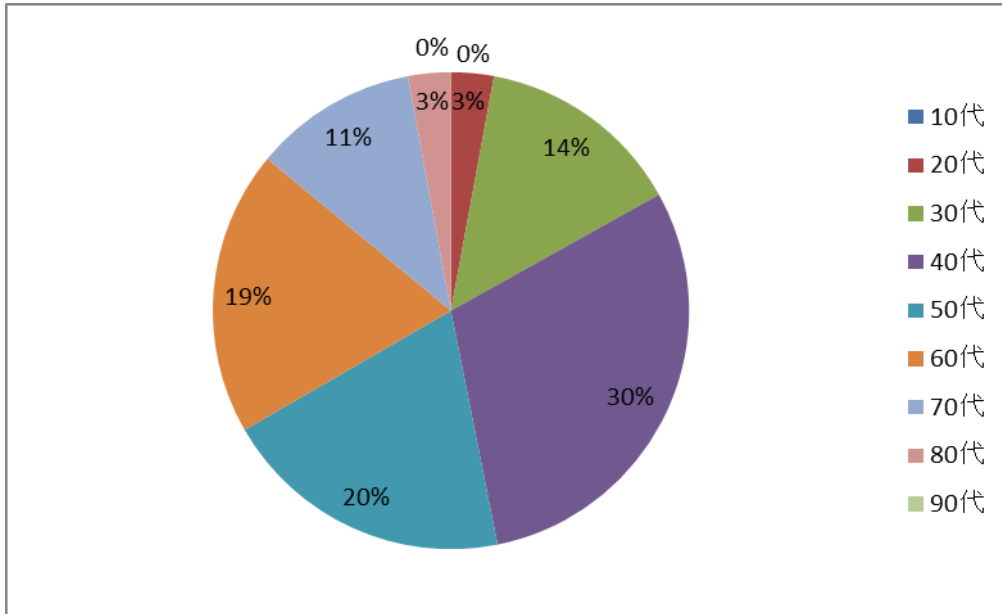
図表 4-22 芽室町全体の回答者平均値

	1 世代同居	2 世代同居
10 代	0	0
20 代	1	6
30 代	4	29
40 代	12	62
50 代	41	41
60 代	94	40
70 代	65	23
80 代	18	6
90 代	1	0

图表 4-23 世代別年代構成表



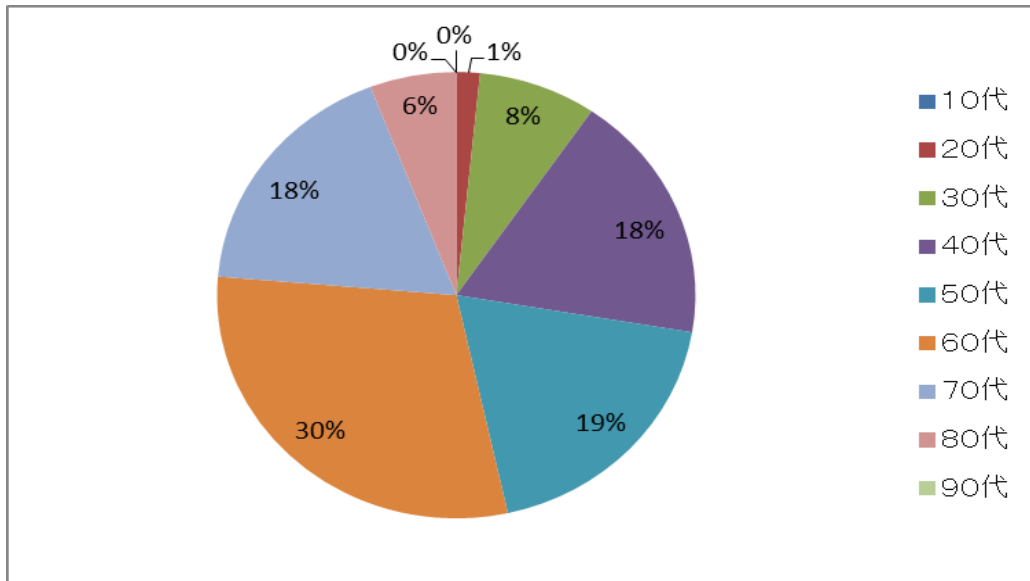
图表 4-42 1 世代同居者年代構成



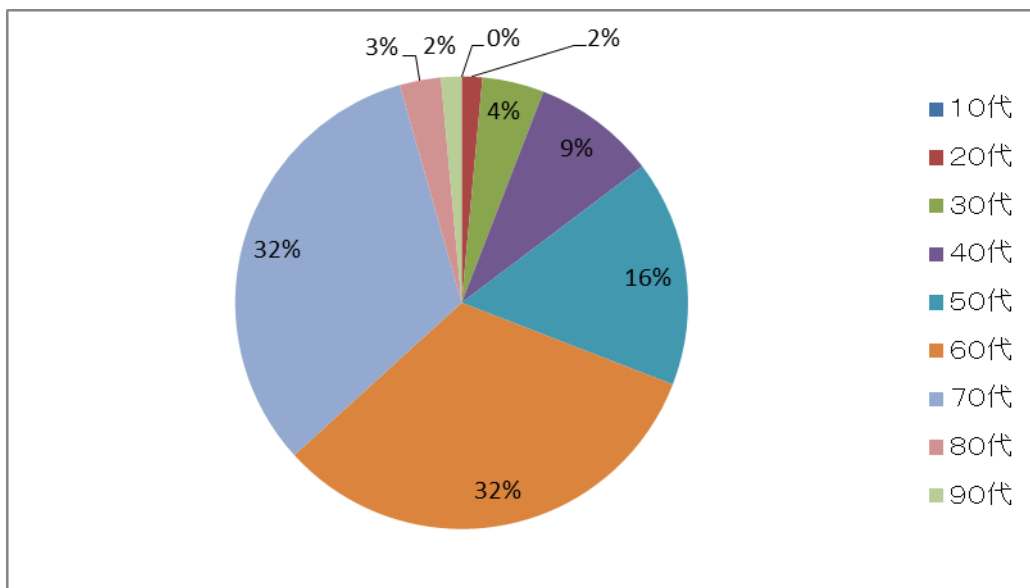
図表 4-25 2世代同居者年代構成

	所有者	未所有者
10代	0	0
20代	6	1
30代	30	3
40代	68	6
50代	71	11
60代	112	22
70代	67	22
80代	22	2
90代	0	1

図表 4-26 自家用車の所有者と未所有者の年代構成



図表 4-27 自家用車所有者の年代構成

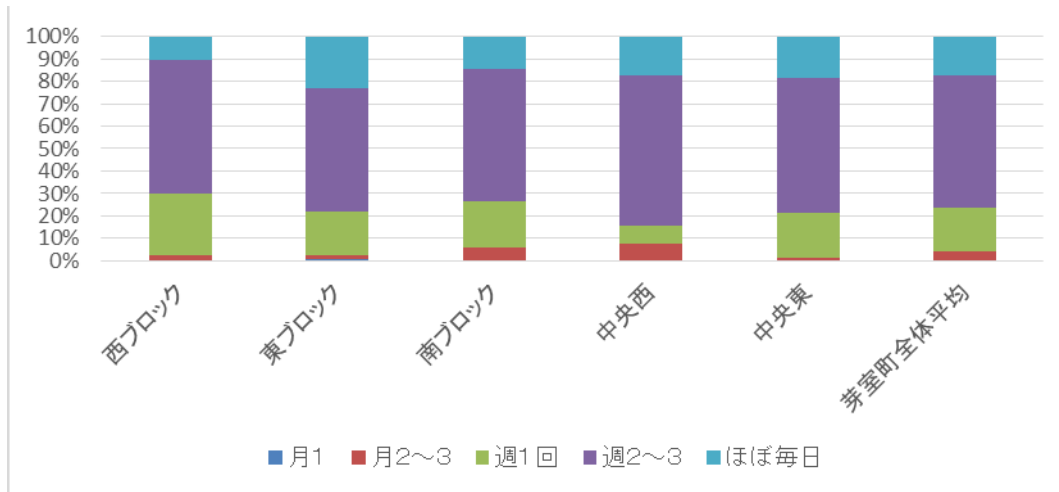


図表 4-28 自家用車未所有者の年代構成

買物・飲食頻度

	月 1	月 2～3	週 1回	週 2～3	ほぼ毎日
西ブロック	0	1	10	22	4
東ブロック	1	2	25	69	29
南ブロック	0	10	34	97	24
中央西	0	4	4	35	9
中央東	0	1	15	45	14
芽室町全体平均	0.2	3.6	17.6	53.6	16

図表 4-29 ブロック別芽室町周辺商店街買い物飲食頻度



図表 4-30 ブロック別買い物頻度

買い物場所	人数	割合
ダイイチめむろ店	398	87.3%
フクハラ茅室点	307	67.3%
A コープめむろ店	48	10.5%
帯広のお店	100	21.9%
その他	59	12.9%

図表 4-31 食料品買い物場所利用率

買い物場所	人数	割合
ダイイチめむろ店	252	55.3%
フクハラ茅室点	137	30.0%
ツルハ 茅室店	263	57.7%
A コープめむろ店	11	2.4%
帯広のお店	136	29.8%
その他	69	15.1%

図表 4-32 日用品買い物場所利用率

週1回以上	27
月2~3	91
月に1回程度	84
年に数回程度	162
年に1回程度	13
ほとんどない/まったくない	79

図表 4-33 昨年の茅室町周辺の商店街（フクハラさんを除く）飲食・買い物頻度

	利用人数	割合
自分が運転する車	401	60.8%
家族が運転する車	109	16.5%
知人友人が運転する車	5	0.8%
徒歩又は自転車	124	18.8%
タクシー	4	0.6%
十勝バス	1	0.2%
じゃがバス	12	1.8%
その他	4	0.6%

有効回答数 456 人（複数回答有）

図表 4-34 買物時利用交通手段

月 1	1
月 2～3	18
週 1	89
週 2～3	268
ほぼ毎日	80
有効回答数	456

図表 4-35 食料品買い物頻度

Ⅰ 検定結果

男女

1	.668	
2	.031	*
3	.373	
4	.305	
5	.012	*
6	.488	
7	.024	*
8	.002	**
9	.209	
10	.958	
11	.252	
12	.049	*
13	.073	
14	.356	
15	.004	**
16	.711	

20, 30, 40 と、50, 60

1	.561	
2	.000	**
3	.039	*
4	.841	
5	.496	
6	.612	
7	.033	*
8	.119	
9	.013	*
10	.068	
11	.000	**
12	.003	**
13	.003	**
14	.178	
15	.859	
16	.000	**

20, 30, 40 と、70, 80, 90

1	.724	
2	.000	**
3	.239	
4	.051	
5	.000	**
6	.004	**
7	.007	**
8	.000	**
9	.001	**
10	.806	
11	.001	**
12	.000	**
13	.000	**
14	.001	**
15	.003	**
16	.000	**

50, 60 と、70, 80, 90

1	.862	
2	.548	
3	.454	
4	.014	*
5	.000	**
6	.009	**
7	.000	**
8	.014	*
9	.193	
10	.173	
11	.495	
12	.106	
13	.000	**
14	.119	
15	.002	**
16	.894	

一世代と二世世代

1	.062	
2	.002	**
3	.232	
4	.926	
5	.055	
6	.995	
7	.840	
8	.000	**
9	.084	
10	.263	
11	.010	*
12	.009	**
13	.000	**
14	.272	
15	.011	*
16	.000	**

中学生以下の子供がいる家庭
と、いない家庭

1	.971	
2	.002	**
3	.700	
4	.327	
5	.003	**
6	.348	
7	.889	
8	.004	**
9	.076	
10	.509	
11	.071	
12	.002	**
13	.000	**
14	.441	
15	.010	*
16	.000	**

戸建と
アパート・マンション・その他

1	.532	
2	.300	
3	.760	
4	.138	
5	.411	
6	.020	*
7	.140	
8	.402	
9	.908	
10	.207	
11	.474	
12	.107	
13	.815	
14	.830	
15	.793	
16	.059	

4-3 芽室町民の生活における行動・意識についての調査報告

回答者自身の意識を確認する質問した。なお、この項目は回答者が芽室町についてどう認識しているのかを確認するものではない。回答者の芽室町への認識については後述する。実際の質問票は図 4-36 に記載している。本調査における質問意図を図表 4-37 に示す。質問のしかたとしては多肢選択法の 5 段階の Likert 尺度法を採用している。「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の 5 択である。質問の回答を整理したものが図表 4-38 になる。また図表 4-50 ではグラフ化している。

有効回答数は 452 件である。有効回答数とは、回収した質問票から本調査で分析する項目に未記入や矛盾がないものである。

(1) 芽室町民全体としての意識

①回答者全体の生活における行動・意識

5 段階の Likert 尺度法のため「3」が中間点である。図表 4-38 より、半数以上の項目が「3」以上であり、芽室町民の生活は比較的良いことが示される。実際の生活者の目線に当てはまりの強い項目は 1 食生活観、5 近隣交流、平均的な項目は 2 健康運動観、4 共働き、6 交流欲求、7 積極的交流、8 地域参加、あまり当てはまらない項目は 3 子供交流である。健康を要因にもつ項目 1、2、の平均値はそれぞれ 4.08、3.23 である。1、2 の項目が両方とも平均を超えており、また 1 の項目の平均値が特に高いことから町民の健康に対する意識の高さと食生活に特に気を使っている様子がうかがえる。子育てに関する質問 3、4 の平均値はそれぞれ 1.93、3.35 であり、4 共働きの値がほぼ平均的であるが、3 子供交流、の値は極端に低い。3 の項目が極端に低いことから芽室町民は地域の子供たちと交流してはいないと考えているようだが 5 近隣交流、6 交流欲求、8 地域参加の項目平均値はそれぞれ 4.21、3.11、2.93 であり、3 の項目の値よりも高い。そのことから芽室町民は近所の子どもや高齢者と交流を望んでいるにもかかわらずその望みがかなえられていないと推測される。しかし、項目 5 の平均値がとても高いということは町民が地域の人と世代を超えて気軽に挨拶というコミュニケーションを交わすことが可能な環境にいると考えることができる。有効回答数は 452 件である。

②回答者自身が所有している通信機器について

回答者自身が所有している通信機器について複数回答で回答していただいた。

図表 4-51 通信機器所有率 は有効回答として分析することができた 455 名回答から回答者が所有する各通信機器の合計を母数として計算し、町民の各通信機器所有の割合を算出したものである。各通信機器の所有率はそれぞれ、パソコンまたはタブレット 62.3%、携帯電話またはスマートフォン 90.3%、FAX 58.8%、持っていない 7.0%であった。所有率

の大きい順に、携帯電話またはスマートフォン、パソコンまたはタブレット、FAX、持っていない、である。

(2) 属性による住民意識

回答者の性別、年代、世代などの属性から町民の意識の差異を確認する。そのため平均値の差の検定である T 検定を用いて回答者属性の意識の差異を確認した。本調査による回答者全体の内訳は図表 4-38 の通りである

①男女別分析結果

性別による回答者意識の差異を確認する。本調査による回答者の内訳は図表 4-38 図表 4-39 図表 4-40 の通りである。

2 健康運動観の項目の値が男性の方が高いことから男性の方が健康を考えた運動を心がけていることがわかる。4 共働きの項目では女性の方がより十分な子育ては夫婦が共働きしてもできると考えていることが判明した。項目 8 地域参加では女性より男性の平均値が高く、男性の地位活動への積極性がうかがえた。男女別分析結果の有効回答数は 452 件、うち、男性の有効回答数は 147 件女性の有効回答数は 305 件である。

②年代別分析結果

ここでは回答者を 3 つの年代に分類し、40代以下の回答者を子育て中の働く年代、50代・60代を子供が独り立ちし、子育てが終了した年代、70代以上の回答者を仕事を退職し自由に時間を使うことのできる年代と考えた。以上の各年代について考察する。図表 4-41 20代、30代、40代の回答結果、図表 4-42 50代、60代の回答結果、図表 4-43 70代、80代、90代の回答結果、から各年代間の意識の差異を確認できた項目のみ考察する。

1 食生活観、2 健康運動観の項目から60代以下の年代と70年代以上の間に意識の差が確認される。年代が上がるほど、健康な生活を意識していることがわかる。

芽室町全体としては 3 子供交流の平均値は低いものの、40代以下の子育てしていると思われる年代は他の年代と比べて平均値が高く、回答者の子供を通して地域の子供たちと交流していると推測される。項目 6 交流欲求は50代60代の年代と70代以上の年代の間に意識の差異を確認することができた。平均値はそれぞれ 2.98、3.47 である。70代以上の年代は世代を超えた交流を望んでいる様子がうかがえた。7 積極的交流の項目では60代以下の年代と70代以上の年代の間に意識の差があり、仕事を退職して自由に時間を使うことのできる人が積極的にサークルや趣味の集まりに参加していると考えられる。8 地域参加の項目からは年代が上がるほど自治会・町内会の活動にはよく参加していることを確認することができる。有効回答数は40代以下の年代 115 件、50代 60代の年代 219 件、70代以上の年代 118 件である。

③ 世代別分析結果

1 世代同居者と 2 世代同居者の意識の差異を確認する。本調査による回答者の内訳は、
図表 4-44 1 世代同居者の回答結果、図表 4-45 2 世代同居者の回答結果、の通りである。

項目 2、3、4、7 に意識の差異を確認することができる。項目 2 健康運動観、7 積極的交流は 1 世代同居者の方が 2 世帯同居者より平均値が高い。これは 1 世代同居者が独り暮らしをしているか夫婦 2 人で生活をしている家庭の回答者であるため、自分のために多くの時間を使うことができることが要因と考えられる。子育てを要因とする項目 3 子供交流と 4 共働きでは 2 世代同居者の方が 1 世代同居者より平均値が高い。このことから、回答者 1 人もしくは夫婦 2 人で暮らす、子どものいない町民と子どもまたは親と生活している町民との間には、はっきりとした意識の差があることを確認することができる。実際に子どもや親と生活を共にする 2 世代同居者の方が「子育て」に高い関心を示している。

1 世代同居者の有効回答数は 243 件、2 世代同居者の有効回答数は 180 件である。

④ 中学生以下の子どもがいる家庭といない家庭の分析結果

本調査による回答者の内訳は、図表 4-46 中学生以下の子どもがいる家庭、図表 4-47 中学生以下の子どもがいない家庭の通りである。

健康を要素に持つ項目 1,2 は両方とも中学生以下の子どもがいない家庭の平均値は高い。項目 3 は中学生以下の子どもがいる家庭の方がいない家庭より平均値が高いが、注目すべきは中学生以下の子供がいない家庭の平均値が極端に低いことである。これは町民が中学生以下の自分の子どもを通して地域の子どもたち交流する以外に地域の子どもと交流する手段を持っていないためだと考えられる。近所づきあいを要素に持つ 5、6、に意識の差異は確認されなかった。地域活動を要素に持つ項目 7、8 は共に中学生以下の子どもがいない家庭の方がいる家庭より平均値が高く、積極的に地域との交流を行っている様子が見えがえた。

中学生以下の子供がいる家庭の有効回答数は 96 件、中学生以下の子供がいない家庭の有効回答数は 356 件である。

⑤ 自家用車の所有者と未所有者別分析結果

本調査による回答者の内訳は、図表 4-48 自家用車所有者の回答結果、図表 4-49 自家用車未所有者の回答結果の通りである。

自家用車の所有者と未所有者の意識の差はほとんど確認されなかったが項目 2 健康運動観から自家用車の未所有者の方がスポーツや適度に歩くなど、運動をしていることが確認された。

自家用車所有者の有効回答数は 382 件、未所有者の有効回答数は 70 件である。

⑥ 住まい別分析結果

一戸建に住んでいる回答者とアパートやマンションなどの一戸建て以外に住んでいる回答者の意識の差を確認したところ、ほとんどの項目で意識の差は確認されなかったが、項目 8 地域参加から一戸建に住んでいる回答者の方が自治会・町内会の活動に積極的に参加する傾向があることが判明した。

有効回答数は一戸建に住んでいる回答者 388 件、一戸建て以外に住んでいる回答者 64 件である。

※5段階評価でお答えください。	←				
	思う				思わない
(1) 健康を考えた食事を心がけている。	5	4	3	2	1
(2) スポーツや適度に歩くなど、運動をしている。	5	4	3	2	1
(3) 地域の子どもたちと交流している。	5	4	3	2	1
(4) 十分な子育ては夫婦が共働きしてもできると思う。	5	4	3	2	1
(5) 近所の人とは世代に関係なく挨拶をしている。	5	4	3	2	1
(6) 近所の子どもや高齢者と交流したいと思っている。	5	4	3	2	1
(7) サークルや趣味の集まりに参加している。	5	4	3	2	1
(8) 自治会・町内会の活動にはよく参加している。	5	4	3	2	1

図表 4-36 芽室町民の生活における行動・意識についての質問票

要因	詳細要因	質問票回答の尺度
健康	(1) 食生活観	5 ←—————→ 1
	(2) 健康運動観	高健康指向 低健康志向
子育て	(3) 子供交流	5 ←—————→ 1
	(4) 共働き	高子育て環境 低子育て環境
近所づきあい	(5) 近隣交流	5 ←—————→ 1
	(6) 交流欲求	積極的交流 消極性交流
地域活動	(7) 積極的交流	5 ←—————→ 1
	(8) 地域参加	地域積極 地域消極

図表 4-37 質問意図

回答者平均値

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	176	152	107	16	1	4.08
2	95	91	133	91	42	3.23
3	13	24	90	115	210	1.93
4	93	107	149	70	33	3.35
5	229	120	80	15	8	4.21
6	52	89	202	75	34	3.11
7	96	68	67	63	158	2.74
8	75	91	113	74	99	2.93

図表 4-38 芽室町全体の回答者平均値

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	53	50	38	5	1	4.01
2	32	46	40	17	12	3.47
3	1	6	29	38	73	1.80
4	22	34	55	22	14	3.19
5	67	43	28	4	5	4.11
6	20	38	50	25	14	3.17
7	26	30	25	19	47	2.79
8	35	30	31	23	28	3.14

図表 4-39 男性の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	123	102	69	11	0	4.10
2	63	45	93	74	30	3.12
3	12	18	61	77	137	1.99
4	71	73	94	48	19	3.42
5	162	77	52	11	3	4.26
6	32	51	152	50	20	3.08
7	70	38	42	44	111	2.71
8	40	61	82	51	71	2.83

図表 4-40 女性の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	31	42	34	8	0	3.83
2	13	15	35	37	15	2.77
3	9	15	33	25	33	2.50
4	26	33	31	17	8	3.45
5	54	32	21	5	3	4.12
6	12	19	52	20	12	2.99
7	19	15	14	18	49	2.45
8	7	21	17	24	46	2.30

図表 4-41 20代、30代、40代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	86	70	56	7	0	4.07
2	45	37	73	44	20	3.20
3	3	6	30	60	120	1.68
4	54	42	68	39	16	3.36
5	112	50	46	7	4	4.18
6	18	36	105	43	17	2.98
7	41	28	29	35	86	2.56
8	37	41	64	37	40	2.99

図表 4-42 50代、60代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	59	40	17	1	1	4.31
2	37	39	25	10	7	3.75
3	1	3	27	30	57	1.82
4	13	32	50	14	9	3.22
5	63	38	13	3	1	4.35
6	22	34	45	12	5	3.47
7	36	25	24	10	23	3.35
8	31	29	32	13	13	3.44

図表 4-43 70代、80代、90代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	105	71	57	9	1	4.11
2	60	58	63	44	18	3.40
3	3	6	36	67	131	1.70
4	45	49	89	37	23	3.23
5	128	62	37	10	6	4.22
6	28	48	105	45	17	3.10
7	61	40	37	23	82	2.90
8	47	44	65	38	49	3.01

図表 4-44 1世代同居者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	59	68	47	6	0	4.00
2	31	27	60	42	20	3.04
3	8	17	44	44	67	2.19
4	44	52	50	27	7	3.55
5	80	55	39	4	2	4.15
6	19	35	83	27	16	3.08
7	26	26	25	35	68	2.48
8	21	43	39	31	46	2.79

図表 4-45 2世代同居者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	25	39	26	6	0	3.86
2	11	11	31	28	15	2.74
3	7	15	28	23	23	2.58
4	19	30	25	15	7	3.41
5	49	27	18	1	1	4.27
6	13	20	42	14	7	3.19
7	16	11	11	18	40	2.43
8	11	18	16	17	34	2.53

図表 4-46 中学生以下の子どもがいる家庭

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	151	113	81	10	1	4.13
2	84	80	102	63	27	3.37
3	6	9	62	92	187	1.75
4	74	77	124	55	26	3.33
5	180	93	62	14	7	4.19
6	39	69	160	61	27	3.09
7	80	57	56	45	118	2.82
8	64	73	97	57	65	3.04

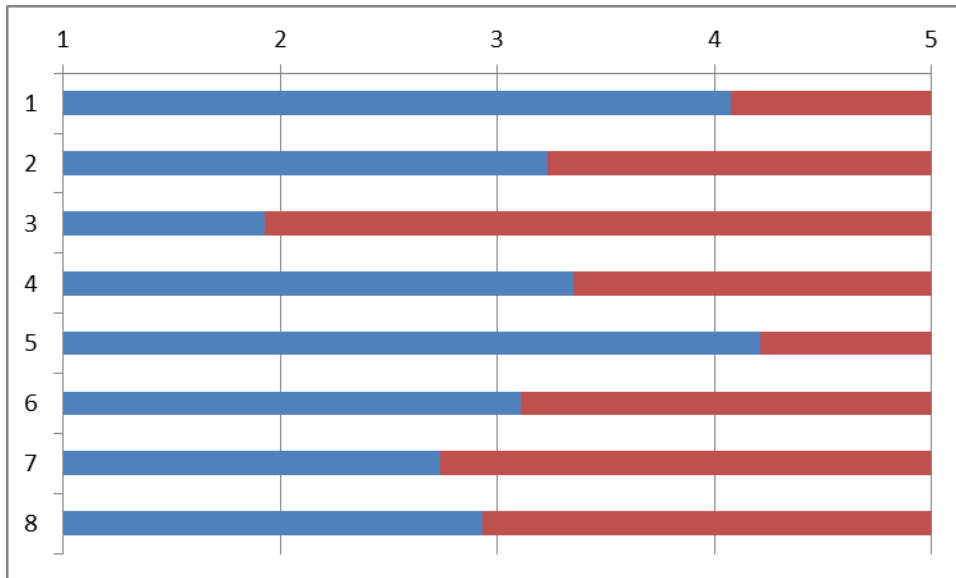
図表 4-47 中学生以下の子どもがいない家庭

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	147	133	89	12	1	4.08
2	73	80	111	78	40	3.18
3	12	18	81	94	177	1.94
4	85	85	127	59	26	3.38
5	190	109	62	13	8	4.20
6	47	72	169	63	31	3.11
7	80	61	55	52	134	2.74
8	62	80	90	63	87	2.91

図表 4-48 自家用車所有者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	29	19	18	4	0	4.04
2	22	11	22	13	2	3.54
3	1	6	9	21	33	1.87
4	8	22	22	11	7	3.19
5	39	11	18	2	0	4.24
6	5	17	33	12	3	3.13
7	16	7	12	11	24	2.71
8	13	11	23	11	12	3.03

図表 4-49 自家用車未所有者の回答結果



図表 4-50 芽室町全体の回答者平均値

	所持率
パソコンまたはタブレット	62.3%
携帯電話またはスマートフォン	90.6%
F A X	58.8%
持っていない	7.0%

有効回答数 455 件（複数回答有）

図表 4-51 通信機器所有率

T 検定結果

男女

1	.311	
2	.004	**
3	.067	
4	.047	*
5	.135	
6	.429	
7	.616	
8	.027	*

20, 30, 40 と 50, 60

1	.068	
2	.140	
3	.005	**
4	.899	
5	.063	
6	.077	
7	.005	**
8	.000	**

20, 30, 40 と 70, 80, 90

1	.000	**
2	.000	**
3	.003	**
4	.361	
5	.063	
6	.077	
7	.005	**
8	.000	**

50, 60 と 70, 80, 90

1	.012	*
2	.000	**
3	.194	
4	.271	
5	.108	
6	.000	**
7	.000	**
8	.002	**

戸建と、アパートマンションその他

1	.057	
2	.187	
3	.581	
4	.892	
5	.070	
6	.144	
7	.113	
8	.000	**

1世代と2世代

1	.200	
2	.002	**
3	.000	**
4	.005	**
5	.469	
6	.809	
7	.006	**
8	.105	

車所有と未所有

1	.755	
2	.022	*
3	.627	
4	.204	
5	.753	
6	.864	
7	.897	
8	.511	

中学生以下がいる字家庭といない家庭

1	.008	**
2	.000	**
3	.000	**
4	.583	
5	.458	
6	.430	
7	.027	*
8	.002	**

4-4 町民の芽室町に関する意識についての調査報告

回答者が芽室町をどう思っているのかという意識を確認する質問した。実際の質問票は図表 4-52 に記載している。本調査における質問意図を図表 4-53 に示す。質問の仕方としては多肢選択法の 5 段階の Likert 尺度法を採用している。「とてもそう思う」、「ややそう思う」、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の 5 択である。質問の回答を整理したものが図表 4-54 になる。また図表 4-66 ではグラフ化している。

また、生活している中での芽室町への満足度を 10 点満点で回答していただいた。すべて回答者の主観的なものである。図表 4-67 でグラフ化している。

有効回答数は 448 件である。有効回答数とは、回収した質問票から本調査で分析する項目に未記入や矛盾がないものである。

(1) 芽室町民全体としての意識

①回答者全体の芽室町に関する意識

5 段階の Likert 尺度法のため「3」が中間点である。図表 4-54 より、半数以上の項目が「3」以上であり、芽室町民の生活は比較的良いことが示される。実際の生活者の目線から芽室町が優れている点は 1 食糧品購買、2 日用品購買、4 病院、5 教育、8 居住地、14 自然、16 散策。平均的な点は 6 仕事、7 高齢者、9 休息、10 友人交流、12 偶然の出会い、13 地域活動、15 都会隣接。劣っている点は 3 専門品購買、11 世代間交流とみることができる。3 専門品購買、9 休息、11 世代間交流、12 偶然の出会い、の平均値が中間点「3」を下回っているが、これはベッドタウンの特徴である。施設環境を要因にもつ 1、2、3、4、の平均はそれぞれ 4.22、4.09、1.79、3.77、である。1、2、4、の項目が平均を大きく上回り、3 の項目が低いことから町民が芽室町は食料品や日用品の買い物には便利であるが、洋服や家電製品の買い物に強い不満を抱えていることが推測される。生活環境を要因とする項目 5、6、7、8 は総じて平均を超えており、町民は生活環境に安定した満足感を示している。近隣交流を要因とする項目 9、10、11、12 で大きく平均値が低い項目は 11 世代間交流、である。10 は平均に到達しているが平均値自体はほぼ中間であり近隣交流に関する意識の平均値は全体的に平均よりやや低めである。平均値はそれぞれ 2.67、3.07、1.95、2.80 であり、世代を超えて交流する機会が特に少ない様子がうかがえる。立地を要因とする項目 13、14、15、16 の平均は 3.23、3.98、3.17、3.68 であり、すべて平均「3」を超えていることから町民は芽室町の立地構成を好意的に捉えていると考えられる。特に 14 の平均値が高く町民は自然を身近に感じている。有効回答数は 448 件である。

②町民の生活満足度

町民が生活している中での満足度を10点満点で回答していただいた。数値はすべて回答者の主観的なものであり「5」が中間点である。芽室町全体の満足度平均は図表 4-67 より 7.072 (小数点第4位を四捨五入している) である。西ブロック、東ブロック、中央西ブロック、中央東ブロックの4つのブロックが満足度の全体平均を上回っている数値はそれぞれ、7.378、7.302、7.943、7.16 である。逆に満足度の全体平均を下回るブロックは南ブロックのみであり、数値は 6.745 である。すべてのブロックが中間点である「5」を上回っているため町民が比較的満足度の高い生活をしているといえる。ブロック別満足度の有効回答数は西ブロック 37 件、東ブロック 126 件、南ブロック 165 件、中央西ブロック 53 件、中央東ブロック 75 件、芽室町全体 456 件である。また、今後芽室町に住み続けたいと回答している町民 336 人の満足度は 7.37、芽室町から他の地域に移り住みたいと考えている回答者 113 人の満足度は 6.40、有効回答数は双方合わせて 449 件である。異なる集合の平均の差を調べる際に、その値の差が誤差の範囲にあるのかどうか判断するための方法である T 検定により、今後芽室町外に移住を考える回答者と移住を望まない回答者との間に意識の差異を確認することができた。さらに、芽室町に住み続けたい理由として郷土愛を選択した回答者 170 人の満足度は 7.25 であり、郷土愛を選択しなかった回答者 286 人の満足度は 6.97、有効回答数は双方合わせて 456 件であった。T 検定により「郷土愛の有無」からは意識の差異を確認することはできなかった。このことから、「郷土愛の有無」は町民の満足度に影響を与える要因にはなりえないと考えられる。

(2) 属性による住民意識

回答者の性別、年代、世代などの属性から町民の意識の差異を確認する。そのため平均値の差の検定である T 検定を用いて回答者属性の意識の差異を確認した。本調査による回答者全体の内訳は図表 4-67 の通りである

①男女別分析結果

I 芽室町に関する意識

男女の芽室町に関する意識の差を確認する。本調査による回答者の内訳は図表 4-54 図表 4-55 図表 4-56 の通りである。

T 検定の結果から 1 食糧品購買、2 日用品購買、5 教育、8 居住地、10 友人交流、12 偶然の出会い、14 自然、16 散策の項目で意識の差があると判明した。総じて女性の方が男性よりも平均値が高い。有効回答数は 448 件 内、男性 146 件女性 302 件である。

施設・環境を要因に持つ項目 1、2 から女性は男性に比べて食糧品や日用品の購買について便利だと考えていることが判明した。生活環境を要因に持つ項目 5、8 から詳細要因 教育について男性 3.62、女性 3.84、詳細要因 居住地について男性 3.64、女性 3.87、とどちらの平均値も高いが女性の方がより芽室町は教育と家族が生活するには良いところだと捉

えていることがわかる。近隣交流を要因に持つ項目 10、12 から詳細要因 友人交流について男性 2.86、女性 3.18、詳細要因 偶然の出会いについて男性 2.36、女性 3.02 と両項目とも男性の平均値が中間点「3」を下回っている。このことから、男性は近隣の住人との交流の機会に不足を感じている、もしくは更なる交流の機会を望んでいると推測することができる。立地を要因に持つ項目 14、16 から女性は男性よりも芽室町に自然を感じ、散策に良い街だと感じていることが判明した。有効回答数は男性 146 件女性 301 件男女合わせて 447 件である。

II 生活満足度

満足度のついては、男性の満足度は 6.82、女性の満足度 7.20、と女性の方が満足度が高く、T 検定により、男女間に意識の差異を確認することができた。有効回答数は男性 148 件女性 308 件男女合わせて 456 件である。

②年代別分析結果

ここでは回答者を 3 つの年代に分類し、40 代以下の回答者を子育て中の働く年代、50 代・60 代を子供が独り立ちし、子育てが終了した年代、70 代以上の回答者を仕事を退職し自由に時間を使うことのできる年代と考えた。以上の各年代について考察する。図表 4-57 20 代、30 代、40 代の回答結果、図表 4-58 50 代、60 代の回答結果、図表 4-59 70 代、80 代、90 代の回答結果から各年代・年代間の意識の差異を確認することができた項目のみ解説する。

I 芽室町に関する意識

項目 3 専門品購買より、年代が上がるほど、洋服、家電製品の買い物に便利であるという回答結果が出ているが、裏を返せば、若い年代はあまり洋服、家電製品の買い物に便利ではないと思っている可能性が推測される。項目 4 病院から 60 代以下の年代と 70 代以上の年代の間に意識の差を確認することができる。70 代以上の年代は他の年代と比べて必要な病院が近くにあると考えている。

項目 6 仕事では、40 代以下の年代と 50 代から 60 代の年代に差はなく、60 代と 70 代の間に意識の差が存在し、40 代以下の年代と 70 代以上の年代に差はないことが判明したが理由まではこの調査項目ではわからなかった。

項目 8 居住地より、40 代以下の年代は 50 代以上の年代と比べて家族が生活するには良いところだと感じている。40 代以下の年代は子育てしている家庭が多く子供がいる年代は特に良いと感じていることが判明した。

項目 9 休息から年代が上がるほど、家の外に一人でくつろげる場所があると感じていることがわかったが理由まではこの調査項目ではわからなかった。

項目 11 世代間交流では、40 代以下の年代と 50 代から 60 代の年代に差はなく、60 代と 70 代の間に意識の差が存在し、40 代以下の年代と 70 代以上の年代に差はないことが判明したが理由まではこの調査項目ではわからなかった。

項目 12 偶然の出会い、知人・友人と偶然出会う場所がある、という項目だが 40 代以下の年代と 50 代 60 代の年代では 40 代以下の年代の方が平均値が高く、70 代以上の年代と 50 代 60 代の年代では 70 代以上の年代の方が平均値が高い。また、40 代以下の年代と 70 代以上の年代では 40 代以下の年代では 40 代以下の年代の方が平均値が高いことが判明した。このことから 50 代 60 代の年代は友人知人と偶然に出会う場所が少なく、40 代以下の年代は圧倒的に多いということが推測される。項目 13 地域活動では 40 代以下の年代と 50 代から 60 代の年代に差はなく、60 代と 70 代の間に意識の差が存在し、40 代以下の年代と 70 代以上の年代に差はないことが判明したが理由まではこの調査項目ではわからなかった。

項目 14 自然では、40 代以下の年代と 50 代以上の年代の間に意識の差があり、40 代以下の年代は他の年代と比べて自然を感じることができると感じている。50 代以上の人間は昔と比べて自然が少ないと感じている可能性があるが、長く同じ場所に住み続けると、自分が住んでいる土地が他の土地と比べて大きく異なる特徴を持っていても、それが日常として扱われるためその特徴に気付くことができないということがある。項目 14 ではそれがこの意識の差として表れていると推測される。

有効回答数は全体で 448 件、40 代以下の年代 115 件、50 代・60 代の年代 215 件、70 代以上の年代 118 件である。

II 生活満足度

満足度のついては、40 代以下の年代の満足度は 7.37、50 代・60 代の満足度 7.05、70 代以上の年代の満足度 6.82 であった。T 検定の結果、40 代以下の年代と 70 代以上の年代間に意識の差異を確認した。各年代の満足度と T 検定の結果から、年代が上がるにつれて満足度が低下することが判明した。有効回答数は全体で 456 件、40 代以下の年代 116 件、50 代・60 代の年代 219 件、70 代以上の年代 121 件である。

② 中学生以下の子どもがいる家庭といない家庭別分析結果

I 芽室町に関する意識

中学生以下の子どもがいる家庭といない家庭の意識の差異を確認する。本調査による回答者の内訳は図表 4-62 中学生以下の子どもがいる家庭図表 4-63 中学生以下の子どもがいない家庭の通りである。

3 専門品購買、8 居住地、9 休息、12 偶然の出会い、の 4 つの項目で意識の差異が確認された。項目 3 は中学生以下の子どもがいる家庭 1.35 いない家庭 1.92 で、どちらの数値も平均より大きく低いが、子どもがいる家庭の方が専門品の購買に不便を感じているということがわかる。項目 8 は中学生以下の子どもがいる家庭 4.02 いない家庭 3.73 でどちらの数値も「高い」上程であり芽室町は家族と生活するのに良いところだと感じていることが見て取れるが、中学生以下の子どもがいる家庭の方がより芽室町的生活環境を評価していることが判明した。項目 9 は中学生以下の子どもがいる家庭 2.31 いない家庭 2.77 と、中学生以

下の子どもがいない家庭の回答者の方が家の外に一人でくつろげる場所があると回答していることがわかる。中学生以下の子どもがいる家庭の回答者は子供の面倒を見ているために一人でくつろぐ時間そのものが少ないことが理由として考えられる。項目 12 では中学生以下の子どもがいる家庭 3.22 いない家庭 2.68 知人友人と偶然出会う場所があると考えているのは中学生以下の子どもがいる家庭の回答者である。

有効回答数は中学生以下の子どもがいる家庭 98 件、中学生以下の子どもがいない家庭 349 件、合わせて 447 件である。

II 生活満足度

満足度のついては、中学生以下の子どもがいる家庭の満足度は 6.98 中学生以下の子どもがいない家庭の満足度 7.42 であった。T 検定の結果から中学生以下の子どもがいる家庭といない家庭の間に意識の差異を確認することができた。このことから、中学生以下の子どもがいない家庭の方が満足度が高いことがわかる。有効回答数は中学生以下の子どもがいる家庭 358 件、中学生以下の子どもがいない家庭 98 件、合わせて 456 件である。

④世代別分析結果

I 芽室町に関する意識

1 世代同居者と 2 世代同居者の意識の差異を確認する。本調査による回答者の内訳は、図表 4-60 1 世代同居者の回答結果、図表 4-61 2 世代同居者の回答結果の通りである。

項目 3 専門品購買より 1 世代同居者の方が洋服、家電の買い物に便利だと感じていることがわかった。項目 12 偶然の出会いでは 2 世代同居者の方が知人と出会うところがあると回答しているがこれは同居している家族を通じて 1 世代同居者に比べて広い交友関係の構築と交流を持っていることが原因要素であると考えられる。項目 14 自然で 2 世代同居者の方が自然を感じるができると回答している。有効回答数は 1 世代同居者 243 件、2 世代同居者 177 件、合わせて 420 件である。

II 生活満足度

満足度のついては、1 世代同居者の満足度は 6.94、2 世代同居者の満足度 7.19 であった。T 検定の結果から 1 世代同居者と 2 世代同居者の間に意識の差異を確認することはできなかった。以上のことから、「世代」としての家族形態は芽室町の満足度に違った認識をもたらす要素にはならないと考えられる。有効回答数は 1 世代同居者 245 件、2 世代同居者 181 件、合わせて 426 件である。

⑤自家用車の所有者と未所有者別分析結果

I 芽室町に関する意識

近隣交流を要因に持つ項目 9 休息から意識の差異が確認された。所有者と未所有者の平均値はそれぞれ 2.60、3.07 である。自家用者未所有者の方が家の外に一人でくつろぐ場所があると感じていることが判明した。有効回答数は自家用車の所有者 379 件、自家用者の

未所有者 69 件、合わせて 448 件である。

Ⅱ 生活満足度

満足度のついては、自家用車の所有者の満足度は 7.07、自家用者の未所有者の満足度 7.25、である。T 検定の結果から自家用車の所有者と未所有者の間に意識の差異を確認することはできなかつた。以上のことから、「自家用車所有の有無」は芽室町の満足度に違った認識をもたらす要素にはならないと考えられる。有効回答数は自家用車の所有者 385 件、自家用者の未所有者 71 件、合わせて 456 件である。

⑥ 住まい別分析結果

Ⅰ 芽室町に関する意識

一戸建に住んでいる回答者とアパートやマンションなどの一戸建て以外に住んでいる回答者の意識の差を確認した。項目 3 専門品購買から一戸建に住んでいる回答者の方が洋服、家電製品などの専門品の買い物に便利であると感じていることが判明した。項目 15 都会隣接のショッピングセンターなどの大型商業施設まで近いと回答しているのも一戸建の回答者である有効回答数は一戸建に住んでいる回答者 384 件、一戸建て以外に住んでいる回答者 64 件、合わせて 448 件である。

Ⅱ 生活満足度

満足度のついては、一戸建に住んでいる回答者の満足度は 7.06 一戸建て以外に住んでいる回答者の満足度 7.16 である。T 検定の結果から一戸建に住んでいる回答者と一戸建以外に住んでいる回答者の間に意識の差異を確認することはできなかつた。以上のことから、町民の「住居形態」の違いは芽室町の満足度に違った認識をもたらす要素にはならないと考えられる。有効回答数は一戸建に住んでいる回答者 392 件、一戸建て以外に住んでいる回答者 64 件、合わせて 456 件である。

※5段階評価でお答えください。	思う ← 思わない				
	5	4	3	2	1
(1) 普通の食料品の買い物に便利である。	5	4	3	2	1
(2) 石鹸、シャンプーなどの日用品の買い物に便利である。	5	4	3	2	1
(3) 洋服、家電製品などの専門品の買い物に便利である。	5	4	3	2	1
(4) 病気やけがをしたときに必要な病院が近くにある。	5	4	3	2	1
(5) 子どもの教育に良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(6) 働く人に良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(7) 高齢者が住みやすいところだと思う。	5	4	3	2	1
(8) 家族が生活するには良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(9) 私には家の外で、一人でくつろげるところがある。	5	4	3	2	1
(10) 私には家の外で、友人と話を楽しむところがある。	5	4	3	2	1
(11) 高齢者と子どもが話をしているところをよく見かける。	5	4	3	2	1
(12) 知人・友人と偶然出会う場所がある。	5	4	3	2	1
(13) 道路沿いの花壇作りや清掃に多くの人が参加している。	5	4	3	2	1
(14) 自然を感じることができる街である。	5	4	3	2	1
(15) ショッピングセンターなどの大型商業施設まで近い。	5	4	3	2	1
(16) 散策には良い街である。	5	4	3	2	1

あなたの住む地区の満足度は10点満点で何点ですか？ () 点

図表 4-52 芽室町についての質問票

	詳細要因	質問回答の尺度	
施設・環境	(1) 食糧品購買	5 ← → 1	高環境利便性 低環境利便性
	(2) 日用品購買		
	(3) 専門品購買		
	(4) 病院		
生活環境	(5) 教育	5 ← → 1	高生活環境 低生活環境
	(6) 仕事		
	(7) 高齢者		
	(8) 居住地		
近隣交流	(9) 休息	5 ← → 1	多交流機会 低交流機会
	(10) 友人交流		
	(11) 世代間交流		
	(12) 偶然の出会い		
立地	(13) 地域活動	5 ← → 1	良地域関心 低地域関心
	(14) 自然		
	(15) 都会隣接		
	(16) 散策		

図表 4-53 質問意図

回答者平均値

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	220	137	64	19	7	4.22
2	195	144	78	14	16	4.09
3	8	15	76	125	223	1.79
4	141	145	95	50	16	3.77
5	115	152	150	20	10	3.77
6	42	94	231	60	20	3.17
7	55	150	200	36	6	3.47
8	96	185	147	15	4	3.79
9	49	78	116	84	120	2.67
10	74	102	127	70	74	3.07
11	4	8	104	178	153	1.95
12	42	74	154	108	69	2.80
13	53	129	162	72	31	3.23
14	149	165	110	19	4	3.98
15	59	126	146	64	52	3.17
16	111	148	137	35	16	3.68

図表 4-54 芽室町全体の回答者平均値

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	60	49	22	12	3	4.03
2	54	46	28	9	9	3.87
3	1	7	29	44	65	1.87
4	40	49	33	16	8	3.66
5	29	47	59	7	4	3.62
6	11	34	69	26	6	3.12
7	12	50	66	15	3	3.36
8	21	63	53	6	3	3.64
9	14	23	46	36	27	2.73
10	12	34	44	33	23	2.86
11	2	1	32	63	48	1.95
12	4	15	47	44	36	2.36
13	14	38	54	26	14	3.08
14	37	56	39	13	1	3.79
15	16	44	50	22	14	3.18
16	21	50	52	14	9	3.41

図表 4-55 男性の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	160	88	42	7	4	4.31
2	141	98	50	5	7	4.20
3	7	8	47	81	158	1.75
4	101	96	62	34	8	3.82
5	86	105	91	13	6	3.84
6	31	60	162	34	14	3.20
7	43	100	134	21	3	3.53
8	75	122	94	9	1	3.87
9	35	55	70	48	93	2.64
10	62	68	83	37	51	3.18
11	2	7	72	115	105	1.96
12	38	59	107	64	33	3.02
13	39	91	108	46	17	3.30
14	112	109	71	6	3	4.07
15	43	82	96	42	38	3.17
16	90	98	85	21	7	3.81

図表 4-56 女性の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	62	30	13	6	4	4.22
2	56	34	14	4	7	4.11
3	1	1	9	21	83	1.40
4	31	36	26	16	6	3.61
5	32	39	35	5	4	3.78
6	12	22	56	18	7	3.12
7	12	38	54	9	2	3.43
8	33	54	24	3	1	4.00
9	11	16	19	23	46	2.33
10	20	24	30	18	23	3.00
11	1	3	27	40	44	1.93
12	19	35	29	20	12	3.25
13	14	32	44	17	8	3.23
14	53	40	18	3	1	4.23
15	20	26	31	16	22	3.05
16	38	28	34	13	2	3.76

図表 4-57 20代、30代、40代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	103	65	35	9	2	4.21
2	91	66	44	6	7	4.07
3	1	5	24	75	109	1.66
4	62	68	53	23	8	3.71
5	51	74	71	13	5	3.71
6	19	38	115	32	10	3.11
7	27	64	102	18	3	3.44
8	44	83	75	9	3	3.73
9	25	35	55	45	54	2.68
10	36	48	57	36	37	3.05
11	2	4	37	94	77	1.88
12	15	25	65	65	44	2.54
13	17	63	74	41	19	3.08
14	55	85	63	9	2	3.85
15	25	63	75	33	18	3.21
16	40	79	68	15	12	3.56

図表 4-58 50代、60代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	55	42	16	4	1	4.24
2	48	44	20	4	2	4.12
3	6	9	43	29	31	2.41
4	48	41	16	11	2	4.03
5	32	39	44	2	1	3.84
6	11	34	60	10	3	3.34
7	16	48	44	9	1	3.58
8	19	48	48	3	0	3.70
9	13	27	42	16	20	2.97
10	18	30	40	16	14	3.19
11	1	1	40	44	32	2.11
12	8	14	60	23	13	2.84
13	22	34	44	14	4	3.47
14	41	40	29	7	1	3.96
15	14	37	40	15	12	3.22
16	33	41	35	7	2	3.81

図表 4-59 70代、80代、90代の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	111	75	43	10	3	4.16
2	103	75	49	8	7	4.07
3	5	10	51	71	105	1.92
4	78	77	51	29	7	3.79
5	61	75	88	13	5	3.72
6	26	48	126	34	8	3.21
7	31	73	111	25	2	3.44
8	43	90	96	12	1	3.67
9	29	42	72	43	56	2.77
10	44	58	71	32	37	3.17
11	3	5	57	90	87	1.95
12	20	29	83	63	47	2.64
13	30	65	91	41	15	3.22
14	79	79	68	14	2	3.90
15	30	59	87	36	30	3.10
16	58	81	77	15	11	3.66

図表 4-60 1世代同居者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	90	56	18	9	4	4.24
2	76	60	27	6	8	4.07
3	2	3	21	47	104	1.60
4	56	55	41	18	7	3.76
5	49	62	58	5	3	3.84
6	15	40	88	23	11	3.14
7	21	67	76	10	3	3.53
8	44	82	46	3	2	3.92
9	18	30	36	36	57	2.53
10	25	40	47	34	31	2.97
11	1	3	42	76	55	1.98
12	19	38	60	40	20	2.98
13	18	56	62	29	12	3.22
14	62	74	37	3	1	4.09
15	22	60	51	25	19	3.23
16	44	58	55	18	2	3.70

図表 4-61 2世代同居者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	49	29	11	7	2	4.18
2	44	31	15	4	4	4.09
3	0	0	7	20	71	1.35
4	26	35	20	12	5	3.66
5	30	34	29	4	1	3.90
6	10	20	49	13	6	3.15
7	12	34	46	5	1	3.52
8	31	42	22	2	1	4.02
9	8	15	13	25	37	2.31
10	16	22	24	15	21	2.97
11	0	2	25	40	31	1.98
12	17	27	25	19	10	3.22
13	12	27	32	16	11	3.13
14	40	35	19	3	1	4.12
15	17	24	27	14	16	3.12
16	28	29	29	11	1	3.73

図表 4-62 中学生以下の子どもがいる家庭

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	171	108	53	12	5	4.23
2	151	113	63	10	12	4.09
3	8	15	69	105	152	1.92
4	115	110	75	38	11	3.80
5	85	118	121	16	9	3.73
6	32	74	182	47	14	3.18
7	43	116	154	31	5	3.46
8	65	143	125	13	3	3.73
9	41	63	103	59	83	2.77
10	58	80	103	55	53	3.10
11	4	6	79	138	122	1.95
12	25	47	129	89	59	2.68
13	41	102	130	56	20	3.25
14	109	130	91	16	3	3.93
15	42	102	119	50	36	3.18
16	83	119	108	24	15	3.66

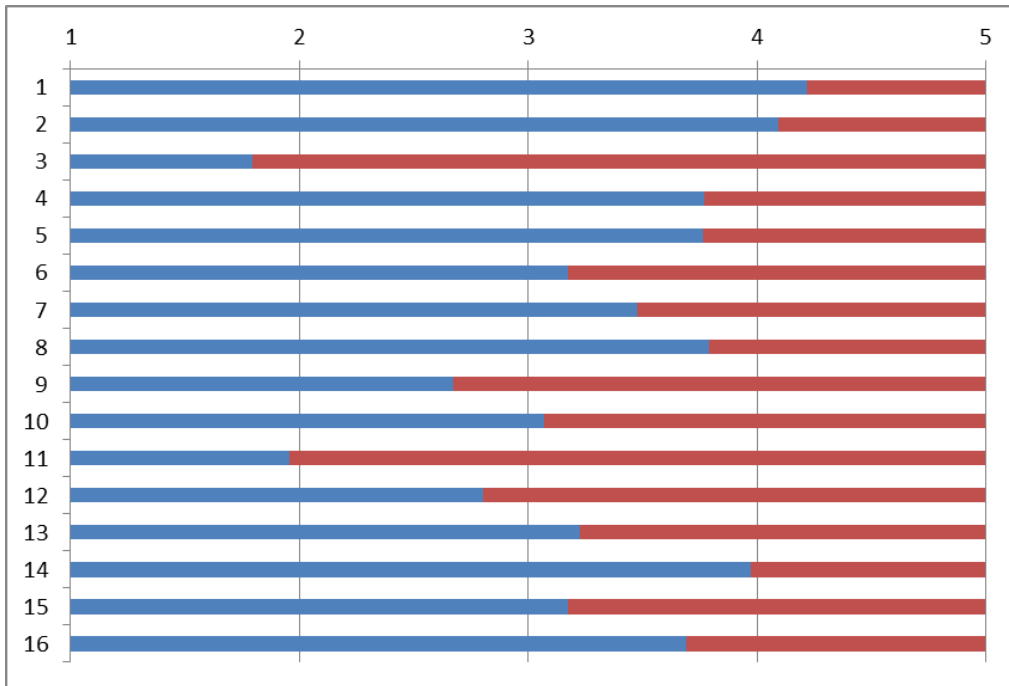
図表 4-63 中学生以下の子どもがいない家庭

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	180	122	51	18	7	4.19
2	160	130	60	14	14	4.08
3	6	13	61	103	195	1.76
4	117	126	77	45	13	3.76
5	100	132	120	18	8	3.79
6	33	78	195	54	18	3.14
7	43	129	170	31	5	3.46
8	80	160	123	12	3	3.80
9	36	67	91	76	108	2.60
10	59	83	110	62	64	3.03
11	3	5	89	147	134	1.93
12	40	60	131	87	60	2.82
13	44	108	136	61	29	3.20
14	130	137	88	19	4	3.98
15	51	107	123	53	44	3.18
16	93	124	116	32	13	3.67

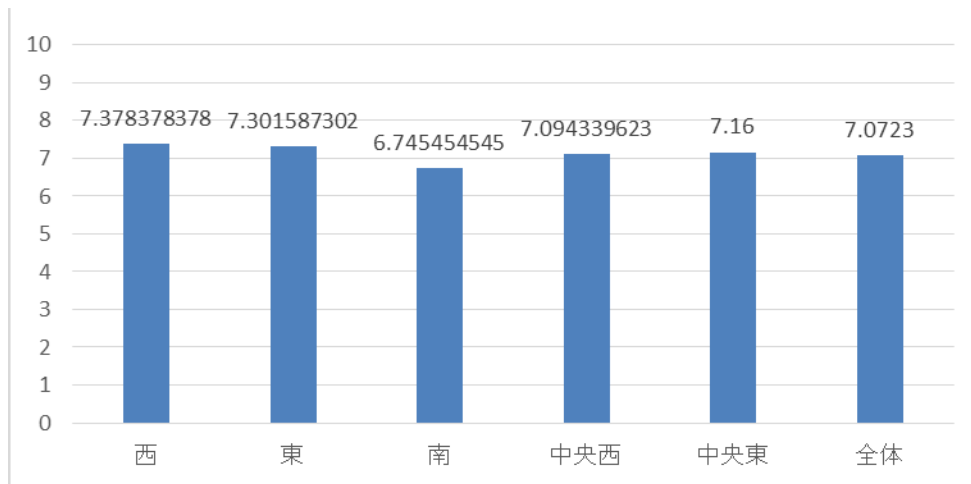
図表 4-64 自家用車所有者の回答結果

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	40	15	13	1	0	4.36
2	35	14	18	0	2	4.16
3	2	2	15	22	28	1.96
4	24	19	18	5	3	3.81
5	15	20	30	2	2	3.64
6	9	16	36	6	2	3.35
7	12	21	30	5	1	3.55
8	16	25	24	3	1	3.75
9	13	11	25	8	12	3.07
10	15	19	17	8	10	3.30
11	1	3	15	31	19	2.07
12	2	14	23	21	9	2.70
13	9	21	26	11	2	3.35
14	19	28	22	0	0	3.96
15	8	19	23	11	8	3.12
16	18	24	21	3	3	3.74

図表 4-65 自家用車未所有者の回答結果



図表 4-66 芽室町全体の回答者平均値

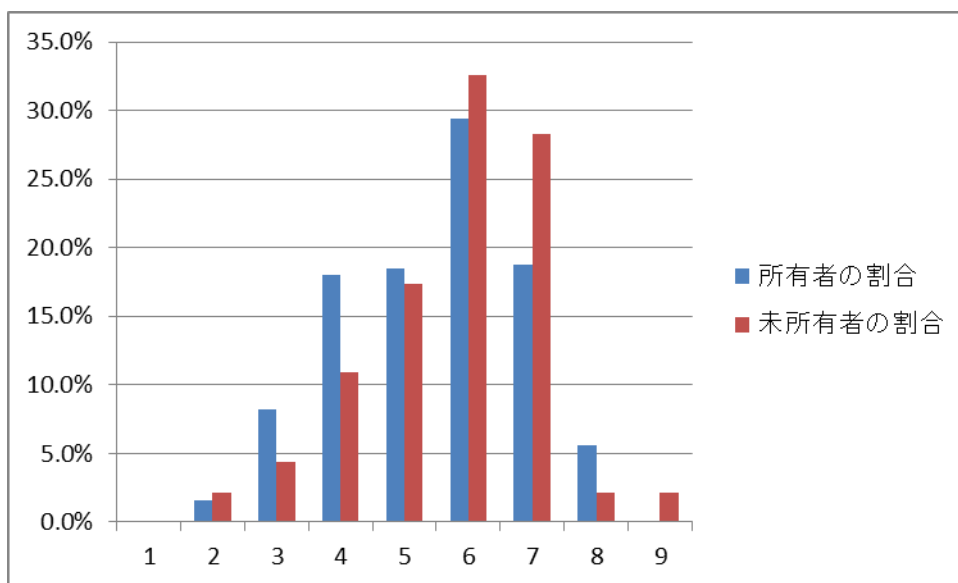


図表 4-67 ブロック別満足度

自家用車

年代	所有者人数	未所有者人数	所有者割合	未所有者割合
10	0	0	0.0%	0.0%
20	6	1	1.6%	2.2%
30	31	2	8.2%	4.3%
40	68	5	18.0%	10.9%
50	70	8	18.5%	17.4%
60	111	15	29.4%	32.6%
70	71	13	18.8%	28.3%
80	21	1	5.6%	2.2%
90	0	1	0.0%	2.2%
合計人数	378	46	100.0%	100.0%

図表 4-68 自家用車所有者未所有者人数・割合



図表 4-69 自家用車所有者未所有者割合

T 検定結果

男女

1	.007	**
2	.003	**
3	.228	
4	.164	
5	.022	*
6	.419	
7	.056	
8	.007	**
9	.458	
10	.011	*
11	.891	
12	.000	**
13	.052	
14	.003	**
15	.917	
16	.000	**

20, 30, 40 と、50, 60

1	.920	
2	.707	
3	.003	**
4	.425	
5	.559	
6	.932	
7	.894	
8	.006	**
9	.026	*
10	.765	
11	.606	
12	.000	**
13	.225	
14	.000	**
15	.298	
16	.116	

50, 60 と、70, 80, 90

1	.757	
2	.629	
3	.000	**
4	.009	**
5	.236	
6	.026	*
7	.140	
8	.783	
9	.044	*
10	.330	
11	.016	*
12	.014	*
13	.001	**
14	.316	
15	.908	
16	.028	*

20, 30, 40 と、70, 80, 90

1	.876	
2	.967	
3	.000	**
4	.003	**
5	.650	
6	.077	
7	.155	
8	.004	**
9	.000	**
10	.271	
11	.116	
12	.005	**
13	.083	
14	.025	*
15	.306	
16	.673	

一世代と二世代

1	.426	
2	.975	
3	.000	**
4	.839	
5	.188	
6	.486	
7	.301	
8	.002	**
9	.062	
10	.122	
11	.003	**
12	.003	**
13	.978	
14	.033	*
15	.238	
16	.695	

戸建と

アパート・マンション・その他

1	.379	
2	.577	
3	.000	**
4	.199	
5	.287	
6	.685	
7	.129	
8	.582	
9	.174	
10	.012	*
11	.064	
12	.708	
13	.527	
14	.071	
15	.011	*
16	.495	

車所有と、未所有

1	.130	
2	.547	
3	.139	
4	.750	
5	.231	
6	.092	
7	.447	
8	.702	
9	.006	**
10	.116	
11	.227	
12	.361	
13	.279	
14	.832	
15	.677	
16	.595	

中学生以上の子供がいる家庭
と、いない家庭

1	.711	
2	.999	
3	.000	**
4	.287	
5	.113	
6	.805	
7	.533	
8	.002	**
9	.002	**
10	.401	
11	.718	
12	.000	**
13	.363	
14	.069	
15	.678	
16	.539	

生まれたとき・こどものときか
らと、社会人になってから

1	.107	
2	.237	
3	.033	*
4	.039	*
5	.367	
6	.213	
7	.449	
8	.600	
9	.288	
10	.340	
11	.529	
12	.096	
13	.590	
14	.595	
15	.082	
16	.172	

第5章 まちなか縁側プロジェクトについて

この章では「まちなか縁側プロジェクト」をキーワードにアンケート分析を行った結果について報告する。

5-1 まちなか縁側プロジェクトの認識率について

(1) まちなか縁側プロジェクト認識率について

本調査による回答者 455 名のうち、まちなか縁側プロジェクト認識者は、225 名非認識は 230 名。まちなか縁側プロジェクト認識率、非認識率はそれぞれ 49%、51%である。また、認識者の男女内訳は男性 24%、女性 76%と女性の割合が圧倒的に多い。認識者の年代別認識者内訳は 20 代 13%、30 代 15%、40 代 17%、50 代 16%、60 代 12%、70 代 17%、80 代以上 10%と 40 代と 70 代の認識率が高く、60 代 80 代以上の認識率が低いのが特徴である。認識者のブロック別回答者内訳は西ブロック 21%、南ブロック 22%、東ブロック 17%、中央西ブロック 18%、中央東ブロック 22%、であり、西ブロック、南ブロック、中央東ブロックと東ブロック、中央西ブロックの間に認識率の差が存在する。また、属性ごとの認識率は図表 5-1 まちなか縁側プロジェクト認識率の通りである。

(2) リビング caféENGAWA 認識率について

本調査による回答者 456 名のうち、リビング caféENGAWA 認識者は 237 名、非認識は 219 名。認識率、非認識率はそれぞれ 52%、48%である。また、認識者の男女内訳は男性 21%、女性 78%と女性の割合が圧倒的に多い。認識者の年代別認識者内訳は 20 代 19%、30 代 17%、40 代 18%、50 代 15%、60 代 12%、70 代 12%、80 代以上 7%若年代の回答者ほど、リビング caféENGAWA の認識率が高いことが特徴である。認識者のブロック別回答者内訳は西ブロック 20%、南ブロック 22%、東ブロック 17%、中央西ブロック 22%、中央東ブロック 19%、である。また、属性ごとの認識率は図表 5-2 リビング caféENGAWA 認識率の通りである。

(3) マルチスペース縁側ひろば認識率について

本調査による回答者 456 名のうち、マルチスペース縁側ひろば認識者は、178 名非認識は 278 名。認識率、非認識率はそれぞれ 39%、61%である。また、認識者の男女割合は男性 26%、女性 74%と女性の割合が圧倒的に多い。認識者の年代別認識者割合は 20 代 11%、30 代 15%、40 代 18%、50 代 14%、60 代 14%、70 代 16%、80 代以上 12%と 40 代と 70 代の認識率が高く、20 代の認識率が低いのが特徴である。認識者のブロック別回答者割合は西ブロック 21%、南ブロック 21%、東ブロック 16%、中央西ブロック 21%、中央東ブロック 21%、であった。また、属性ごとの認識率は図表 5-3 マルチスペース縁側ひろば認識率の通りである。

5-2 意識について

「生活および購買意識」「芽室町民の生活における行動・意識」「芽室町に関する意識」上記の観点から、まちなか縁側プロジェクトの認識者と非認識者の意識の差異を確認する。

(1) 生活および購買意識について

①まちなか縁側プロジェクトの認識者と非認識者自身の生活や購買意識を確認する質問した。図表 5-16 まちなか縁側プロジェクトを知っている 図表 5-17 まちなか縁側プロジェクトを知らないから、まちなか縁側プロジェクトの認識者と非認識者では、1 受動的収集、3 主体的収集、4 購買時収集、6 品質重視、7 店舗選択、11 友人との絆、13 社会楽観の項目で意識の差異を確認することができた。

情報指向性を要因に持つ項目 1、3、4 はいずれもプロジェクト認識者の方が平均値が高く、購買時に積極的に情報を収集する高い情報指向がうかがえた。購買態度を要因に持つ 6、7 と優先動向を要因に持つ項目 11 もそれぞれプロジェクトの認識者の方が平均値が高い傾向にある。6 の項目からプロジェクトの認識者は品質重視の傾向にあることが判明した。多くの家族と同居している回答者はその家族を大切に思うことから、品質重視的になる傾向がある。7 の項目からプロジェクトの認識者は遠くの種類や量が豊富な店よりも、近くの店を利用する傾向が見てとれる。11 の項目は多くの家族と同居している回答者はこの項目に優先度を持っている傾向にある。社会・経済を要因に持つ項目 13 はプロジェクト非認識者の平均値が高いが、この広告は回答者の年代が高くなればなるほど、平均値が高くなり、少子高齢化などの社会問題への関心が薄くなることを「生活・購買意識」「年代別分析結果」社会経済、項目 13 社会楽観から確認している。以上の項目からまちなか縁側プロジェクトの認識者は、高い情報指向を持ち、近くの店を利用し、比較的若い世代の町民であると推測する。有効回答数はまちなか縁側プロジェクト認識者 225 件、まちなか縁側プロジェクト非認識者 229 件、合わせて 454 件である。

②リビング caféENGAWA の認識者と非認識者の意識を確認する。

図表 5-18 リビング caféENGAWA を知っている 図表 5-19 リビング caféENGAWA を知らない から意識の差異が確認された項目は 1 受動的収集、4 購買時収集、5 衝動買い、6 品質重視、7 店舗選択、11 友人との絆、13 社会楽観、15 品質楽観である。

情報指向性を要因に持つ項目 1、4 は認識者の方が高い。購買態度を要因に持つ 5、6、7 は認識者の方が平均値が高く、積極的な購買態度をうかがうことができる。優先動向を要因に持つ項目 11 もそれぞれプロジェクトの認識者の方が平均値が高い傾向にある。社会・経済を要因に持つ項目 13、15 はプロジェクト非認識者の平均値が高いが、この広告は回答者の年代が高くなればなるほど、平均値が高くなり、少子高齢化などの社会問題への関心が薄くなることを「生活・購買意識」「年代別分析結果」社会経済、項目 13 社会楽観、15 品質楽観から確認している。有効回答数はリビング caféENGAWA の認識者 237 件と非認

識者 219 件、合わせて 456 件である。

③マルチスペース縁側ひろばの認識者と非認識者の意識を確認する。

図表 5-20 マルチスペース縁側ひろばを知っている 図表 5-21 マルチスペース縁側ひろばを知らないから 差異が確認された項目は 1 受動的収集、4 購買時収集、7 店舗選択、13 社会楽観である。

情報指向性を要因に持つ項目 1、4 はは認識者の方が高い。購買態度を要因に持つ 7 は認識者の方が平均値が高く、認識者は遠くの種類の豊富な店よりも、近くの店を利用する様子がうかがえた。社会・経済を要因に持つ項目 13 はプロジェクト非認識者の平均値が高いが、この広告は回答者の年代が高くなればなるほど、平均値が高くなり、少子高齢化などの社会問題への関心が薄くなることを「生活・購買意識」「年代別分析結果」社会経済、項目 13 社会楽観から確認している。有効回答数はマルチスペース縁側ひろばの認識者 178 件、非認識者 278 件、合わせて 456 件である。

(2) 芽室町民の生活における行動・意識について

①まちなか縁側プロジェクトの認識者と非認識者自身の意識を確認する質問した。

図表 5-22 まちなか縁側プロジェクトを知っている 図表 5-23 まちなか縁側プロジェクトを知らない から意識の差異が確認された項目 1 食生活観、3 子供交流、5 近隣交流、6 交流欲求、7 積極的交流、8 地域参加はすべてプロジェクトの認識者平均値が非認識者の平均値を上回っていた。

健康を要因に持つ項目 1 からプロジェクトの認識者は食生活に気を使っていることがわかる。子育てを要因に持つ項目 3 から回答者は地域の子どもたちと交流していることがわかるが、芽室町でこの項目の平均値が高い回答者は回答者自身に中学生以下の子どもがいることが多い。近所づきあいを要因に持つ項目 5、6、地域活動を要因に持つ項目 7、8 からプロジェクトの認識者は近隣の町民との交流を持ち、自治会・町内会の活動に積極的に参加する傾向があることが読みとれる。有効回答数はまちなか縁側プロジェクト認識者 224 件、まちなか縁側プロジェクト非認識者 227 件、合わせて 451 件である。

②リビング caféENGAWA の認識者と非認識者の意識を確認する。

図表 5-24 リビング caféENGAWA を知っている 図表 5-25 リビング caféENGAWA を知らないから意識の差異が確認された項目 3 子供交流、5 近隣交流、6 交流欲求、8 地域参加、はすべてプロジェクトの認識者平均値が非認識者の平均値を上回っていた。

子育てを要因に持つ項目 3 から回答者は地域の子どもたちと交流していることがわかるが、芽室町でこの項目の平均値が高い回答者は回答者自身に中学生以下の子どもがいることが多い。近所づきあいを要因に持つ項目 5、6 地域活動を要因に持つ項目 8 からプロジェクトの認識者は近隣の町民との交流を持ち、自治会・町内会の活動に積極的に参加する傾

向があることが読みとれる。リビング caféENGAWA の認識者 236 件、リビング caféENGAWA の非認識者 216 件、合わせて 452 件である。

③マルチスペース縁側ひろばの認識者と非認識の意識を確認する。

図表 5-26 マルチスペース縁側ひろばを知っている 図表 5-27 マルチスペース縁側ひろばを知らないから 差異が確認された項目 3 子供交流、5 近隣交流、8 地域参加はすべてプロジェクトの認識者平均値が非認識者の平均値を上回っていた。

子育てを要因に持つ項目 3 から回答者は地域の子どもたちと交流していることがわかるが、芽室町でこの項目の平均値が高い回答者は回答者自身に中学生以下の子どもが多い。近所づきあいを要因に持つ項目 5、地域活動を要因に持つ項目 8、からプロジェクトの認識者は近隣の町民と気軽に挨拶できるという交流性を持ち、自治会・町内会の活動に参加するなど、近所付き合いが良好にできていると考えられる。マルチスペース縁側ひろばの認識者 177 件、マルチスペース縁側ひろばの非認識者 275 件、合わせて 452 件である。

(3) 芽室町に関する意識について

①まちなか縁側プロジェクトの認識者と非認識者の芽室町に関する意識を確認する。

図表 5-28 まちなか縁側プロジェクトを知っている 図表 5-29 まちなか縁側プロジェクトを知らない から意識の差異が確認された項目 1 食糧品購買、2 日用品購買、4 病院、5 教育、6 仕事、8 居住地、9 休息、10 友人交流、11 世代間交流、12 偶然の出会い、13 地域活動、14 自然、15 都会隣接はすべてプロジェクトの認識者平均値が非認識者の平均値を上回っていた。

施設・環境を要因に持つ項目 1、2、4 の平均値がプロジェクト認識者の方が高いことから、プロジェクトの認識者は非認識者よりも芽室町の施設・環境の満足していることが見て取れる。生活環境を要因に持つ項目 5、6、8 から、プロジェクト認識者は自分の生活環境に良い印象を持っていると推測することができる。5 と 8 の項目からプロジェクト認識者は子育てをしている最中の世代だと考えることいえる。近隣交流を要因に持つ項目 9、10、11、12 すべてがプロジェクト認識者の平均値が高く、プロジェクト認識者の交流機会の多さと社交性の高さをうかがえる。立地を要因に持つ項目 13、14、15 から、プロジェクト認識者の地域活動への印象のよさ、良好な自然環境感、また都会隣接の平均値が高いことが判明した。有効回答数はまちなか縁側プロジェクト認識者 220 件、まちなか縁側プロジェクト非認識者 225 件、合わせて 445 件である。

満足度のついては、まちなか縁側プロジェクトの認識者の満足度は 7.22、まちなか縁側プロジェクトの非認識者の満足度 6.93、である。異なる集合の平均の差を調べる際に、その値の差が誤差の範囲にあるのかどうか判断するための方法である T 検定によりまちなか縁側プロジェクトの認識者と非認識者の間に意識の差異を確認することはできなかった。

このことから、「まちなか縁側プロジェクトの認識の有無」は芽室町の満足度に違った認識をもたらす要素にはならないと考えられる。有効回答数はまちなか縁側プロジェクト認識者 225 件、まちなか縁側プロジェクト非認識者 229 件、合わせて 454 件である。

②リビング caféENGAWA の認識者と非認識者の意識を確認する。

図表 5-30 リビング caféENGAWA を知っている 図表 5-31 リビング caféENGAWA を知らないから意識の差異が確認された項目 1 食糧品購買、2 日用品購買、4 病院、5 教育、6 仕事、8 居住地、10 友人交流、11 世代間交流、12 偶然の出会い、13 地域活動、14 自然はすべてプロジェクトの認識者平均値が非認識者の平均値を上回っていた。

施設・環境を要因に持つ項目 1、2、4 の平均値が認識者の方が高いことから、認識者は非認識者よりも芽室町の施設・環境の満足していることが見て取れる。生活環境を要因に持つ項目 5、6、8 から、認識者は自分の生活環境に良い印象を持っていると推測することができる。5 と 8 の項目から認識者は子育てをしている最中の世代だと考えることいえる。近隣交流を要因に持つ項目 9 は認識者と非認識者ともに平均値が「3」を下回っているが、項目 10、11、12 の認識者平均値が非認識者よりも高く、認識者の交流機会の多さと社交性の高さをうかがえる。立地を要因に持つ項目 13、14 から、プロジェクト認識者の地域活動への印象のよさ、良好な自然環境感への平均値が高いことが判明した。有効回答数はリビング caféENGAWA の認識者 230 件、リビング caféENGAWA の非認識者 217 件、合わせて 447 件である。

③マルチスペース縁側ひろばの認識者と非認識者の意識を確認する。

図表 5-32 マルチスペース縁側ひろば を知っている 図表 5-33 マルチスペース縁側ひろば を知らない から意識の差異が確認された項目 1 食糧品購買、2 日用品購買、4 病院、12 偶然の出会い、13 地域活動、14 自然、15 都会隣接はすべてプロジェクトの認識者平均値が非認識者の平均値を上回っていた。

施設・環境を要因に持つ項目 1、2、4 の平均値が認識者の方が高いことから、認識者は非認識者よりも芽室町の施設・環境の満足していることが見て取れる。近隣交流を要因に持つ項目 12 に意識の差異が確認され、認識者 2.94 非認識者 2.72 と認識者非認識 共に平均値が低いながらも認識者の方が知人友人と偶然に出会う場所があると考えていることが判明した。立地を要因に持つ項目 13、14、15 から、認識者の地域活動への印象のよさ、良好な自然環境感、また都会隣接の平均値が高いことが判明した。有効回答数はマルチスペース縁側ひろばの認識者 173 件マルチスペース縁側ひろばの非認識者 274 件、合わせて 447 件である。

	全体	男性	女性
認識者数	225	55	170
非認識者数	230	93	137
認識率	49.5%	37.2%	55.4%

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
認識者数	3	17	44	44	55	54	8
非認識者数	4	17	31	39	80	42	17
認識率	42.9%	50.0%	58.7%	53.0%	40.7%	56.3%	32.0%

	西	南	東	中央西	中央東
認識者数	19	69	72	24	41
非認識者数	18	57	93	28	34
認識率	51.4%	54.8%	43.6%	46.2%	54.7%

図表 5-1 まちなか縁側プロジェクト認識率

—	全体	男性	女性
認識者数	237	50	187
非認識者数	219	98	121
認識率	52.0%	33.8%	60.7%

—	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
認識者数	5	22	50	48	61	44	7
非認識者数	2	12	25	36	74	52	18
認識率	71.4%	64.7%	66.7%	57.1%	45.2%	45.8%	28.0%

—	西	南	東	中央西	中央東
認識者数	20	73	74	32	38
非認識者数	17	53	91	21	37
認識率	54.1%	57.9%	44.8%	60.4%	50.7%

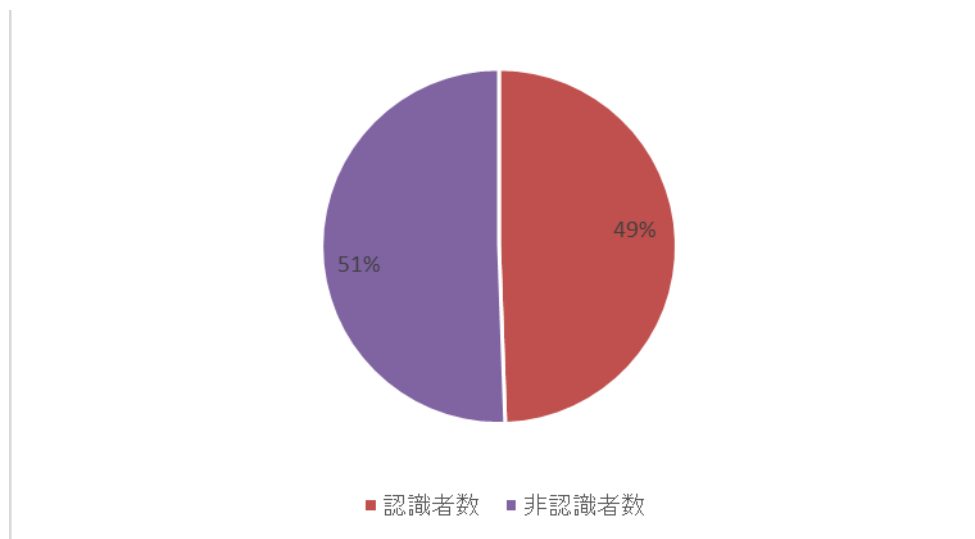
図表 5-2 リビング caféENGAWA 認識率

	全体	男性	女性
認識者数	178	46	132
非認識者数	278	102	176
認識率	39.0%	31.1%	42.9%

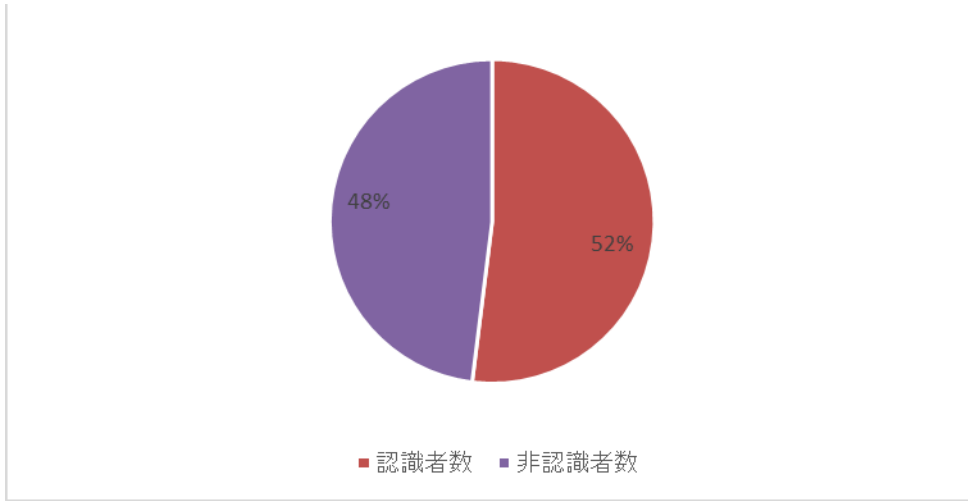
	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
認識者数	2	13	34	31	50	40	8
非認識者数	5	21	41	53	85	56	17
認識率	28.6%	38.2%	45.3%	36.9%	37.0%	41.7%	32.0%

	西	南	東	中央西	中央東
認識者数	16	53	53	23	33
非認識者数	21	73	112	30	42
認識率	43.2%	42.1%	32.1%	43.4%	44.0%

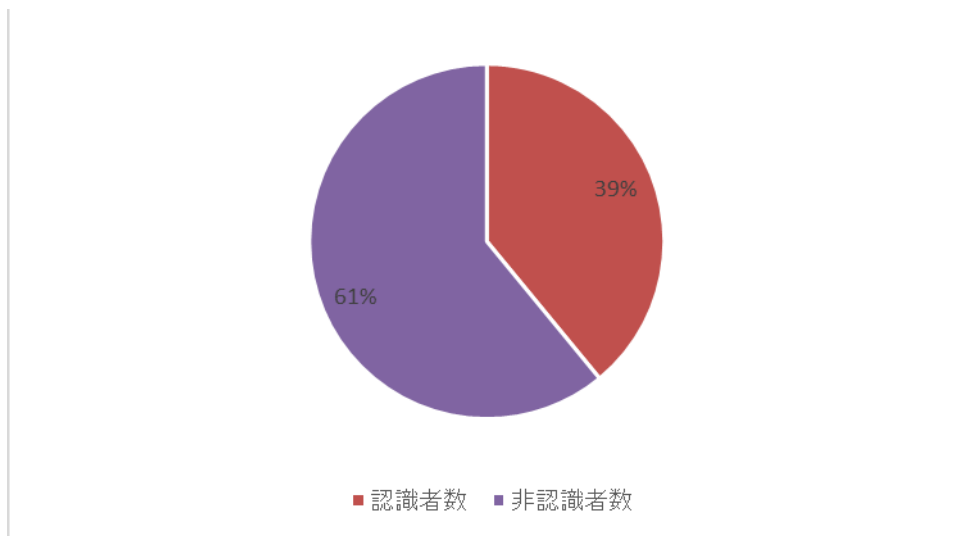
図表 5-3 マルチスペース縁側ひろば認識率



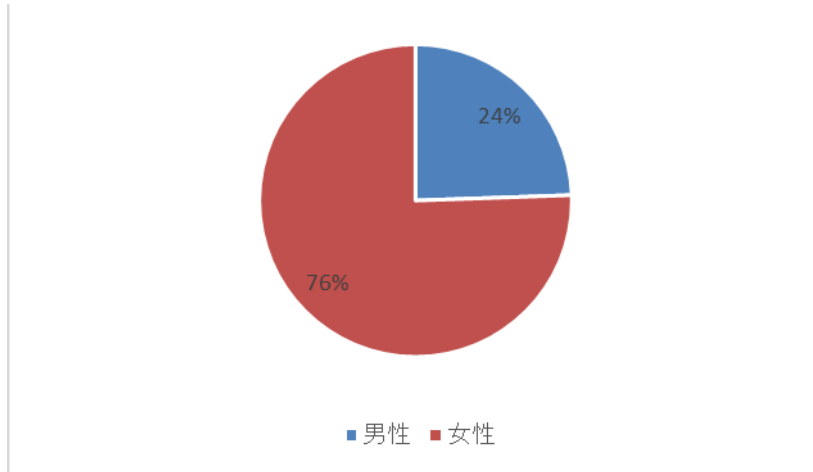
図表 5-4 まちなか縁側プロジェクト認識率



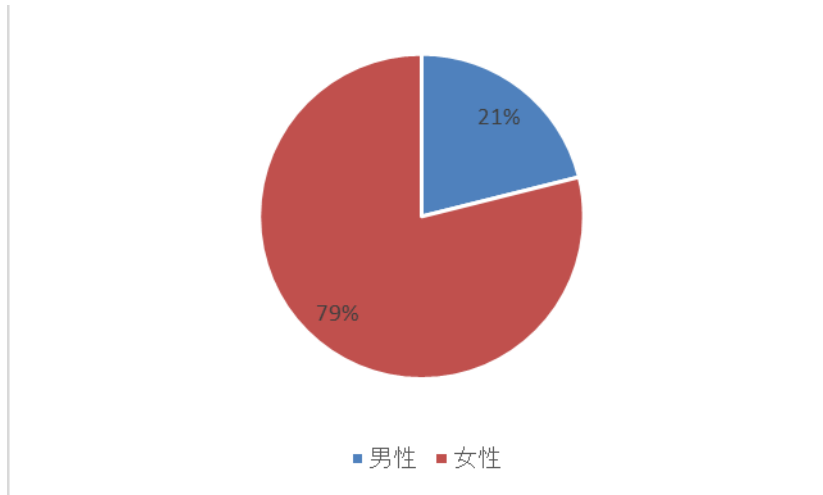
図表 5-5 リビング caféENGAWA 認識率



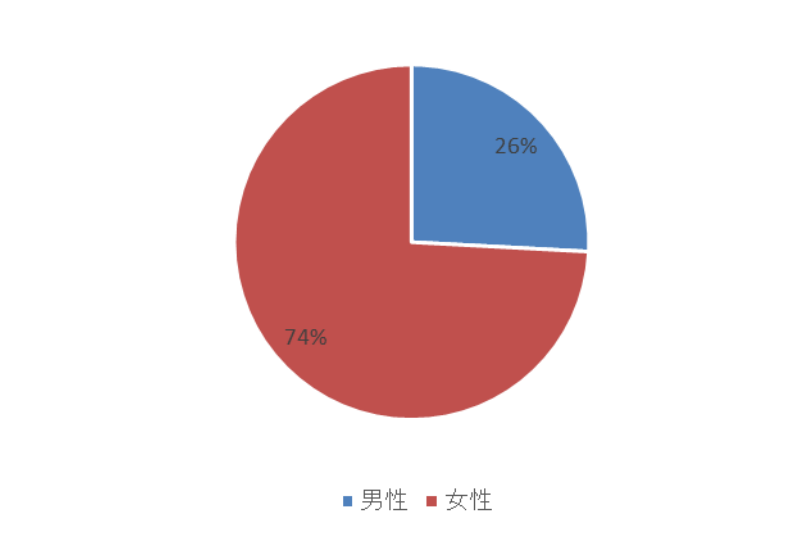
図表 5-6 マルチスペース縁側ひろば認識率



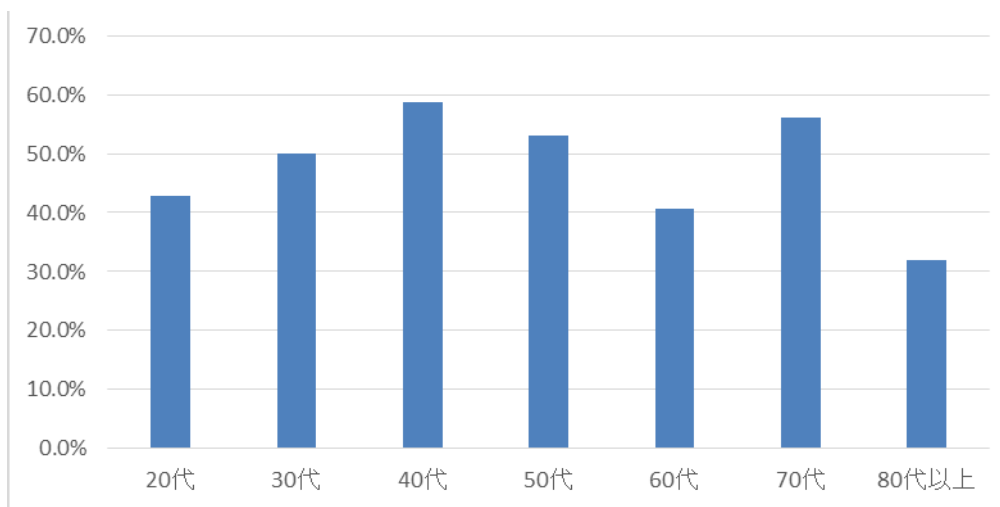
図表 5-7 まちなか縁側プロジェクト認識率



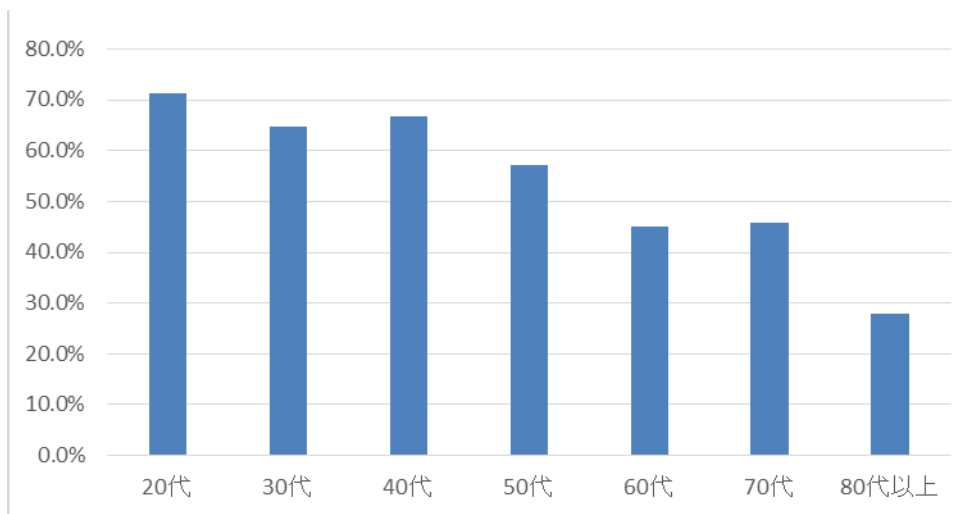
図表 5-8 リビング caféENGAWA 認識率



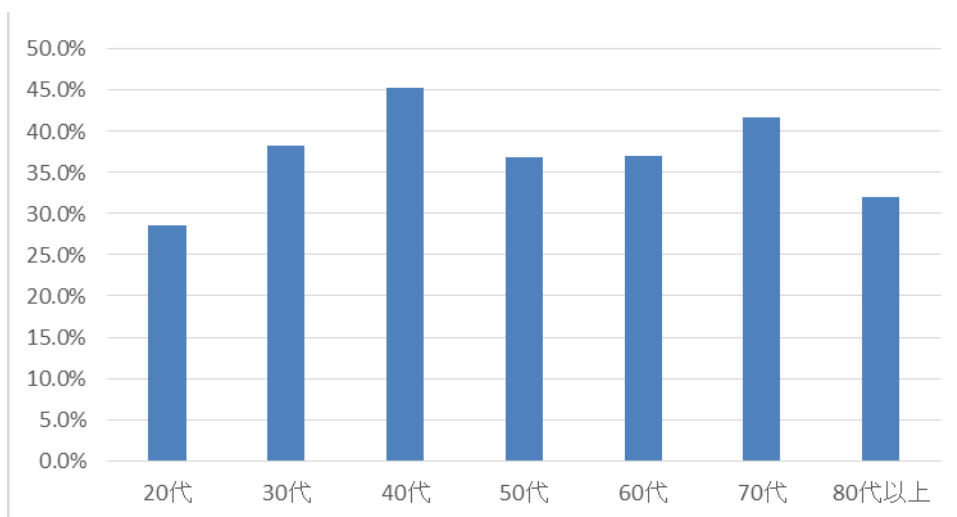
図表 5-9 マルチスペース縁側ひろば認識率



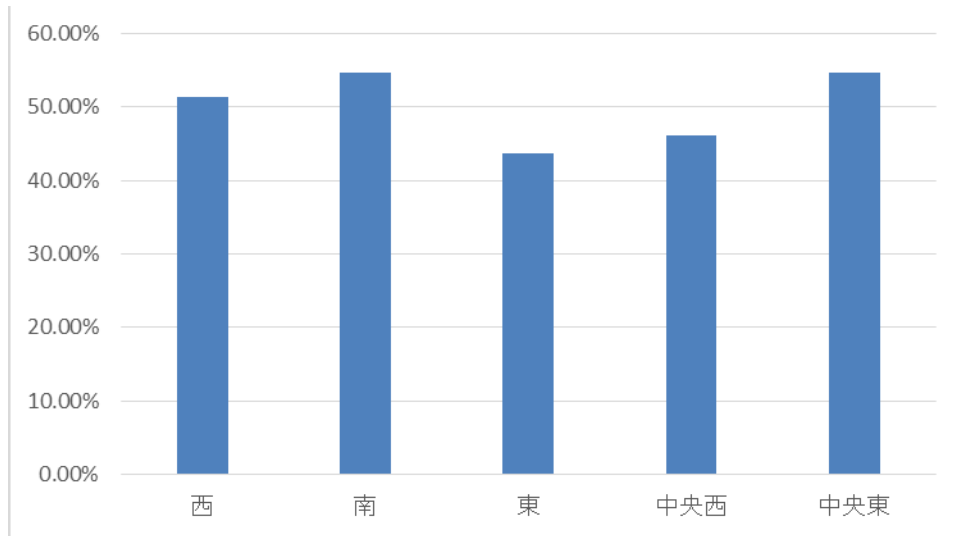
図表 5-10 まちなか縁側プロジェクト認識率



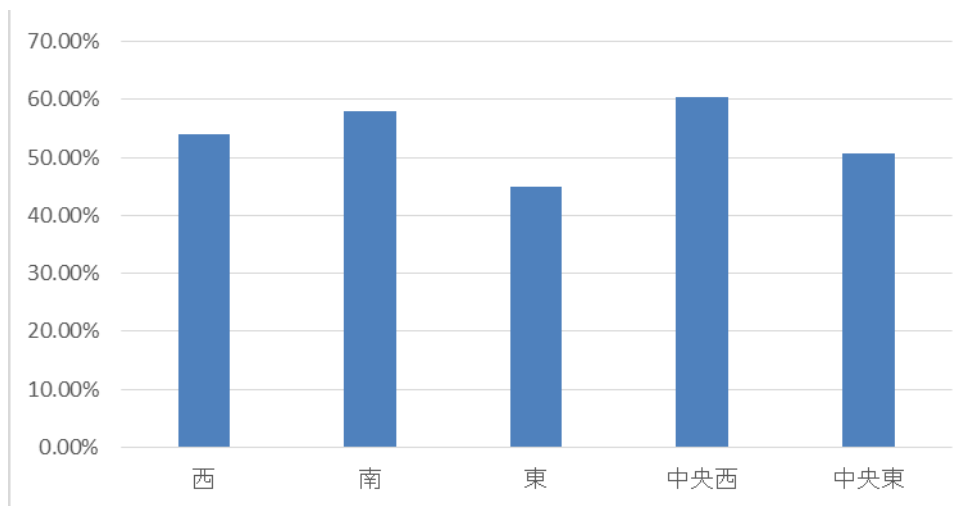
図表 5-11 リビング cafeENGAWA 認識率



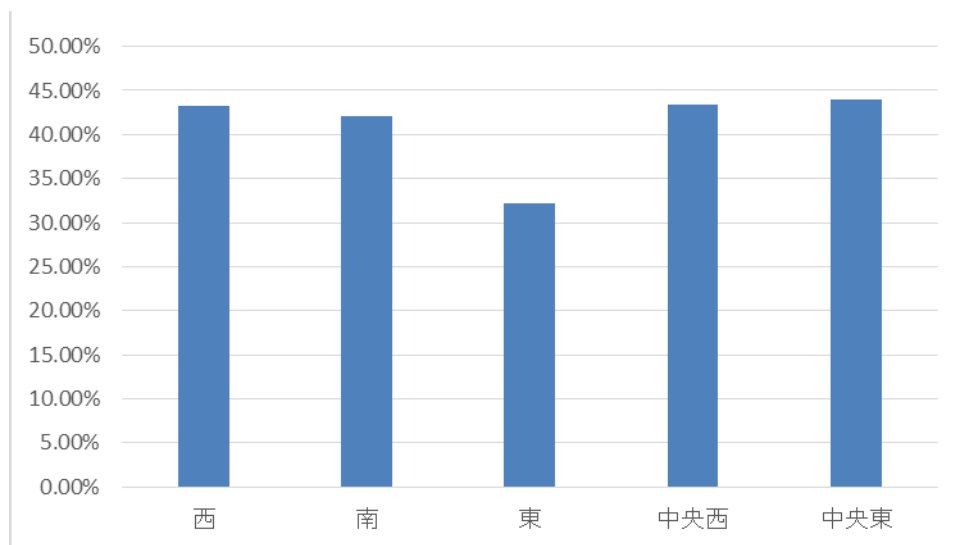
図表 5-12 マルチスペース縁側ひろば認識率



図表 5-13 まちなか縁側プロジェクト認識率



図表 5-14 リビング caféENGAWA 認識率



図表 5-15 マルチスペース縁側ひろば認識率

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	74	69	51	12	11	3.84
2	26	42	67	36	46	2.84
3	17	33	66	52	49	2.62
4	8	19	68	58	64	2.30
5	18	37	54	52	56	2.58
6	60	60	78	11	8	3.71
7	37	60	70	29	21	3.29
8	21	28	63	66	39	2.66
9	21	40	93	42	21	2.99
10	75	62	59	12	9	3.84
11	14	42	121	20	20	3.05
12	23	34	95	38	27	2.94
13	12	18	19	38	130	1.82
14	16	48	118	23	12	3.15
15	12	25	60	57	63	2.38
16	9	10	87	56	55	2.36

図表 5-16 まちなか縁側プロジェクトを知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	68	54	61	21	22	3.57
2	27	36	47	52	64	2.61
3	15	31	57	44	79	2.39
4	4	8	55	64	95	1.96
5	23	37	61	42	63	2.64
6	41	72	69	22	22	3.40
7	24	43	70	55	34	2.87
8	19	42	69	55	41	2.76
9	26	39	82	41	38	2.90
10	78	50	75	18	5	3.80
11	11	36	112	32	35	2.82
12	36	30	93	37	30	3.04
13	25	19	34	35	113	2.16
14	18	40	129	29	10	3.13
15	11	24	88	52	51	2.53
16	10	10	77	55	74	2.24

図表 5-17 まちなか縁側プロジェクトを知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	78	70	57	14	10	3.84
2	26	45	65	45	48	2.81
3	15	36	68	49	61	2.54
4	7	19	65	64	74	2.22
5	26	42	60	49	52	2.74
6	59	61	90	11	8	3.66
7	36	61	70	38	24	3.21
8	24	33	66	62	44	2.70
9	22	47	92	46	22	3.00
10	73	70	65	14	7	3.82
11	15	49	122	24	19	3.07
12	27	34	93	45	30	2.93
13	11	21	15	41	141	1.78
14	16	50	127	23	13	3.14
15	10	27	63	58	71	2.33
16	11	10	90	59	59	2.37

図表 5-18 リビング caféENGAWA を知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	64	54	55	19	23	3.54
2	27	34	49	43	62	2.63
3	17	28	55	47	68	2.44
4	5	8	58	58	86	2.01
5	15	32	55	45	68	2.45
6	42	71	58	22	22	3.41
7	25	42	71	46	31	2.93
8	16	37	66	59	37	2.70
9	25	32	83	37	38	2.86
10	80	42	70	16	7	3.80
11	10	29	111	28	37	2.75
12	32	30	96	30	27	3.05
13	26	16	39	32	102	2.22
14	18	39	120	29	9	3.13
15	13	23	85	51	43	2.59
16	8	10	74	52	71	2.22

図表 5-19 リビング caféENGAWA を知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	66	52	36	12	7	3.91
2	19	35	53	34	32	2.86
3	11	25	55	43	39	2.57
4	7	13	53	50	50	2.29
5	13	27	48	40	45	2.55
6	45	50	61	10	7	3.67
7	28	52	56	20	17	3.31
8	15	23	48	52	35	2.60
9	15	33	73	31	21	2.94
10	57	52	46	11	7	3.82
11	10	34	97	15	17	3.03
12	20	20	79	31	23	2.90
13	11	16	11	30	105	1.83
14	10	36	99	18	10	3.10
15	11	22	48	44	48	2.45
16	8	5	71	41	48	2.33

図表 5-20 マルチスペース縁側ひろば を知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	76	72	76	21	26	3.56
2	34	44	61	54	78	2.64
3	21	39	68	53	90	2.44
4	5	14	70	72	110	2.01
5	28	47	67	54	75	2.63
6	56	82	87	23	23	3.46
7	33	51	85	64	38	2.92
8	25	47	84	69	46	2.76
9	32	46	102	52	39	2.93
10	96	60	89	19	7	3.81
11	15	44	136	37	39	2.85
12	39	44	110	44	34	3.04
13	26	21	43	43	138	2.09
14	24	53	148	34	12	3.16
15	12	28	100	65	66	2.46
16	11	15	93	70	82	2.27

図表 5-21 マルチスペース縁側ひろば を知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	100	80	37	6	1	4.21
2	49	52	64	44	15	3.34
3	10	15	53	55	91	2.10
4	49	61	70	30	14	3.45
5	134	59	25	5	1	4.43
6	24	56	102	29	13	3.22
7	58	39	31	31	65	2.97
8	43	50	63	35	33	3.16

図表 5-22 まちなか縁側プロジェクトを知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	76	72	70	9	0	3.95
2	46	39	69	46	27	3.14
3	3	9	37	60	118	1.76
4	43	46	79	40	19	3.24
5	95	60	55	10	7	4.00
6	28	33	100	45	21	3.01
7	38	29	36	32	92	2.51
8	32	41	50	39	65	2.72

図表 5-23 まちなか縁側プロジェクトを知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	98	84	43	10	1	4.14
2	45	54	65	50	22	3.21
3	8	20	57	50	101	2.08
4	53	62	73	34	14	3.45
5	134	64	32	5	1	4.38
6	27	54	108	35	12	3.21
7	55	36	35	35	75	2.83
8	43	51	59	43	40	3.06

図表 5-24 リビング caféENGAWA を知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	78	68	64	6	0	4.01
2	50	37	68	41	20	3.26
3	5	4	33	65	109	1.75
4	40	45	76	36	19	3.24
5	95	56	48	10	7	4.03
6	25	35	94	40	22	3.00
7	41	32	32	28	83	2.63
8	32	40	54	31	59	2.79

図表 5-25 リビング caféENGAWA を知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	76	62	32	6	1	4.16
2	34	41	55	37	10	3.29
3	8	12	44	41	72	2.11
4	37	48	57	23	12	3.42
5	99	49	25	3	1	4.37
6	19	44	81	21	12	3.21
7	39	30	25	26	57	2.82
8	37	40	42	29	29	3.15

図表 5-26 マルチスペース縁側ひろば を知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	100	90	75	10	0	4.02
2	61	50	78	54	32	3.20
3	5	12	46	74	138	1.81
4	56	59	92	47	21	3.30
5	130	71	55	12	7	4.11
6	33	45	121	54	22	3.05
7	57	38	42	37	101	2.68
8	38	51	71	45	70	2.79

図表 5-27 マルチスペース縁側ひろば を知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	126	63	26	4	1	4.40
2	107	74	32	2	5	4.25
3	4	7	39	66	104	1.82
4	77	79	45	17	2	3.96
5	67	78	63	9	3	3.90
6	24	54	113	22	7	3.30
7	31	73	103	13	0	3.55
8	52	98	63	6	1	3.88
9	26	46	62	39	47	2.84
10	43	58	62	31	26	3.28
11	0	7	58	93	62	2.05
12	23	51	81	44	21	3.05
13	32	78	70	31	9	3.42
14	89	81	43	5	2	4.14
15	30	73	67	29	21	3.28
16	58	72	67	17	6	3.72

図表 5-28 まちなか縁側プロジェクトを知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	93	74	38	15	6	4.03
2	87	70	46	12	11	3.93
3	4	8	37	58	119	1.76
4	64	66	49	33	14	3.59
5	48	74	86	11	7	3.64
6	18	40	117	38	13	3.05
7	24	77	96	23	6	3.40
8	44	87	83	9	3	3.71
9	23	32	54	44	73	2.50
10	31	44	64	39	48	2.87
11	4	1	45	85	91	1.86
12	19	23	73	63	48	2.57
13	21	51	91	41	22	3.04
14	60	84	66	14	2	3.82
15	29	53	78	35	31	3.06
16	53	75	70	18	10	3.63

図表 5-29 まちなか縁側プロジェクトを知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	126	69	31	2	2	4.37
2	110	79	35	2	4	4.26
3	4	7	36	66	117	1.76
4	76	82	50	17	5	3.90
5	67	81	71	8	3	3.87
6	22	56	125	20	7	3.29
7	29	82	103	16	0	3.54
8	55	103	66	6	0	3.90
9	26	47	58	44	55	2.76
10	42	57	68	35	28	3.22
11	0	7	55	97	71	1.99
12	26	52	81	50	21	3.05
13	32	85	74	31	8	3.44
14	91	87	45	5	2	4.13
15	33	68	71	32	26	3.22
16	60	80	65	19	6	3.73

図表 5-30 リビング cafeENGAWA を知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	94	68	33	17	5	4.06
2	85	65	43	12	12	3.92
3	4	8	40	59	106	1.82
4	65	63	45	33	11	3.64
5	48	71	79	12	7	3.65
6	20	38	106	40	13	3.06
7	26	68	97	20	6	3.41
8	41	82	81	9	4	3.68
9	23	31	58	40	65	2.57
10	32	45	59	35	46	2.92
11	4	1	49	81	82	1.91
12	16	22	73	58	48	2.54
13	21	44	88	41	23	3.00
14	58	78	65	14	2	3.81
15	26	58	75	32	26	3.12
16	51	68	72	16	10	3.62

図表 5-31 リビング caféENGAWA を知らない

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	98	47	26	2	0	4.39
2	85	55	30	1	2	4.27
3	5	6	32	48	82	1.87
4	62	56	38	15	2	3.93
5	51	58	53	9	2	3.85
6	17	42	95	16	3	3.31
7	24	58	80	11	0	3.55
8	38	84	50	0	1	3.91
9	22	32	45	30	44	2.76
10	30	47	51	23	22	3.23
11	1	6	42	76	48	2.05
12	13	40	63	38	19	2.94
13	24	61	56	25	7	3.40
14	64	69	33	6	1	4.09
15	22	61	54	20	16	3.31
16	41	66	44	18	4	3.71

図表 5-32 マルチスペース縁側ひろば を知っている

項目	5	4	3	2	1	平均
	人数					
1	122	90	38	17	7	4.11
2	110	89	48	13	14	3.98
3	3	9	44	77	141	1.74
4	79	89	57	35	14	3.67
5	64	94	97	11	8	3.71
6	25	52	136	44	17	3.09
7	31	92	120	25	6	3.43
8	58	101	97	15	3	3.72
9	27	46	71	54	76	2.61
10	44	55	76	47	52	2.97
11	3	2	62	102	105	1.89
12	29	34	91	70	50	2.72
13	29	68	106	47	24	3.11
14	85	96	77	13	3	3.90
15	37	65	92	44	36	3.08
16	70	82	93	17	12	3.66

図表 5-33 マルチスペース縁側ひろば を知らない

T 検定結果

生活および購買意識について

まちなか縁側プロジェクトを
知っている、知らない

1	.010	*
2	.061	
3	.032	*
4	.000	**
5	.752	
6	.002	**
7	.000	**
8	.510	
9	.276	
10	.621	
11	.008	**
12	.485	
13	.007	**
14	.742	
15	.172	
16	.223	

リビング café ENGAWA を
知っている、知らない

1	.010	*
2	.164	
3	.351	
4	.037	*
5	.017	*
6	.017	*
7	.015	*
8	.986	
9	.164	
10	.866	
11	.001	**
12	.277	
13	.000	**
14	.876	
15	.016	*
16	.176	

マルチスペース縁側ひろばを
知っている、知らない

1	.002	**
2	.089	
3	.284	
4	.008	**
5	.571	
6	.057	
7	.001	**
8	.152	
9	.913	
10	.925	
11	.068	
12	.230	
13	.044	*
14	.053	
15	.873	
16	.533	

生活における行動・意識について

まちなか縁側プロジェクトを
知っている、知らない

1	.001	**
2	.085	
3	.000	**
4	.054	
5	.000	**
6	.034	*
7	.001	**
8	.000	**

リビング café ENGAWA を
知っている、知らない

1	.129	
2	.068	
3	.000	**
4	.055	
5	.000	**
6	.041	*
7	.166	
8	.039	*

マルチスペース縁側ひろばを
知っている、知らない

1	.087	
2	.408	
3	.003	**
4	.266	
5	.003	**
6	.107	
7	.371	
8	.006	**

芽室町に関する意識について

まちなか縁側プロジェクトを
知っている、知らない

1	.000	**
2	.000	**
3	.498	
4	.000	**
5	.005	**
6	.005	**
7	.054	
8	.029	*
9	.007	**
10	.001	**
11	.020	*
12	.000	**
13	.000	**
14	.000	**
15	.049	*
16	.363	

リビング café ENGAWA を
知っている、知らない

1	.000	**
2	.000	**
3	.482	
4	.012	*
5	.013	*
6	.008	**
7	.101	
8	.005	**
9	.132	
10	.015	*
11	.329	
12	.000	**
13	.000	**
14	.000	**
15	.382	
16	.236	

マルチスペース縁側ひろばを
知っている、知らない

1	.000	**
2	.001	**
3	.200	
4	.013	*
5	.136	
6	.010	
7	.135	
8	.011	
9	.268	
10	.037	
11	.050	
12	.040	*
13	.004	**
14	.028	*
15	.048	*
16	.657	

第6章 大麻地区との比較

この章では北海道江別市の大麻地区で実施したアンケートと、芽室町で実施したアンケートで比較調査をした。

芽室町での調査目的と調査手法に関しては第4章の冒頭4-1の(1)で述べたとおりである。

大麻地区での調査目的は、大麻地区の住民に対して、どのような購買行動をしているのか、食料品等の買い物はどこで行っているのか、大麻地区についてどのように感じているのかを知る目的で調査を実施した。アンケート調査期間は平成26年12月15日～12月21日(7日間)であり、15町に調査員を派遣した。有効回答数は1189件である。調査手法は訪問面接調査で実施した。訪問面接調査とは、調査員が回答者と直接対面して回答する調査である。アンケートでわからない部分がある場合、直接調査員に質問できる利点がある。しかし、難点として費用と時間がかかるという問題がある。調査員は江別シルバー人材センターに委託した。

調査対象者を選定するサンプリング法には無作為抽出法と有意抽出法があり、比較対象の大麻における訪問面接調査は有意抽出法によるものである。有意抽出法の欠点としては、選定した標本が統計的に評価できないことが挙げられる。そのため一般には郵送調査が行われる。

6-1 芽室町の回答者と大麻地区の回答者の意識の違いを確認する

今回芽室町でとったアンケートでは5段階のLikert尺度法を採用しているが、大麻地区のアンケートでは、4段階のLikert尺度法を採用している。

(1) アンケート結果の差異

項目7、12、14で芽室町の回答者と大麻地区の回答者の意識に違いがあることが判明したが、そのほかの項目では、ほとんど違いはみられなかった。

項目7の店舗選択において、芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、近隣の商店より、遠方の大型店を利用する特徴がみられる。

項目12の自分主義において、芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、生活に対して豊かさを求めている特徴がみられる。

項目14の経済観念において、芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、貯蓄を増やす事に対する関心が低い特徴がみられる。

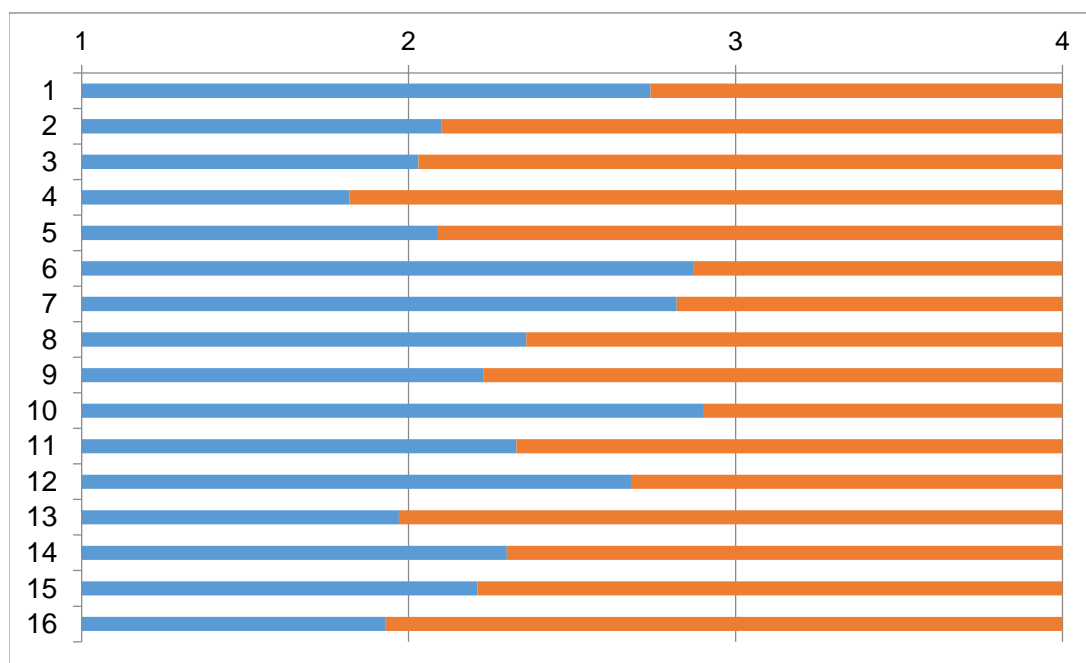
(2) 考察

項目 7 において芽室町の回答者は大麻地区の回答者と比べ、消極的購買の特徴が見られた。

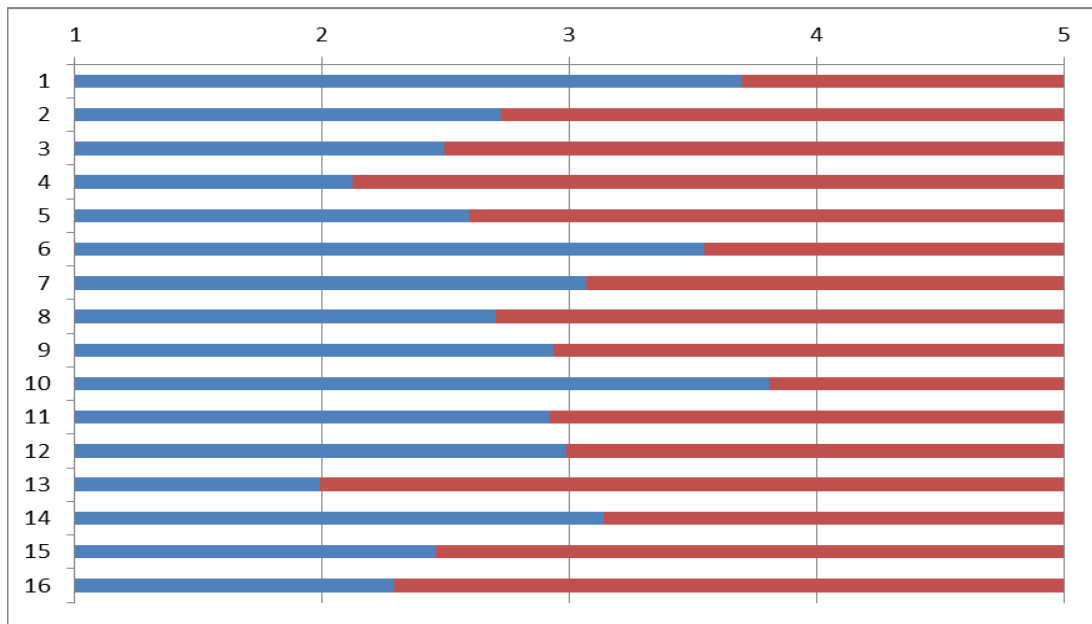
芽室町の回答者は、近隣の店舗に対して大麻地区の回答者ほど利用していないと考えられる。芽室町は近隣の店舗を住民が認知していないためにこのような結果になったと推測できる。

項目 12 において芽室町の回答者は大麻地区の回答者と比較して、充足追求が低い傾向がみられた。芽室町の回答者は豊かな生活を送ることに若干の執心があると推測できる。

項目 14 の経済観念において、芽室町の回答者は将来に対しての関心が低いという特徴がみられる。芽室町の回答者は大麻地区の回答者より貯蓄を増やし、安定した将来を過ごす事には関心がない傾向がある。項目 12 と項目 14 から、芽室町の回答者は貯蓄をし、将来の生活をより安定させることよりも、今の自分自身の生活を充実させる傾向があると推測できる。



図表 6-1 アンケート 1 においての大麻地区の平均値



図表 6-2 アンケート1 におけるの芽室町の平均値

要因	詳細要因	質問回答の尺度
情報指向性	(1) 受動的収集	5(4) 1 ← 高情報指向 → 低情報指向
	(2) 準拠集団	
	(3) 主体的収集	
	(4) 購買時収集	
購買態度	(5) 衝動買い	5(4) 1 ← 積極的購買 → 消極的購買
	(6) 品質重視	
	(7) 店舗選択	
	(8) 買いだめ	
優先動向	(9) 嗜好購買	5(4) 1 ← 強充足追求 → 弱充足追求
	(10) 儉約重視	
	(11) 友人との絆	
	(12) 自分主義	
社会・経済	(13) 社会楽観	5(4) 1 ← 弱将来関心 → 強将来関心
	(14) 経済観念	
	(15) 品質楽観	
	(16) 生活重視	

図表 6-3 アンケート1 の各項目の要因

6-2 芽室町の回答者と大麻地区の回答者の意識の違いを確認する

(1) アンケート結果の差異

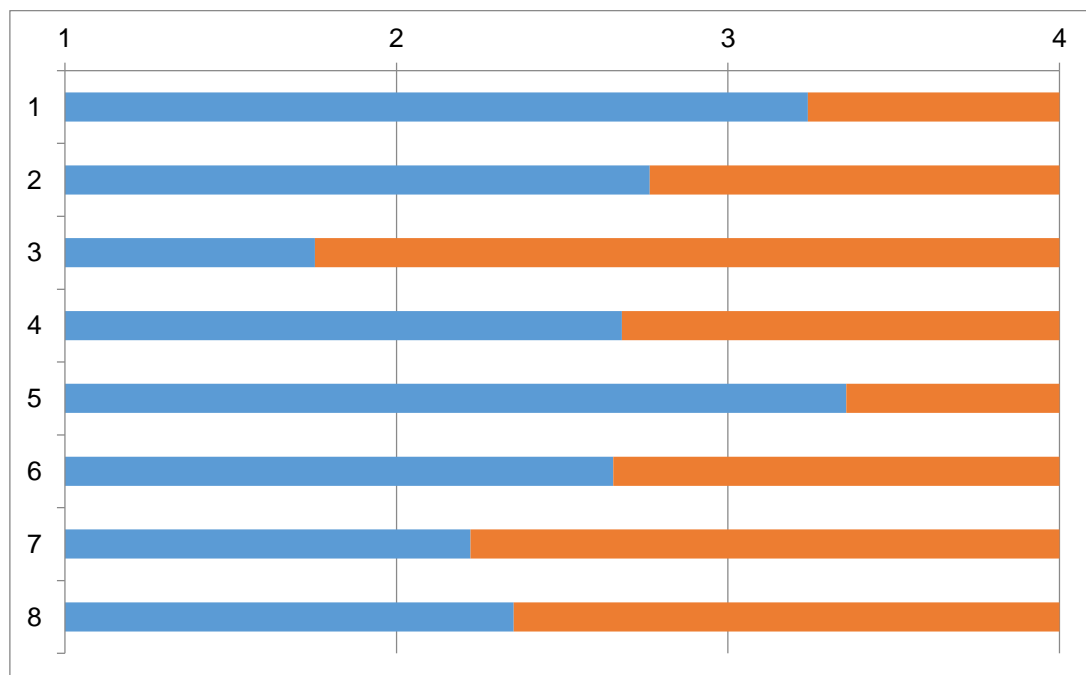
今回芽室町でとったアンケートでは5段階のLikert尺度法を採用しているが、大麻地区のアンケートでは、4段階のLikert尺度法を採用している。

回答者自身の意識に関する項目については全ての項目において特段違いはみられなかった。

- 項目1の食生活観において、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。
- 項目2の健康運動観において、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。
- 項目3の子供交流において、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。
- 項目4の共働きにおいて、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。
- 項目5の近隣交流において、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。
- 項目6の交流欲求において、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。
- 項目7の積極的交流において、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。
- 項目8の地域参加において、芽室町と大麻地区でほとんど違いがみられなかった。

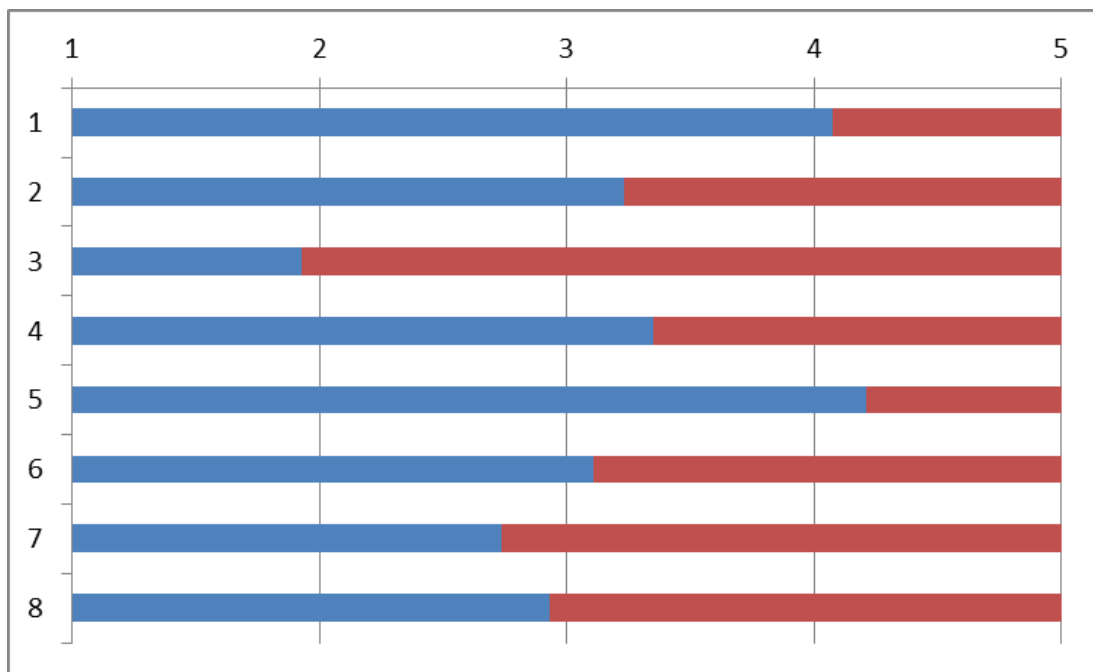
(2) 考察

このアンケート3に関しては芽室町の回答者と大麻地区の回答者でほとんど違いが見られなかった。住民意識は芽室町の回答者と大麻地区の回答者で共に同じ意識を持っていると



図表 6-4 アンケート3においての大麻地区の平均値

いって良いであろう。



図表 6-5 アンケート 3 におけるの芽室町の平均値

要因	詳細要因	質問票回答の尺度
健康	(1)食生活観	5(4) ←—————→ 1
	(2)健康運動観	高健康指向 低健康志向
子育て	(3)子供交流	5(4) ←—————→ 1
	(4)共働き	高子育て環境 低子育て環境
近所づきあい	(5)近隣交流	5(4) ←—————→ 1
	(6)交流欲求	積極的交流 消極性交流
地域活動	(7)積極的交流	5(4) ←—————→ 1
	(8)地域参加	地域積極 地域消極

図表 6-6 アンケート 3 の各項目の要因

6-3 芽室町の回答者と大麻地区の回答者の意識の違いを確認する

(1) アンケート結果の差異

芽室町の回答者と大麻地区の回答者の意識の違いを確認する。

今回芽室町でとったアンケートでは 5 段階の Likert 尺度法を採用し、同様に大麻地区のアンケートでも 5 段階の Likert 尺度法を採用している。

項目 3、11、12、15、で芽室町の回答者と大麻地区の回答者の意識に特徴があることが判

明した。しかし、そのほかの項目には、ほとんど違いはみられなかった。

項目 3 の専門品購買において、芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、専門品購買時の利便性が低いと感じている傾向がみられる。

項目 11 の世代間交流について、芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、世代間の交流機会が少ないと感じている傾向がみられた。

項目 12 の偶然の出会いにおいて、芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、若干高い特徴がみられた。芽室町は大麻地区に比べ、友人知人と偶然出会う機会が多いと回答者は感じているとみられる。

項目 15 の都会隣接において、大麻地区の回答者は芽室町の回答者に比べ、地域に対する関心が高い傾向がみられた。

(2) 考察

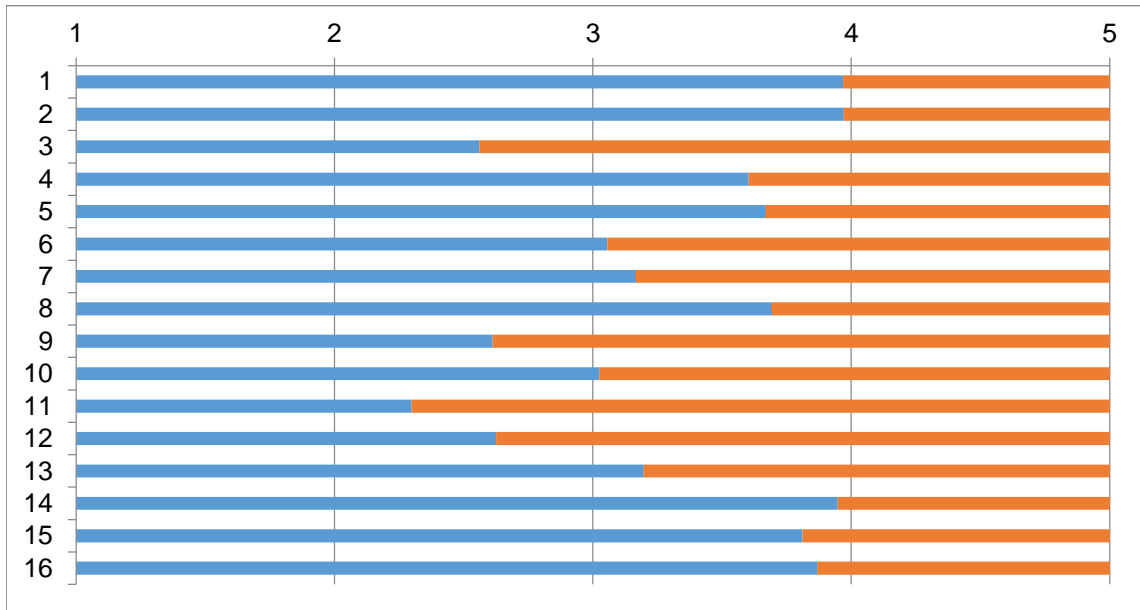
項目 3 の専門品購買において芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、専門品の購買において便利ではないという特徴がみられる。専門品店は芽室町にもあるため、芽室町の回答者は大麻地区の回答者に比べ、近隣の専門品店をあまり認知していない傾向があると推測する。芽室町の専門品店は住民に対して上手く周知活動ができていないと推測する。

項目 11 において芽室町の回答者は世代を超えた交流ができる場所がないと感じていると推測できる。

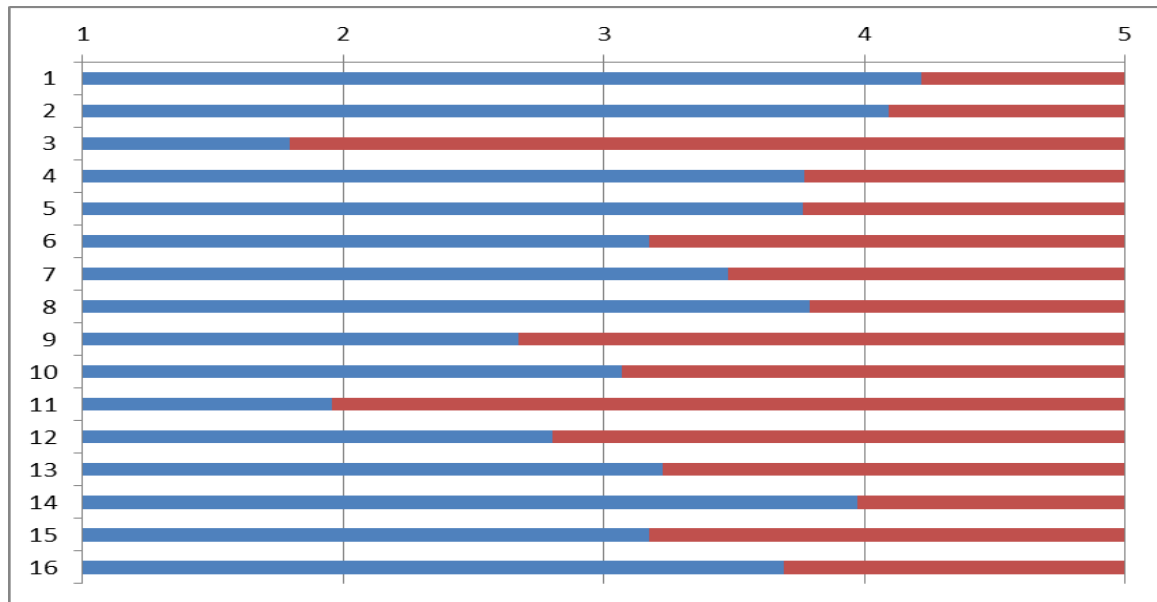
項目 12 において芽室町の回答者は友人・知人と偶然出会う場所が大麻地区よりも若干多いという結果が出た。

項目 11 と項目 12 の特徴から、要因の近隣交流において、芽室町の回答者は、友人や知人等と出会う機会はあるが、世代を超えた交流ができる場所が少ないと感じていると推測できる。

項目 15 において、芽室町の回答者は大麻地区の回答者と比較すると、地域に関する関心が低いことが結果として出た。都会隣接という詳細要因から考察すると、大麻地区は大都市札幌の近郊に位置していることにより、大型商業施設が近いためこのような結果に至ったと推測できる。芽室町の近郊には大型商業施設がないことからより大麻地区との差がついたと考察する。



図表 6-7 アンケート 5 においての大森地区の平均値



図表 6-8 アンケート 5 においての芽室町の平均値

	詳細要因	質問回答の尺度
施設・環境	(1)食糧品購買	5 ←————→ 1
	(2)日用品購買	
	(3)専門品購買	高環境利便性 低環境利便性
	(4)病院	
生活環境	(5)教育	5 ←————→ 1
	(6)仕事	
	(7)高齢者	高生活環境 低生活環境
	(8)居住地	
近隣交流	(9)休息	5 ←————→ 1
	(10)友人交流	
	(11)世代間交流	多交流機会 低交流機会
	(12)偶然の出会い	
立地	(13)地域活動	5 ←————→ 1
	(14)自然	
	(15)都会隣接	高地域関心 低地域関心
	(16)散策	

図表 6-9 アンケート5の各項目の要因

第7章 芽室町にて行った視察からの報告

本報告書の作成にあたり、芽室町において9月9日から9月12日までの4日間、視察および取材を行った。芽室町内のほか、芽室駅、めむろ一ど、リビング café ENGAWA、コミュニティバス（じゃがバス）などを視察した。取材内容としては、商店街の利用状況、じゃがバスの利用状況、かつて芽室町に存在したミニ FM 局「STATIONBEAT」についてなどが挙げられる。また、東めむろ第4地区の町内会長との懇談や、まちなか縁側プロジェクトのメンバーとの意見交換も行った。この章では、この視察および取材の内容から記述する。

7-1 中心商店街への視察・取材から

芽室町中心部には本通商店街、東一条通商店街、メープル通り商店街の3つの商店街があることは、第3章で記述した通りである。本節では、商店街への視察および取材から分かったことを記述する。

(1) 視察を行った感想

まずここでは、視察を行った我々の感想から述べていく。感想については以下の通りである。

- 空き店舗が目立ち、店舗間が遠い
- 中が見えづらい店舗が多く、中に入るのがためられる
- 入店時の挨拶がない店が多い

空き店舗についての問題は、まちなか縁側プロジェクトなどが対策を行っているが、現状として問題が解決されているとするのは難しい。また店舗間が遠いという点については、客が目的の店に行くついでに、他の店に入るといったことが難しくなるのではないかと考える。なお、メープル通り商店街は、店と店の間に事業所などが入っているところも多く、店舗間が遠い一因となっている。

中が見えづらい店舗が多く、中に入るのがためられるという点については、すでにその店に入ったことのある客は店内に入りやすいが、その店に入ったことのない人々は店内に入りにくい。したがって、新たな利用客を獲得することが難しくなるのではないかと考える。

入店時の挨拶がない店が多いという点については、入店時に「いらっしゃいませ」などの挨拶がないと、客は開店していないのかといったことや、自分が来店することに対して、店は歓迎していないのではないかという思考が強まり、自然と店を避けるのではないかと考える。

(2) 芽室町民の商店街に関する意識

今回、複数の芽室町民に対して、商店街に関する意識を取材した。その結果、以下のようことがわかった。

- 日常的に商店街を使う町民はあまりいない
- 普段の買い物で多くの町民はスーパーを利用する
- 商店街の中では酒屋を利用する町民が比較的多い
- 100円商店街や年金サービスデーなどのイベントの際は利用しやすい

日常的に商店街を使う町民はあまりいないという点については、今回取材した町民のうち、日常的に商店街を利用すると答えた町民はほとんどおらず、商店街に対する馴染みの薄さがうかがえた。

普段の買い物でスーパーを利用する町民が多いという点については、特に生鮮食品の買物はスーパーが圧倒的に便利であり、そのためにスーパーを利用するという声があった。実際、商店街で生鮮食品を扱う店は少なく、こうした買い物客のニーズに、商店街としては応えられていないのが現状であると考えられる。

商店街の中では酒屋を利用する町民が多いという点については、酒屋の配達システムを利用することが一因と考えられる。

100円商店街や年金サービスデーなどのイベントの際は利用しやすいという点であるが、先にめむろ100円商店街および年金サービスデーについて述べる。めむろ100円商店街は芽室町商工会が企画し、平成24年から行われているイベントで、商店街の各店舗が100円で商品を販売するものである。²⁷年金サービスデーは芽室町商店街連合会が企画し、平成25年から行われているイベントで、年金需給日に商店街の各店舗でポイントカードのポイント割り増しや値引きなどを行うものである。²⁸これらのイベントは商店街活性化のために行われているものであり、取材からは一定の効果があったことがうかがえる。

(3) 商店街店舗の店主・店員の意識

今回、3つの商店街から商店、呉服店など複数の店舗に取材を行った。各店舗の店主・店員の話から、以下のようなことがわかった。

²⁷ 「十勝毎日新聞社「商店街全体が100円ショップに」(平成24年7月7日)を参照
<http://www.tokachi.co.jp/news/201207/20120707-0012990.php>

²⁸ 「十勝毎日新聞社「初の年金サービスデー 15日、芽室町商店会連合会」(平成25年4月13日)を参照
<http://kachimai.jp/article/index.php?no=187384>

- 若年層の商店街利用者はほとんどいない
- 利用者との結びつきを強くしたいと考えている店が多い
- 店が各々で努力していこうという意識が強い
- 後継者がいる店は少ない

若年層の商店街利用者がほとんどいないことについては、複数の店主・店員が証言していた。商店街の利用者は店を古くから利用している常連の町民が多いようで、新規の利用者を獲得できていない状況は商店や商店街自体の衰退に大きく影響していると言える。なお、リビング café ENGAWA に関しては若年層、特に学生の利用が多いようである。

利用者との結びつきを強くしたいと考えている店が多いという点については、多くの店は現在の状況を、利用者側との距離が広がっていると、その距離を縮めたいと考えている。しかし、現状距離を縮めることができているのは常連客のみであり、他の利用者との距離はなかなか縮めることができていないようである。

店が各々でがんばろうという意識が強いという点については、複数の店が協力して商店街を運営していこうという意識は薄く、あくまでも個々の店でがんばろうという意識が強いようである。

後継者がいる店が少ないという点については、一般的には店主の血縁者などが後継者となるが、血縁者、特に自分の子息には無理に店を継がせないとした店主が多かった。後継者の不足は、店だけでなく商店街そのものの存続に関わる問題だといえる。なお、意欲のある者であれば、店と直接関係がなくても店を継がせて良いと話した店主もいた。

(4) 商店街の問題点

上述した取材内容から、芽室町の商店街について、我々は 3 点の問題があると考え。以下、その問題について述べる。

- 商店街と町民との間にある壁の問題
- 後継者の問題
- 商店街の活用方法の問題

商店街と町民との間にある壁の問題については、商店街の店舗側は町民との距離が広がっていると考えており、また町民側に対する取材からも、商店街に対する馴染みはあまりないことがうかがえる。このことから、商店街と町民の間には壁が存在し、普段の商店街の利用に大きな影響を与えていると推測する。この問題を解消するには、町民に商店街への親しみを持ってもらい、町民に普段から商店街を利用してもらえよう工夫が必要だと考える。

後継者の問題については、第 3 項で述べた通り、商店街の店舗のうち、後継者がいる店

舗は少ないと思われ、そうした店舗は近い将来、閉店することが確実視される。このように、後継者がいないまま閉店する店舗が増えると、必然的に商店街の店舗数が減ることになり、商店街自体の存続に関わることになる。

商店街の活用方法の問題については、芽室町民の多くは買い物にはスーパーを利用しており、現在の商店街ではこの状況を覆すことは難しいのではないかと考える。そこで、商店街を利用する上でのメリットを作り、それにより町民の商店街の利用を促すことはできないかと考える。

7-2 ミニ FM 局「STATIONBEAT」とライブストリーミングについて

芽室町にはミニ FM 局「STATIONBEAT」が存在していたが、事前調査の段階でその実態をつかむことはできなかったということは、第 3 章で述べたとおりである。本節では、取材から分かった「STATIONBEAT」の運営実態について述べる。また、「STATIONBEAT」運営末期に、インターネット配信による放送が検討されていたことから、インターネット配信の現状についても述べる。

(1) ミニ FM 局「STATIONBEAT」について

「STATIONBEAT」は、平成 12 年から平成 19 年までの間、芽室町に存在していたミニ FM 局である。NPO 法人として、町内の有志によって運営されており、番組のパーソナリティも有志が行っていた。当初は、商店街の店舗を利用し、不定期に放送を行っていたが、後に芽室駅構内にスタジオを構え、そこから週 6 回の放送を行っていた。また、ビアガーデンなどのイベントも開催していた。放送内容は番組のパーソナリティによるところが大きく、個人の趣味に関する内容を内容とした番組から、商店街や商工会に関する内容の番組も行っていた。

コミュニティ FM 局として総務省の認可は受けていなかったが、放送開始から数年間は、コミュニティ FM 局と同等の出力で電波を発信していた。そのため、認可が下りていない状態での放送が問題となり、以降出力を下げ、ミニ FM 局として放送を行っていた。総務省への認可申請については、予算やスタジオの大きさなどの都合上、行うことは出来なかった。

主な聴取者は運営者である有志の知人・友人などのほか、地元の若者にも知名度があったようである。また、商店街の店舗においても、店内放送として「STATIONBEAT」を流していたところもあった。しかし、出力を下げ、ミニ FM 局として放送を行っていたころは、その受信可能エリアの狭さから、聴取者はほとんどいなかったという。運営最終年には、インターネット配信による放送も検討されていたが、当時はインターネット配信がそれほど普及しておらず、実現することはなかった。

(2) インターネットによるライブ配信（ライブストリーミング）

インターネットを通じて、映像や音声をリアルタイムで配信することを、ライブストリーミングと呼ぶ。ライブストリーミングは、パソコンやマイクなどの機材とネット環境があれば誰でも配信が可能であり、受信もインターネット環境があれば誰でも可能である。コミュニティ FM として放送を行う場合、総務省の認可を受ける必要があるが、ライブストリーミングの場合は認可等の必要はなく、機材の面においても、アンテナなど大掛かりな放送機器を使用しない。したがって、ライブストリーミングはコミュニティ FM 放送に比べ、非常に簡単に行うことができる。

(3) ライブストリーミング配信のプラットフォーム（配信サイト）

ライブストリーミングを行う際の、プラットフォームとなる配信サイトは多数存在する。その中でも、ポピュラーであると思われる配信サイトをここでは挙げる。

① Ustream(ユーストリーム)

Ustream は、平成 21 年にアメリカで設立されたライブ配信サイトで、Ust(ユースト)の略称で知られている。平成 26 年 8 月の段階で、日本における月間の視聴者数は約 550 万人である。²⁹配信は、無料の利用登録を行えばすぐに可能で、また視聴者側は、利用登録を行わなくても視聴が可能である。なお、月額 9,800 円の有料会員に登録することで、配信画面に表示される他の広告を非表示にする機能や、配信した番組をアーカイブとして保存する機能が利用できる。視聴画面の横に表示されている「ソーシャルストリーム」と呼ばれるコメント機能は、Twitter や Facebook と連携することができ、そのコメントを利用することにより配信者と視聴者による双方向のコミュニケーションが可能となっている。

② ニコニコ生放送

ニコニコ生放送は、ドワンゴが運営する動画サービス「niconico」のサービスの一つである。ニコ生の略称で知られ、月間の視聴者数は約 315 万人である。³⁰配信は、niconico 自体が行う「公式生放送」のほか、「ユーザー生放送」「チャンネル生放送」の 3 種類がある。「ユーザー生放送」は、niconico の有料会員であれば誰でも配信ができる。「チャンネル生放送」は、niconico のサービスの一つで企業や団体が niconico 内に開設する「ニコニコチャンネル」のチャンネルごとに行う。Ustream 同様、配信に対してコメントを残すことができるが、コメント自体は SNS との連携は出来ない。なお、配信ページの URL を SNS で公開することは可能である。

③ TwitCasting(ツイットキャスティング)

²⁹ 「movieTIMES 「ライブ配信動画の効果的な使い分け」(平成 27 年 10 月 2 日)を参照
<http://www.movie-times.tv/study/how-to/6070/>

³⁰

//

TwitCasting はモイ株式会社が運営するライブ配信サービスで、ツイキャスの略称で知られている。平成 22 年から運営されており、総ユーザー数は 1,000 万人を超える。配信は専用アカウントだけでなく、Twitter アカウントや Facebook アカウントからも可能であり、また専用のアプリを利用することにより、スマートフォンからも配信が行える。配信に対するコメントも Twitter や Facebook との連携が可能である。

(4) ライブストリーミングのメリット

コミュニティ FM による放送と比較して、ライブストリーミングには以下のようなメリットがある。

- 広範囲での受信が可能
- 音声に限らず、映像も配信可能
- SNS との連携が可能

広範囲での受信が可能という点については、コミュニティ FM の場合、電波の最大出力は 20 ワットであり、その電波を受信できる地域でしか聴取できないが、ライブストリーミングの場合、インターネット環境があればどこでも受信が可能である。したがって、ライブストリーミングではコミュニティ FM の放送を受信できない地域にも、コンテンツをアピールすることができる。

音声に限らず、映像も配信可能という点については、コミュニティ FM の場合は音声のみの放送であるが、ライブストリーミングでは、映像も配信が可能である。したがって、ライブストリーミングでは放送時の模様を配信することや、配信に登場した人や物を映像で視認できることにより、視覚的な演出が可能である。

SNS との連携が可能という点については、コミュニティ FM の場合、SNS でその内容を宣伝しても、興味を持った人々が実際に聴取するためにはラジオ受信機で周波数を合わせるなどの行動が必要になるが、ライブストリーミングの場合は SNS で内容などの宣伝をする投稿と共に、ライブストリーミングのリンクを公開することによって、投稿を見た人々はそのリンクから簡単に配信を視聴することができる。また、ライブストリーミングを見た人々は SNS でリアルタイムに感想を投稿することができ、その内容を番組内において出演者が言及することもできる。

(5) ライブストリーミング事例：のっぽろ七丁目放送局

のっぽろ七丁目放送局は、平成 21 年 4 月から配信されている Ustream のチャンネルである。「地域を元気に！」というスローガンの下、地域に密着した放送を行っている。この項は、のっぽろ七丁目放送局に対して行った取材から、そのポイントと運営におけるポイントを記述する。

① 概要

江別市から放送されており、Ustream における現在までの総視聴回数は 65,000 回を越える。³¹放送時間は毎週水曜日の 19 時 00 分からの約 2 時間で、現在 6 つの番組が放送されている。³²また、不定期で特別番組も放送している。

番組の運営は技術スタッフ 3 人とパーソナリティが行っており、それらは全てボランティアによるものである。また、スタッフが所有している江別市内のスタジオにて放送を行っており、そのスタジオの機材を使い配信を行っている。そのため、配信に掛かる費用は Ustream における有料会員の会員費のみとなっている。配信用の機材はパソコンにミキサー、カメラ 1 台、照明などで総額は 100 万円弱である。なお、スタジオ外での撮影の際は、カメラを 3 台ほど使用するという。一度の放送における最高視聴者数は 700 人で、タレントや政治家などの著名人が出演すると視聴者が増えるようである。週 1 回の放送は発足以降一度も欠かさず行われており、年末年始などは録画により放送を継続している。このように、放送を継続して行うことにより、現在では情報発信手段としての認知も少しずつなされている。

② 運営スタッフの声

今回、のっぽろ七丁目放送局の運営スタッフに行った取材から分かった、運営におけるポイントを記述する。

- 放送はあくまで「ゆるく」行う
- 商業化はしない
- 居心地が良いために参加し続ける人が多い

放送を「ゆるく」行うという点については、現在の七丁目放送局の大きな持ち味となっており、今日まで運営を続けられた理由の一つでもあるという。過去には、番組の編成会議を行い、番組の更なるクオリティの向上を図ろうとした。しかし、会議を重ねた結果、しっかりと決められた番組内容よりも、肩の力を抜いた「ゆるい」番組を放送したほうが良いという結論になり、現在の番組内容になったという。

商業化はしないという点については、現在のところ、七丁目放送局は収益を得ておらず、また今後も収益を得ようとは考えていないという。これは、商業化すると、現在のようなボランティアによる運営は難しく、また持ち前の「ゆるさ」も失われてしまうのではない

³¹ 「のっぽろ七丁目放送局 on USTREAM」(平成 27 年 9 月 29 日)を参照

<http://www.ustream.tv/channel/%E3%81%AE%E3%81%A3%E3%81%BD%E3%82%8D%E4%B8%83%E4%B8%81%E7%9B%AE%E6%94%BE%E9%80%81%E5%B1%80>

³² 「番組&パーソナリティ紹介 | のっぽろ七丁目放送局」(平成 27 年 9 月 29 日)を参照

http://nopporo7tv.com/program_info/

かという運営スタッフの考えによるものである。

居心地が良いために参加し続けるが多いという点については、七丁目放送局が持つ雰囲気が良いことが、運営に参加し続ける理由であるというスタッフが多くいた。今までスタッフ間での衝突や亀裂が走ったことはなく、七丁目放送局が長続きしている一因として、この雰囲気の良さという面が挙げられる。上述した「ゆるさ」も、雰囲気を良くする一因になっているといえる。

7-3 コミュニティバス（じゃがバス）についての視察・取材から

じゃがバスは、平成23年より運行されている芽室町のコミュニティバスである。芽室町内の停留所69ヶ所を約1時間30分で運行する。停留所のうち、芽室駅前や公立芽室病院前など、町民の多くが利用すると予想される場所は一度の運行で複数回停車する。運行本数は1日5本で2時間おきに発車、始発は8時00分に、終発は16時00分にそれぞれ発車する。運賃は、高校生以上が100円、小中学生が50円、小学生未満は無料となっている。また、11枚綴りの回数券が高校生以上1,000円、小中学生500円で販売されているほか、運転免許を返納した65歳以上の芽室町民には無料乗車券が発行されている。

本節では、じゃがバスの利用者、およびじゃがバスの運転手に対する取材から、じゃがバス利用の問題点について述べてゆく。

(1) じゃがバスを利用する芽室町民

今回、複数人のじゃがバス利用者、およびじゃがバスの運転手に取材を行った。その結果、以下のようなことが分かった。

- 70代以上の高齢者が利用することが多い
- 男性よりも女性の利用者が多い
- 利用目的は公立芽室病院への通院や買い物で利用することが多い
- バスが来る時刻を覚えている利用者が多い
- 行きはじゃがバス、帰りはタクシーを使う利用者が多い
- 健康プラザ前、ピウカ公園前、日甜前から乗車する利用者が多い
- 東めむろ地区からの利用者は少ない
- 晴れの日よりも雨の日、夏よりも冬の利用者が多い

70代以上の高齢者が多いという点、および男性よりも女性の割合が多いという点については、運転免許を保有していない、または返納した高齢者が多いためと推測される。また、公立芽室病院を利用する高齢者が通院の際にじゃがバスが便利であることも、高齢者の利用者が多い要因のひとつと考えられる。取材した利用者も、その多くが病院の利用者であった。買い物時の利用者は、特にめむろ一どや、「めむろファーマーズマーケット愛菜屋」

へ買い物に行く際にじゃがバスを利用する町民が多く見受けられた。

バスが来る時刻を覚えているという利用者が多いという点については、本数が2時間に1本と規則性があることも、時刻が覚えやすい一因となっていると言える。

行きはじゃがバスを使い、帰りはタクシーを使うという利用者が多いという点については、自宅と目的地との往復の中で、2時間に1本というじゃがバスの運行間隔から、目的地から自宅へ帰る際に丁度良い時間のバスが無いためにタクシーを利用することが推測される。また、芽室駅前や公立芽室病院前など、複数回停車する停留所から自宅付近の停留所まで乗車する際は、バスの行き先が、利用者の自宅付近の停留所と異なる方面であることもあり、そのことを不安視する利用者が、自宅へ確実にたどり着くことができるタクシーを利用することが考えられる。

健康プラザ前、ピウカ公園前、日甜前から乗車する利用者が多い点については、健康プラザ前、およびピウカ公園前は近隣に町営住宅があり、そこに住む町民が多く利用しているものと思われる。また、日甜前は、日本甜菜製糖の社宅があり、その住民が利用しているものと思われる。

逆に、東めむろ地区からの利用者が少ない点については、東めむろ地区には若年層が多く住んでいることから、出かける際にはじゃがバスを使わず、自家用車を使うことが多いのではないかと推測する。

天候の面で、晴れの日よりも、雨など天候の悪い日のほうが利用者は多く、また夏よりも冬のほうが利用者は多いという点については、天気良ければ徒歩や自転車を使い出かける町民が、天気の悪い日にはじゃがバスを利用することが多いためと推測される。なお、夏場のじゃがバスの利用者は1日で平均50～60人、冬場の利用者数は1日で平均100～120人ほどであるという。

(2) じゃがバス利用の問題点

第1項にて記述した取材からは、じゃがバスの現状について、利用者はおおむね満足している様子であった。しかし、じゃがバスの利用に際して、我々は3点の問題があると考えられる。以下、その問題について述べていく。

- 運行間隔の問題
- 終発時間の問題
- 路線の分かりやすさの問題

運行間隔の問題については、第1項で述べた通り、じゃがバス利用者の中には、往路ではじゃがバスを利用し、復路ではタクシーを利用する町民がおり、その理由の一つとして、2時間に1本という運行間隔から、復路では丁度良い時間のバスが無いのではないかと考える。したがって、利用者は現在の運行間隔に満足していないと推測する。なお、これらの

利用者は、復路において丁度良い時間のバスがある場合、復路においてもじゃがバスを利用する可能性が高いと考えられる。

終発時間の問題については、16時00分の終発以降にじゃがバスを利用したいという町民がおり、同様に考えている町民が多くいるのではないかと推測する。特に、夕方以降の天候が厳しくなる冬場は需要が高いのではないかと考える。

路線の分かりやすさの問題については、第1項で述べた通り、芽室駅前や公立芽室病院前などから出発する場合に、バスの行き先が分からない町民がいるのではないかと考える。また、インターネット上などで公開されている路線図も、一見分かりにくいものとなり、町民が路線を理解しにくい一因になっているのではないかと考える。なお、これらの町民も、行き先が理解できているとじゃがバスの利用頻度が高くなるのではないかと考える。上記3点の問題を解消することにより、じゃがバス利用者の満足度はさらに高まり、町民の利用頻度もさらに高まるのではないかと考える。

7-4 めむろ新嵐山スカイパークへの視察から

めむろ新嵐山スカイパークは、芽室町中心部から南に12キロほど進んだ場所にある施設で、国民宿舎「新嵐山荘」のほか、オートキャンプ場、スキー場、パークゴルフ場などを擁している。

本節では、めむろ新嵐山スカイパークへの視察から分かったことを述べる。

(1) めむろ新嵐山スカイパークの施設

国民宿舎「新嵐山荘」は、客室は洋室が12室、和室が5室の計17室、2つのレストラン「スカイパーク」「コロポックル」のほか、浴場は大人270円、小人140円で日帰り入浴も楽しめる。

オートキャンプ場は、車を横に駐車してキャンプを行えるオートサイトの区域が25ヶ所、一般的なフリーサイトの区域がテント75張分ある。また、管理棟にはシャワー室もあり、利用者は快適にキャンプを行うことができる。

スキー場は全7コースで、スキー初心者から、中・上級者まで幅広く楽しむことができる。クロスカントリーコースや、ロッジ横には子供向けのソリ専用コースも設置されている。スキーのシーズンオフには、頂上は展望台として開放されており、十勝平野を一望できる絶景スポットとして親しまれている。夏季には期間限定で「とちかち天空カフェ in 芽室」というイベントを開催しており、町内外からの注目を集めている。

パークゴルフ場は9ホールのコースが4つ、計36ホールあり、これらのコースを無料で利用することができる。³³

³³ 「めむろ新嵐山スカイパーク | 国民宿舎 新嵐山荘」(平成27年9月25日)を参照
<http://shin-arashiyama.jp/>

(2) とちかち天空カフェ in 芽室について

とちかち天空カフェ in 芽室は、平成 25 年から新嵐山スカイパークの展望台にて行われているイベントである。夏季の一定期間、展望台に臨時のカフェを設置し、利用者は飲食を楽しむことができる。平成 27 年度は、11 時 00 分から 15 時 00 分はカフェタイムと称し、サンドウィッチなどの軽食とドリンクが提供された。また、開催期間中の 3 日間は 30 席限定で星空ディナーと称し、ビュッフェやアルコールが提供された。提供される料理の材料は芽室産のものを中心とした地元食材が使用されている。開催期間中は新嵐山スカイパークの第 2 駐車場から展望台までのシャトルバスが運行されており、また星空ディナーの開催時には JR 芽室駅前からの送迎バスが運行されている。³⁴

(3) 新嵐山スカイパーク利用の問題点

今回、新嵐山スカイパークを視察した結果から、新嵐山スカイパークのさらなる周知や利用に際して、我々は 3 点の問題があると考えます。以下、その問題について述べていく。

- アクセスの問題
- 展望台への道の問題
- Wi-Fi の問題

アクセスの問題については、本節冒頭で述べたとおり、新嵐山スカイパークは芽室町中心部から約 12 キロ離れている。スキー場開場期間や天空カフェの開催時は送迎バスの運行があるが、それ以外の期間では公共のバスは通っておらず、自家用車を所有していない利用者が新嵐山スカイパークへ向かう方法はレンタカーやタクシーが主となる。レンタカーやタクシーを利用する場合、利用者の経済的負担が大きくなるため、自家用車を利用しない人々は、新嵐山スカイパークへの足が遠のいてしまうのではないかと考える。

展望台への道の問題については、第 1 項で述べたとおり、新嵐山スカイパークの展望台は、十勝平野を一望できるスポットとして町外からも訪れる人が多い。しかし、展望台への道は、あまり舗装されていないように思われる。車で訪れる場合、道幅が狭く、待避所も数ヶ所にしかないため、道中で対向車とすれ違うことは困難を極める。また、道中はカーブが多く、対向車が近づいても直前まで見えない事が多い。カーブミラーが設置してある個所もあるものの、木陰に隠れ、意味をなしていないものもあった。このことから、展望台への道中で事故が起こる可能性があり、それにより展望台の観光に悪影響が出るのではないかと考える。

Wi-Fi の問題については、現在では多くの方がパソコンやスマートフォンなど、Wi-Fi と接続し使用することができる機器を持っており、それらを宿泊先でも使用したいと考える

³⁴ 「とちかち天空カフェ in 芽室 OPEN まであと 1 か月！ - 芽室町」(平成 27 年 9 月 25 日)を参照
<http://www.memuro.net/dairy/oshirase/H27/0617/cafe.html>

人が多いと考える。したがって、宿泊施設における Wi-Fi の需要は多いと推測する。しかし、新嵐山荘には現在のところ Wi-Fi 環境がなく、モバイル Wi-Fi ルーターを持参しない限り、宿泊者は Wi-Fi を使用することができない。そのため、宿泊先の Wi-Fi を使用したい人々は、新嵐山荘への宿泊を避けるのではないかと考える。

7-5 その他の視察・取材から

本節では、前述した内容以外に、視察および取材を行ったことを述べる。

(1) リビング café ENGAWA について

リビング café ENGAWA は、まちなか縁側プロジェクトが開設したフリースペースである。商店街活性化の一環として、改装した空き店舗を利用し、平成 27 年の 1 月から 3 月末までの間、フリースペースとしての運営のほか、イベントの開催場所としての提供を行ってきた。その後、4 月からは、イベント時のみの開放であったが、8 月 11 日より、再びフリースペースとして 10 時 00 分から 16 時 00 分の間、開放されている。

フリースペースとしては、主に小・中学生の利用が多く、その目的としては、待ち合わせ場所としての利用や学校から塾までの時間つぶし、ゲームのプレイスポットとしての利用が主で、特にゲームのプレイスポットとしては、リビングカフェ内に Wi-Fi が完備されていることから、通信機能を持ったゲームをプレイする人々の利用が多いという。リビングカフェ内は飲食物の持ち込みが可能であるという点や、管理人が常駐しているという点、外観がガラス張りのため外から中の様子が見える点などから、こうした小・中学生の利用に対して、リビングカフェは快適に、かつ安心して小・中学生が利用できる場所として存在している。小・中学生以外の利用も往々にしてあり、食事場所や読書の場所としても利用される。ガラス張りの外観から中に興味を持ち、利用するようになる人が多いという。また、利用者は管理人との会話の中から、情報を得るということもあるという。

リビングカフェで開催されるイベントは、フリーマーケットやマッサージの無料体験、ドーナツや駄菓子といった飲食物の販売など多岐にわたる。こうしたイベントの中には、実店舗を持つ店がリビングカフェに出張店舗を出すというものも多く、イベントで店の存在を知った人々は実店舗にも訪れやすくなるという効果もあることから、店舗と客との距離を縮める糸口になり得ると言える。

(2) 町内会について

芽室町には 48 の町内会があるということは第 3 章で記述した通りである。その中からここでは、東めむろ第 4 町内会を例に取り、町内会の活動内容について述べていく。

東めむろ第 4 町内会は、平成 22 年 4 月に設立された、芽室町の中でも新しい町内会である。東めむろ第 4 地区にある世帯のうち、82 世帯が加入しており、加入率は 90%を超えている。町内会としての活動は、4 月から 9 月までの間、月 1 回行われる公園の清掃や、廃品

回収ボックスの配置および保全、町内会の年間行事として、1月に行われる新年会、6月に行われる野遊会と、年2回のイベントの開催などが挙げられる。また、町内会の中に子ども会を置いており、子ども会でもクリスマス会などのイベントを行っている。その他、節目となる年には、周年記念行事も行っている。新年会や野遊会などのイベントには、毎回100人程度が参加するが、新規の参加者が少ないということが問題点として挙げられる。

第8章 本報告書の整理と提案

本報告書の整理と、調査、分析結果の考察をもとに、今後の芽室町中心市街地の活性化につながる対策を提案する。

8-1 本報告書の整理

4-4 町民の芽室町に関する意識についての調査報告と図表 4-66 芽室町全体の回答者平均値より、芽室町民の生活は比較的が良いことがわかった。図表は 4 の項目ごとに分類分けすることができる。項目 1,2,3,4 は施設の立地、項目 5,6,7,8 は生活環境、項目 9,10,11,12 は町民の交流の場、項目 13,14,15,16 は芽室町自体の立地と、分類分けが可能だ。実際の生活者の目線から芽室町が優れているとされたのは、項目 3 専門品購買以外の施設の立地、生活環境、芽室町自体の立地だと確認できた。また、劣っているとされたのは、項目 3 専門品購買と、町民の交流の場である。

以上のことから、芽室町は、洋服、家電製品などの専門品の買い物には便利ではない。そして、町民同士の交流の場がない、と町民が感じていることになる。つまり、この二点が芽室町民のニーズである。芽室町民が芽室町に求めているものがわかり、このニーズを中心市街地で満たすことができれば、町民を中心市街地に呼び込むことができるのではないかと考える。

また、4-3 芽室町民の生活における行動・意識についての調査報告と図表 4-50 芽室町全体の回答者平均値より、項目 5 近隣交流「近所の人とは世代に関係なく挨拶をしている。」の数値が非常に高いにも関わらず、項目 3 子供交流「地域の子どもたちを交流している。」という項目では低い数値を示していることがわかる。これは、挨拶をする浅い交流関係ではあるが、それ以上の深い交流関係はないのではないかと考察した。しかし、項目 6 交流欲求「近所の子どもや高齢者と交流したいと思っている。」の数値が平均値を超えているため、現状の浅い交流関係ではなく、もっと地域の人々と深い交流関係を築きたいと考えている町民が多いのではないかと。町民は挨拶以上に地域の人々と話しをしたり、一緒に遊んだり、趣味を共有できる人がほしいと望んでいるようである。以上のことから、現在の芽室町にはこういった人々が会する交流の場が不足しているものと考察する。

同じく、町民から劣っているとされている専門品購買であるが、実際の芽室町商店街には衣料品店 6 店、書店 3 店、家具店 3 店、電気店 2 店、寝具・畳店 2 店、靴・革店 2 店、時計・眼鏡店 1 店、スポーツ用品店 1 店³⁵と、決して少なくない店舗数がある。このことから、専門品購買に関しては、現状から店舗を増加させるなどの対策ではなく、商店街から町民への PR 次第で、町民の評価は変化するものだと考える。

第5章まちなか縁側プロジェクトについて、図表 5-16 まちなか縁側プロジェクトを知っ

³⁵ 「芽室町商店街です！」（平成 27 年 10 月 12 日）を参照

<http://www.memuro.net/syoutengai/map.html>

ている、図表 5-17 まちなか縁側プロジェクトを知らないより、まちなか縁側プロジェクトを認知している人々に高い情報指向が伺えた上、まちなか縁側プロジェクトを認知している人々は認知していない人々と比べ、芽室町を高く評価していることもわかった。このことから、芽室町に関心があり、よく知っている人々は芽室町を高く評価しているということがわかる。世間一般では、地域に関心を持ち、知ってしまうことで地域への評価が低くなる場合がある。地域に関心を持っている人の方が、評価が高いということは、もっと芽室町としては、アピールしていくべきだと考える。

8-2 芽室町内への情報発信の改善

以上のことから、現在の芽室町に必要なと考察したものは「芽室町内への情報発信の見直し」である。町民の関心を芽室町に向けることで、芽室町を高評価に捉える人が増加し、芽室町の中心市街地の活性化につながるのではないかと考える。そこで、芽室町内への情報発信の具体的対策として、インターネットによるライブ配信を活用したインターネットラジオを提案する。芽室町には以前「STATIONBEAT」というミニFMが存在していた。詳細については7-2(1)で記述している。当時は普及しておらず、配信が困難だったインターネットによるライブ配信も、昨今では様々な機能が普及しており、比較的手軽に開設できることから提案に至った。内容は徹底した地域密着を目的とし、中心市街地にとどまらず、芽室町に関する地域の重要な情報発信源として活用できるものとする。以前のミニFMについてはNPO法人の有志による運営と7-2(1)で前述しているが、今回のインターネットでのライブ配信は商店街が運用することに重点を置く。商店街自らが、地域密着を目的としたインターネットラジオの運営に関わることで、ラジオを通して町民たちと直接関係を築けることができる。また、商店街の人々自身の意欲向上につながるのではないかと考えた。さらに、近隣高校の放送局などからラジオのパーソナリティを採用することにより、新たな関係性を築け、若者が今後の商店街の運用に興味を持ってもらうきっかけになるのではないかと考える。

8-3 リビング café ENGAWA を新たな情報窓口として活用

5-1 まちばか縁側プロジェクトの認識率についてより、リビング café ENGAWA はマルチスペース縁側ひろばよりも認識度が高いことがわかった。このことから、リビング café ENGAWA を中心市街地の情報窓口として活用することを提案する。7-5(1)で前述している通り、定期的に様々なイベントを催しているため、イベント目的でリビング café ENGAWA を訪れる人も少なくないだろう。そういった人々に常に芽室町の情報を発信できるように、常に情報誌やフリーペーパーを設置するなど、情報発信地として活かすことはできないかと考える。視察でリビング café ENGAWA を訪れた際に、入り口すぐに空きスペースがあることに気がついた。そのスペースを情報発信の場として活用し、今までのフリースペースの場は従来通り使用できないだろうか。また、リビング café ENGAWA の利

用者層は若年層や、小中高生であることから、今後は高齢者層の獲得に力を注ぎ、より多くの年齢層への情報発信の場として活用していくべきだと考える。

8-4 商店街を交流の場として活用

芽室町商店街を、町民の世代間交流のきっかけ作りの場として活用することを提案する。前述したように、現在の芽室町には交流の場が十分ではない。このことから、芽室町では、町民が気軽に地域の人々と交流できる環境を作っていくことが求められていると考える。例えば、習い事などの教室の実施、まちゼミの活用、定期的なイベントの開催である。何れに関しても、定期的に行うということが重要である。イベントなども1回限りのものにするのではなく、定期的を開催することにより、町民に定期的に商店街へ足を運んでもらうことが目的である。イベントや習い事で足を運んでもらうことも、あくまで商店街を利用してもらう「きっかけ」作りにすぎない。商店街に足を運ぶ人が増加すれば、それだけ商店街に人が訪れ、活気ができる。多くの人、多くの年齢層が商店街に集うことで、そこから世代間の交流につなげることはできないかと考える。幅広い年齢層が楽しむことのできるイベントや習い事であれば、その催し物を通して町民同士の交流につながるのではないかと考察する。町民同士の交流の中心人物として商店街の人々が橋渡し役になることができれば、商店街の人々自身により親しみを持ってもらえるのではないかと考えられる。また、町民が求めている交流の場を商店街に置くことで、町民が商店街へ足を運び、今まで以上に商店街に親しみを感じてもらうことも重要である。町民に商店街への親しみを感じてもらう、商店街での購買活動のきっかけになれば中心市街地をさらに活性化させることができるのではないかと考える。

8-5 芽室町地図の作成

本章で前述したとおり、芽室町に関心があり、よく知っている人々は芽室町を高く評価しているということがわかった。このことから、より多くの町民が芽室町に関心を持つ必要があると考える。そのきっかけとして、わかりやすく見やすい芽室町地図の作成を提案する。本調査、視察で確認した芽室町の地図は、芽室町民以外を対象としたものが多く、町民向けに作成したと思われる商店街の地図は、見づらいものになっていると感じた。そのため、町民に関心を持ってもらうためには、芽室町民を対象にわかりやすく見やすい地図を作成することが重要だと考えた。地図をきっかけに、町民はこれまで住んでいた芽室町で新たな発見をし、より芽室町に関心を持つ。そして、他の市町村よりも芽室町自体に目を向けてもらう、ということが地図作成の目的である。例えば、小樽市の観光マップ³⁶図表 8-1 と留萌市館内で作成されているオロロンマップ³⁷図表 8-2 というものがある。小樽市

³⁶ 「おたるぼーたる 2015年度版小樽観光ガイドマップ」(平成27年10月9日)を参照
<http://otaru.gr.jp/guide-map/>

³⁷ 「るもい食楽歩 留萌管内手書きまっぷ」(平成27年10月9日)を参照
<http://www.rumoiclub.net/map/>

観光マップは2015年度版小樽観光ガイドマップ「すぐそこおたる」という名前である。名前の通り、小樽市を訪れる観光客用に作成されたもので、その用途に合わせて「ながめる」「めぐる」「ほおぼる」「もっとおたる」と、複数枚作成されている。そのため、とても見やすいものになっている。主要の道路と、観光地、観光地の詳細、細くなどが記載されている。芽室町では、観光客を対象としたものではなく、町民を対象としたものの作成を提案するため、日常生活に役立つものや、休日のちょっとした息抜きの間、そして町民がどこに行けばどのように地域の人々と交流できる場があるのか、といったものをわかりやすく見やすく、まとめるべきだと考える。また、オロロンマップの正式名称は、留萌館内8市町村観光マップ「オロロンマップ」である。留萌観光連盟が、各市町村が一目で分かるマップとして作成したもので、各市町村の観光公開を通じて、各市町村内で配布されている。また、各市町村の8枚のマップをつなげることができ、完成品は約3mにもなる。最大の特徴は、地図が手書きで書かれているという点である。手書きの地図は親しみやすさを感じ、地図でアピールしたい場所やものが特徴的に捉えられているというのが、利点ではないだろうか。これらの利点を最大限取り入れた芽室町オリジナルの地図を作成すれば、より多くの町民の関心を引くことができるのではないかと考える。



図表 8-1 小樽観光マップ「ながめる」



図表 8-2 留萌館内 8 市町村観光マップ「オロロンマップ」小平町

8-6 ジャがバスの改善

7-3 (2) ジャがバス利用の問題点より、ジャがバスについて 3 つの問題点を見ることができる。

- 運行間隔の問題
- 終発時間の問題
- 路線のわかりやすさの問題

以上 3 つの問題点を解決することができれば、利用者の満足度が高まり、更なる利用者の増加を見込めるのではないかと考える。そこで、各問題に対する対策案を提案する。

まずは、運行循環路の見直しを謀るべきだと考える。運行間隔の問題として、現在の運行間隔では芽室駅前や公立芽室病院前などの何度も往復路する区間を除き、2 時間に 1 本の運行となっている。往路ではジャがバスを利用し、復路ではタクシーを利用する、といった町民も確認できた。このことから、町民は運行間隔に不便を感じていると考える。これは、運行循環路に問題があるのではないだろうか。現在の運行循環路は始点から終点まで 1 本の循環路で芽室町内を全て回り切るものである。芽室駅前や、公立芽室病院前などは何度も往復路しているが、その他の地区は往復路することなく、往路のみで不便を感じると考察する。以上のことから、運行循環路の見直しが必要だと考える。

次に、終発時間の問題である。現在のジャがバスの終発時刻は 16 時だが、町民への取材から、16 時以降にもジャがバスを利用したいという町民がいることがわかった。また、アンケートの自由記述欄より、ジャがバスの運行時間について不便であると記述されていることから、運行時間に不満を感じている町民が少なくないと推測する。以上のことから、終発時刻を遅らせ、運航便を増加させる必要があるのではないかと考える。特に町民の需要は、冬季が高いとみられる。常時増便が運用側への大きな負担となるのであれば、冬季限定で増便させるなどの対策を考えてみてはどうだろうか。

最後に、路線についての問題点だが、現在町民へ配布している路線図は、ジャがバスの非利用者にはとても分かりにくいものとなっている。原因には、前述した運行循環路の問題も挙げられるが、路線図自体の色の使い方や、地図の書き方にも問題があると推測した。しかし、各停留所に設置されている標識の路線図は、地図が簡易化され、色分けもされておりとてもわかりやすく見やすいものになっている。この路線図を時刻表と共に町民へ配布することが可能であれば、町民がジャがバスに感じている障壁を取り払うことができるのではないかと考える。

以上の対策が実現できれば、ジャがバスの利用者が増加するものと考察した。さらに、本章で前述した芽室町地図の作成と組み合わせることで、町民にとってより利便性の高いものになると考える。

8-7 本章の整理

本章では、芽室町内への情報発信の改善、リビング café ENGAWA を新たな情報窓口として活用、商店街を交流の場として活用、芽室町地図の作成、じゃがバスの改善、といった 5 つの活性化対策案を提示してきた。全ての提案は、芽室町の中心市街地の活性化を促進するもので、町民の芽室町に求めるニーズに対応できるものである。各対策で、町民が中心市街地へ訪れるきっかけを作り、訪れた先で新たな交流の場を持ち、中心市街地や芽室町自体に関心と親しみを持ってもらうことで、中心市街地を活性化できるものとする。また、普段商店街などの中心市街地を訪れることの少ない町民は、中心市街地を訪れることに障壁を感じているものと推測する。中心市街地に訪れるきっかけ作りは心理的障壁を、交通の利便性の改善は物理的な障壁を取り払うことができるのではないかと考える。障壁を取り払うことで、より多くの町民が中心市街地に訪れる機会を増やすことができると考える。

本調査、取材から、芽室町民は平均的に芽室町にとっても関心があり、町に対し思案していることが多々あるとわかった。今後は町民や商店街の人々が、互いを意識し、互いの考えに耳を傾けることが重要だと感じた。

また、芽室町は少子化問題や若年層への対策や対応は十分に考えられているものだと感じた。今後は、高齢化社会問題への対策にも力を入れていくべきだと考える。

付属資料（アンケート調査票等）

まちなか縁側プロジェクト アンケートへのご協力をお願い

まちなか縁側プロジェクトは、調査、実証実験等を通じて、芽室町の新たな商店街像を考え、実現に向けてチャレンジすることを目的に、平成26年7月に発足しました。

商店会の方、商工会の方、消費者の方など、14人で構成され、事務局は、芽室町役場商工観光課・企画財政課・建設都市整備課です。

この度、プロジェクトとして町民の皆様のご意見を伺うため、別紙のとおりアンケート調査を実施することとなりました。

裏面に記載の記入方法をご覧ください、必要事項を記入のうえ、3月10日（火）までに返信いただきますようお願いいたします。

まちなか縁側プロジェクト 会長 武藤 憲護

<お問い合わせ先>

まちなか縁側プロジェクト事務局
芽室町商工観光課商工振興係
電話 62-9736

<アンケート記入方法>

アンケートは無記名であり、集計して取り扱います。回収したアンケート用紙は集計後、速やかに破棄いたします。慎重に取り扱いご迷惑がかからぬように十分に配慮をいたしますことを申し添えます。

1 アンケートの目的

本町においても高齢化が進行しており、今後はこれまで以上に、町民のみなさまにとって住みやすく、暮らしやすい「中心市街地」を考えていく必要があります。

このような考えのもと町民の皆様の住民意識（芽室町・中心市街地をどのように感じているか）、買い物に関する動向、まちなか縁側プロジェクトに関するご意見等を伺うため調査を行います。

2 注意点

- (1) 全ての項目について回答をお願いします。
- (2) アンケートはA3両面となっております。裏面についてもご回答いただきますようお願いいたします。
- (3) アンケート用紙は同封の返信用封筒をご利用いただき、3月10日(火)までにご回答ください。

すべての質問に回答してください。未回答がある場合、無効なアンケートになります。

1 食料品・日用品の買い物や生活に関する考え方などを教えてください。

※5段階評価でお答えください。	思う ← 思わない				
	5	4	3	2	1
(1) 買い物ではテレビコマーシャルやチラシを参考にしている。	5	4	3	2	1
(2) 購入に迷うときは友人・知人、クチコミを参考にする。	5	4	3	2	1
(3) 新商品が発売されると調べたり、詳しい友人に聞いたりする。	5	4	3	2	1
(4) 試食コーナーやお店の人とはよく話をしている。	5	4	3	2	1
(5) 欲しいと思ったら、予定がなくてもその場で買ってしまふ。	5	4	3	2	1
(6) 価格よりもメーカーや産地を重視している。	5	4	3	2	1
(7) 遠くの種類や量が豊富な店よりも、近くの店を利用する。	5	4	3	2	1
(8) 荷物が多くなったとしても、買いだめをしてしまふ。	5	4	3	2	1
(9) 好きなこと、好きなものにはお金を惜しまない。	5	4	3	2	1
(10) ムダな出費をしないことを常に心がけている。	5	4	3	2	1
(11) 友人・知人との付き合いやプレゼントにはお金を惜しまない。	5	4	3	2	1
(12) 貧しくなったとしても生活さえできればよい。	5	4	3	2	1
(13) 少子高齢化などの社会問題は、私には関係がない。	5	4	3	2	1
(14) お金をつかうことよりも貯蓄を増やすようにしている。	5	4	3	2	1
(15) 食の安全について、世間の人たちは気にし過ぎだ。	5	4	3	2	1
(16) 5年後は今よりも良い生活をしていると思う。	5	4	3	2	1

2 買い物場所と頻度を教えてください。()内はご記入をお願いします。

(1) いつも食料品を買っているお店を1~2つ教えてください。

ダイイチ めむろ店	フクハラ 芽室店	Aコープ めむろ店
帯広のお店		

上記以外の芽室町の商店 ()

(2) 日用品(掃除・洗濯・家庭用品など)を買っているお店を1~2つ教えてください。

ダイイチ めむろ店	フクハラ 芽室店	Aコープ めむろ店
ツルハ 芽室店	帯広のお店	

上記以外の芽室町の商店 ()

(3) 食料品の買い物に行く頻度を教えてください。

1. 月1回 2. 月2~3回 3. 週1回 4. 週2~3回 5. ほぼ毎日

(4) 食料品や日用品の買い物に、よく使う移動手段を教えてください(複数回答あり)。

1. 自分が運転する車 2. 家族が運転する車 3. 友人・知人が運転する車
 4. 徒歩、または自転車 5. タクシー 6. 十勝バス
 7. コミュニティバス(じゃがバス) 8. その他()

(5) 昨年、芽室駅周辺の商店街(フクハラさんを除く)で買い物や飲食をしましたか?

1. 週に1回以上 2. 月に2~3回 3. 月に1回程度
 4. 年に数回程度 5. 年に1回程度 6. ほとんどない/まったくない

3 あなた自身のことについてお聞かせください。

※5段階評価でお答えください。	思う ← 思わない				
	5	4	3	2	1
(1) 健康を考えた食事を心がけている。	5	4	3	2	1
(2) スポーツや適度に歩くなど、運動をしている。	5	4	3	2	1
(3) 地域の子どもたちと交流している。	5	4	3	2	1
(4) 十分な子育ては夫婦が共働きでもできると思う。	5	4	3	2	1
(5) 近所の人とは世代に関係なく挨拶をしている。	5	4	3	2	1
(6) 近所の子どもや高齢者と交流したいと思っている。	5	4	3	2	1
(7) サークルや趣味の集まりに参加している。	5	4	3	2	1
(8) 自治会・町内会の活動にはよく参加している。	5	4	3	2	1

4 以下の中であなたがお持ちのものを教えてください(複数回答あり)。

1. パソコン、またはタブレット 2. 携帯電話、またはスマートフォン
 3. FAX(ファックス) 4. 持っていない

5 芽室町について、どう思っていますか?

※5段階評価でお答えください。	思う ← 思わない				
	5	4	3	2	1
(1) 普段の食料品の買い物に便利である。	5	4	3	2	1
(2) 石鹸、シャンプーなどの日用品の買い物に便利である。	5	4	3	2	1
(3) 洋服、家電製品などの専門品の買い物に便利である。	5	4	3	2	1
(4) 病気やけがをしたときに必要な病院が近くにある。	5	4	3	2	1
(5) 子どもの教育に良いところだと思う。	5	4	3	2	1

(6) 働く人 に良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(7) 高齢者 が住みやすいところだと思う。	5	4	3	2	1
(8) 家族が生活する には良いところだと思う。	5	4	3	2	1
(9) 私には家の外で、 一人でくつろげる ところがある。	5	4	3	2	1
(10) 私には家の外で、 友人と話を楽しむ ところがある。	5	4	3	2	1
(11) 高齢者と子どもが話 をしているところをよく見かける。	5	4	3	2	1
(12) 知人・友人と 偶然出会う場所 がある。	5	4	3	2	1
(13) 道路沿いの 花壇作りや清掃 に多くの人が参加している。	5	4	3	2	1
(14) 自然を感じる ことができる街である。	5	4	3	2	1
(15) ショッピングセンターなどの 大型商業施設 まで近い。	5	4	3	2	1
(16) 散策 には良い街である。	5	4	3	2	1

6 あなたの**住む地区の満足度**は 10点満点で何点ですか？ () 点

7 あなたはこれから**ずっと今のところに住み続けたい**と思いますか？

- ずっと住み続けたい。
- いずれは移りたい。
- すぐに移りたい。
- なんとも言えない。

その理由として**主要なもの3つに“○”を付けてください。(1つでも2つでも結構です。)**

1. 仕事の関係から	6. 子どもの将来のため
2. 交通の便から	7. 買い物
3. 病院や介護施設から	8. 災害
4. 治安から	9. 土地への愛着
5. 隣近所との関係から	10. その他

()

8 あなたの**ことを**教えてください。あてはまる番号に“○”をつけてください。
また、() 内は**お手数ですがご記入**をお願いします。

(1) ご記入者の性別 は？	1. 男性 2. 女性
(2) ご記入者の年齢 は？	1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代 7. 70代 8. 80代 9. 90代以上
(3) 同居するご家族の人数 は？	あなたを含めて () 人の世帯
(4) 同居する ご家族の構成 は？	1. あなた1人、または夫婦2人で暮らす 1世代同居 2. 子ども、または親と暮らす 2世代同居 3. 祖父母から孫まで暮らす 3世代同居 4. その他 ()
(5) 中学生以下のご家族は いますか ？	1. 乳幼児 () 人 2. 小学生 () 人 3. 中学生 () 人 4. 中学生以下の子どもはいない。

(6) お住まい は？	1. 一戸建 2. マンション・アパート 3. その他 ()
(7) いつから芽室町に住 んでいますか？	1. 生まれたときから 2. 子どもの頃 3. 社会人になってから 上記で、 2、3と答えた方 にお聞きします。何年くらい前ですか？ 1. 10年未満 2. 10年～19年 3. 20～40年 4. 40年以上前
(8) 自家用車 についてお聞きします。	あなたは運転免許証をお持ちですか？ 1. 持っている 2. 持っていない 普段あなたは自家用車を運転していますか？ 1. 運転する 2. 運転しない あなたと同居している方で、自家用車を運転する方に“○”をつけてください(同居者がいなければ未記入でお願いします)。 1. 配偶者(夫または妻) 2. 子ども 3. 父または義父 4. 母または義母 5. 孫 6. その他 () (同居する家族全員) 自家用車は何台お持ちですか？ () 台

9 **まちなか縁側プロジェクト**についてお伺いします。

あてはまる番号に“○”をつけてください。

- (1) **まちなか縁側プロジェクト**を知っていますか？
1. 知っている 2. 知らない
- (2) 現在、プロジェクトではフリースペース『リビング caféENGAWA (本通3丁目)』及びマルチスペース縁側ひろば(東1条1丁目)を運営しています。両店舗についてご存じですか？
①**リビングcaféENGAWA** 1. 知っている 2. 知らない
②**マルチスペース縁側ひろば** 1. 知っている 2. 知らない
- (3) **リビングcaféENGAWA**及び**マルチスペース縁側ひろば**を利用したことがありますか？
①**リビングcaféENGAWA** 1. 利用した 2. 利用していない
②**マルチスペース縁側ひろば** 1. 利用した 2. 利用していない
- (4) **めむろのまちなか**にどのような機能・サービスがあったらいいと思いますか？
ご意見・ご要望などご自由にご記入ください。

()